

## II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	○	－	－
	○	商店街（代表者）	・今後、実質賃金が増えるようになれば、景気は良くなる。特に中小零細企業の動向が重要であり、そのためには消費税の減税や廃止が望まれる。
	○	商店街（代表者）	・今後については、観光客や地域住民の来街が増加する時期となるため、飲食、土産物、交通関連、遊興施設などでの売上増加が期待できる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・今後については、主力車種のうち2車種の受注が再開されることから、新車の受注が上向くと期待している。
	○	乗用車販売店（従業員）	・4月から車両取得時の環境性能割が廃止されることで、需要が高まるのが期待される。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・繁忙期になるにつれて、景気が少しずつ上向いてくることを期待している。ただし、今後に向けて、不透明な要素が多いことは気掛かりである。
	○	旅行代理店（従業員）	・今後については、教育関連行事や国際学会が予定されていることから、これらを中心に一定水準の収入が見込まれる。そのため、販売量は、前年と比較して、多少は上向いて推移することになる。
	○	美容室（経営者）	・今後については、灯油の消費量が大きく減少するため、客の来店頻度が3月よりも上向いてくると見込まれる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・ツアーなどの予約が好調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ数か月、同じような状況で推移していることから、しばらくは同様の状況が続くとみられる。
	□	一般小売店（経営者）	・中東情勢が落ち着くまで、景気は変わらないまま推移することになる。
	□	百貨店（売場主任）	・中東情勢の先行きが見通せないことから、現状のトレンドから回復するまで、しばらく時間が掛かることになる。
	□	百貨店（販売促進担当）	・雪解けが進むことで、今後の来道者数の増加は見込めるものの、燃料価格の高騰や生活必需品の値上げが続いていることから、景気回復にはまだ時間が掛かる。
	□	コンビニ（エリア担当）	・今後も商品の値上げが続くことが見込まれる。そのため、客の実質所得が増えない限り、消費は落ち込んでいくことになる。ただし、環境変化に対応した品ぞろえ、適正な価格設定を行うことで、業績は維持できると見込んでいる。
	□	コンビニ（エリア担当）	・消費者の賃金が上がったとしても、ガソリンを始め、様々な物の価格が上がっていることから、他の消費に金が回るとは考えにくい。そのため、今後も景気は変わらない。
	□	衣料品専門店（エリア担当）	・世界情勢が不安定なことで、身近な景気にも影響を及ぼすことが懸念される。そのため、今後も景気は変わらない。
	□	家電量販店（経営者）	・物価高に加え、燃料価格も高騰していることから、客の買い控え傾向が強まっている。ただし、エアコンや蛍光灯の2027年問題が浸透していることから、エアコンとLED照明の売上は、今後も堅調に推移することが見込まれる。
	□	乗用車販売店（従業員）	・原油価格の高騰が、今後の景気に大きな影響を及ぼすことが懸念される。実際に、客の買換えサイクルが伸びそうな気配がある。
	□	住関連専門店（役員）	・景気が悪くなっている様子はみられないため、今後も景気は変わらない。ただし、世界情勢の変化により、様々な物の価格が上昇する懸念があることから、今後、影響が出てくることを心配している。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・春を迎え、客からの相談に時間を掛けて対応しやすい時期になってきたことから、今後、40代の若い層を取り込むための対策を講じていきたい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	高級レストラン（スタッフ）	・先行きを見通しにくい状況にある。ただし、当地のホテルの予約状況が悪くないことから、しばらくはインバウンドが主体になるとみられる。飲食店のなかには、インバウンドをターゲットにした観光メニューで繁盛している店もみられるものの、少ない人数で何とかやり繰りしている店が大半である。また、人手不足で質の高い料理を出す店が減っていることは気掛かりである。
	□	高級レストラン（スタッフ）	・これから桜の開花やゴールデンウィークなどの観光需要が上向く時期を前に、中東情勢を要因とした原油価格の高騰により、ガソリン価格が高騰しており、様々な商品の値上げも危惧されることから、先行きが不透明な状況となっている。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・底堅いインバウンド需要はあるものの、中国情勢や中東情勢などの懸念材料もあることから、予断を許さない状況にある。
	□	旅行代理店（従業員）	・夏季観光における需要の伸びを期待したいものの、インバウンドについては、中国路線の運休による影響が顕在化することが懸念される。国内客についても、原油価格の高騰によるガソリンなどの値上げが消費者マインドに影響し、旅行や帰省などを控える傾向が出てくること懸念される。これらのことから、今後の景気は横ばいで推移することになる。
	□	旅行代理店（従業員）	・海外旅行の増加を期待していたものの、海外情勢の変化により、新規予約の動きが鈍化している。燃油サーチャージも上昇傾向にある。これらのことから、今後も来客数の減少傾向が続くことになる。
	□	タクシー運転手	・観光シーズンが始まることで、利用客が伸びてくることを期待している。ただし、本格的な観光シーズンにはまだ早いため、それほど大きな伸びは期待できない。
	□	通信会社（企画担当）	・春を迎え、雪解けが進むことで、人流が回復し、店舗への来客数や相談が引き続き好調に推移することが見込まれる。一方、今後の原油の供給体制に不安が生じていることで、支出に対する客の姿勢が慎重になることが懸念される。実際に、店舗からはそうした客の様子が報告されていることから、今後の景気は現状維持にとどまるとみられる。
	□	観光名所（従業員）	・今後のプラス要因として、桜の開花が早まり、例年よりも行楽期が長期化しそうなこと、豪華クルーズ客船の寄港ラッシュが続いていることが挙げられる。一方、マイナス要素として、国際情勢の先行きが見通しにくいことから、特にガソリン価格を気にして、道内観光客が外出を控える傾向が強まる懸念があることが挙げられる。このため、プラス要因とマイナス要因が相殺され、景気は変わらないまま推移することになる。
	□	住宅販売会社（従業員）	・金利の上昇や建築単価の高止まりが続くと見込まれることから、今後も景気は変わらない。
	▲	商店街（代表者）	・中東情勢を要因とした原油価格高騰の影響が徐々に現れ始めている。包装資材の価格や運送費にもかかわることから、今後の大幅値上げを心配している。ただし、インバウンドについては、政情不安の影響を受けにくい日本を選択する可能性が高くなることから、今後も引き続き好調に推移することが見込まれる。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢を要因とする物価高が懸念されることから、今後の景気はやや悪くなる。鳥インフルエンザの発生が相次いでいることもマイナスである。
	▲	スーパー（店長）	・今後のガソリン価格の動向が不透明なこともあって、様々な業種に影響が生じることが懸念される。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢が不安定なことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・ティッシュ、トイレットペーパーなどの紙類、価格が低下してきた米の売上が大きく伸びていることはプラスであるものの、全体的には、今後、物価上昇が一段と進む懸念があることから、客の財布のひもがますます固くなるとみられる。
	▲	スーパー（企画担当）	・中東情勢が不安定なことで、生産コストに大きな影響が生じることが見込まれる。今後、商品の仕入価格が上昇することになり、客の買い控えがますます進むことが懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	スーパー（役員）	・中東情勢が落ち着くまで、全ての商品が値上がりすることが懸念される。そのため、食料品を始め、客の節約志向は間違いなく強くなる。
	▲	スーパー（従業員）	・人件費が上昇していることから、今後、収益が減少することが懸念される。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・今後については、先行き不安から客の買い控えが進むことが懸念される。また、これから気温が上昇し、人の動きが活発になるタイミングで、ガソリン価格が高騰し始めたことで、客の動きが制限されるようになり、売上に影響が生じることも懸念される。
	▲	家電量販店（店員）	・ガソリン価格の高騰や物価の上昇により、客が本当に必要な物しか購入しなくなってしまうことが懸念される。エアコンは2027年の値上げが見込まれているため、今年の売上に期待していたが、それも分からなくなってきた。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・物価上昇が落ち着く要素が見当たらないことから、今後、耐久消費財の需要がますます落ち込むことが懸念される。企業においても、原材料価格や人件費の高騰によって、マイナスの影響が出てくることが懸念される。特に、今後賃上げを進めていかなければならない中小企業にとっては、厳しい経営環境となることが見込まれる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・4月から低金利施策の多くがなくなることで、客の負担が増すことになる。さらに、原油価格高騰の影響により物価が上昇することで、消費者の生活が圧迫され、車に金を掛ける余裕がなくなることも懸念される。当社の対策次第の面もあるが、今後の景気はやや悪くなると見込まれる。
	▲	自動車備品販売店（店長）	・今後の中東情勢の動向によっては、客の車離れが進むことになる。カー用品の購買にもマイナスの影響が出てくることが懸念される。
	▲	その他専門店 [造花]（店長）	・原油価格の高騰やそれを要因とした為替相場の不安定さにより、商品の出荷制限や価格の一層の上昇が見込まれることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	タクシー運転手	・例年4月以降は、冬期間と比べてタクシーの利用が減る傾向にある。特に、今年は暖かくなるのが例年よりも早かったため、これから夏まで売上が前年を下回って推移することが見込まれる。当社では、乗務員の採用に注力していることで、前年よりも乗務員が増えており、稼働するタクシーも増えているものの、会社の売上は前年並み又はマイナスにとどまる懸念がある。
	▲	タクシー運転手	・4月に、タクシー運賃の値上げが行われることから、今後の需要が減少することを見込んでいる。
	▲	タクシー運転手	・先行きが全く見通せない状況にあることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	観光名所（職員）	・中東情勢の先行きが不透明なことから、石油製品の価格上昇などが懸念される。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・原油価格の高騰により、物流コストが上昇すると見込まれるため、経営環境がますます厳しくなる。
	×	一般小売店 [土産]（経営者）	・インバウンドについては、例年、春に需要が落ち込む傾向があること、日中関係の影響が少なからずあることから、10%程度の減少が見込まれる。国内客については、燃油サーチャージの引上げ、日常生活における様々な物の値上げが見込まれることから、旅行中の財布のひもが固くなることが懸念される。これらのことから、今後の景気は悪くなる。
	×	コンビニ（エリア担当）	・ガソリンの価格動向について、今後の動きが見通せないことから、春休みやゴールデンウィークなどの観光需要が活発になる時期に、車での移動が少なくなることが見込まれる。それに伴って、当店の来客数も減少することが懸念される。
	×	衣料品専門店（店長）	・客の財布のひもがますます固くなり、洋服を購入する余裕がなくなることが懸念される。
	×	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	・当面の間、石油製品の価格高騰が続き、それと同時に供給不安が起ることも懸念される。客の節約志向も強まることになり、景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	スナック（経営者）	・物価上昇が続いていること、中東情勢の影響が懸念されることから、客の財布のひもが徐々に固くなっている。そのため、客が夜の街に出掛けることを控えるようになることが懸念される。
	×	観光型ホテル（経営者）	・中東情勢を要因とした原油の供給不安と価格高騰により、今後、全ての経費が大幅に上昇することが見込まれる。さらに、燃料不足の影響で、夏以降の国際チャーター便の運航について、先行きが見通せない状況となっており、インバウンドの集客に大きな影響が生じている。国内客についても、物価高の影響に加え、国内航空便の燃料サーチャージの影響が懸念される。また、宿泊税が4月から導入されることもマイナスである。好材料が全く見当たらない状況にあることから、今後の景気は悪くなる。
	×	旅行代理店（従業員）	・中東情勢について、落ち着くような動きがみられないことから、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・中東情勢の影響により、物価の大幅な上昇は避けられない状況となっている。そのため、今後、客の消費マインドが落ち込むことになる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・住宅着工が余りにも少ないため、住宅会社や工務店の倒産がみられ始めている。倒産する会社はこれからますます増えるとみられるため、今後の景気は悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・今後、着工することになる分譲マンションの建築価格は、中東情勢の影響と物価の上昇により、一段と高騰することになる。客の手がますます届きづらい価格となるため、このままでは需要も供給も落ち込むことになり、分譲マンション市場は大幅に縮小することが懸念される。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—
	○	農林水産業（経営者）	・りんごの貯蔵施設に空きがみられ始めていることから、今後、多少は動きが出てくることになる。
	○	建設業（役員）	・新年度のスタート直後は、前年度からの繰越工事に新年度着工分が加わることで、年度計画に迫る工事を確保できる見通しにある。一方、中東情勢を巡る動向が、国内景気に与える影響について、引き続き注視が必要である。
	○	通信業（営業担当）	・北海道において、新たな企業進出の可能性が高まっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	司法書士	・住宅の新築については、土地価格の上昇に加え、改正建築基準法・改正建築物省エネ法の全面施行に伴い、建築確認申請の審査期間が長期化したことが影響して、1年ほど前から減少傾向にあるものの、その分、住宅リフォームに関する登記の受注が増加している。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・中東情勢や国内の労働者不足などの留意すべき要因はあるものの、建設業界全体の受注状況は堅調に推移すると見込まれる。
	□	食料品製造業（従業員）	・商品の内容量を増やすことを検討している。それまでは現状のままで推移する。
	□	食料品製造業（従業員）	・今後については、観光シーズンを迎える時期となる。ただし、中国からのインバウンドがすぐに回復するとは考えにくいこと、燃料価格高騰の影響が出てくる懸念があることから、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	・人材不足の状況はすぐには改善されないため、今後も状況は変わらない。
	□	金融業（従業員）	・原油価格の上昇により、動力費や物流コストが押し上げられることになる。また、円安により、輸入コストも増加することになる。これらのことが企業収益を圧迫することから、今後も景況感は変わらない。
	□	広告代理店（従業員）	・3月を迎えて、年度決算の駆け込み需要が生じているものの、こうした動きは例年のことであり、今後も景気は変わらないまま推移する。
	▲	食料品製造業（従業員）	・ここに来て売上が減少していることで、年度末決算が、前年を下回る見込みとなっている。
	▲	輸送業（支店長）	・中東情勢の影響により、原油及び石油関連製品の価格高騰が見込まれていることで、先行きを見通せない状態となっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・中東情勢の影響により、幅広い物資に影響が出ていることから、今後の景気が良くなるとは考えにくい。また、中国において、レアメタルを始めとした軍民両用品の輸出規制が強化されていることで、様々な物品の確保が難しくなっており、価格も高騰している。原材料などの供給が滞ることで、今後の売上も厳しくなると見込まれる。
	×	金属製品製造業（従業員）	・中東情勢の影響を受けて、今後の景気は悪くなる。既に原油不足による影響が現れており、購入品の値上げに加え、供給量が制限される状況がみられ始めている。
	×	建設業（経営者）	・燃料価格が高騰していることに加え、商社から、石油が関係する様々な資材の値上げを通告されている。鉄筋などの材料も、価格が上昇するとみられている。発注がなくなることまでは考えにくいものの、今後、様々な経済活動が停滞することが懸念される。
	×	司法書士	・中東情勢を要因に、原油価格の一層の高騰が見込まれることから、今後、生活に必要な石油関連製品の価格高騰や品薄などが懸念される。そのため、今後の景気が良くなるとは考えにくい。
	×	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・例年であれば、年度替わりに伴って新しい案件が出てくるものの、今年はそうした様子が余り感じられない。4月以降の案件が減っている。
雇用 関連	◎	—	—
	○	—	—
(北海道)	□	人材派遣会社（社員）	・企業の積極的な採用活動は、今後も続く見込まれる。ただし、スキルの高い人材が取り合いとなっている一方で、スキルの低い人材は、なかなか就職できないことが見込まれる。企業の人事担当者の悩みは、若年者の早期退職と仕事への意欲低下であり、今後も中途採用を増やす傾向は続くことになる。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少が続いているものの、それが景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。そのため、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・当地の新規求人数は、1月に前年を上回ったものの、2月は前年を9.9%下回り、2か月ぶりに前年を下回った。一方、月間有効求人数は、4か月連続で前年を下回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることが懸念される。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・全国的に、物価の上昇やコストの増加がみられることから、今後、企業が採用拡大を控えるようになることが見込まれる。ただし、必要人員の採用は続く見込まれるため、採用活動は現状維持で推移する。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・中東情勢の先行きが不透明なことから、コスト上昇圧力がますます強くなる懸念される。今後の企業行動は、慎重な姿勢が強まるとみられる。
	▲	職業安定所（職員）	・今後の原油の供給体制が不透明なことから、企業から不安の声を聞く機会が増えている。価格の安さを強みにしているガソリンスタンドからは、今までの安価なルートからの調達に困難になったとの話を聞いた。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢が不安定なことから、ガソリンなどの燃料供給に不安が生じている。特に、燃料の使用量の多い運送事業者については、今後の経営環境が厳しくなることが懸念される。
	×	求人情報誌製作会社（編集者）	・中東情勢の影響により、今後、物価高が一段と進むと見込まれることから、経営が危機的な状況になる企業が出てくる懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	求人情報誌製作会社 (編集者)	・物価高が続くなか、原油価格の高騰により、物価が一段と高くなることを見込まれる。実質賃金がなかなか上向いてこないこともあって、今後の景気は悪くなる。

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東北)	◎	観光名所（職員）	・国際線が増便となることから、インバウンドの増加が見込める。
	○	商店街（代表者）	・クルーズ船の寄港増加や気温の上昇に伴い、人通りは多くなるとみている。
	○	一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・外出機会が多くなるが、体調も崩しやすい時期でもあることから、そうした需要に伴う来店が増えるとみている。
	○	一般小売店〔スポーツ用品〕 (店員)	・本格的なゴルフシーズンとなるため通常であれば良くなる場所だが、物価高や原油価格高騰の影響がどう出てくるかが見通せない。
	○	一般小売店〔書籍〕 (営業担当)	・自ずと物価高に慣れ始めたところから今回のエネルギーショックが発生したが、以前と比べ財布のひもは緩くなっている。
	○	百貨店（営業担当）	・天候が良くなるため来客数の増加が期待できる。
	○	百貨店（経営者）	・食料品は値上がりしているものの動きが良い。来客数も大きく伸ばしており、販売のチャンスは大いにあるとみている。
	○	スーパー（店長）	・自治体の物価高対策の効果による売上増加を見込んでいる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・気温の上昇に伴い、来客数の増加や冷たい商材の販売拡大が見込まれる。
	○	家電量販店（従業員）	・エアコンの2027年問題を前に駆け込み需要が増えるとみている。また、今年も夏は暑くなるとみられることから需要の前倒しによる増加が見込まれる。また、6月にはサッカーワールドカップが開催されるため、テレビなどの放送受信機の動きも活発になるとみられる。景気はやや良くなるとみている。
	○	乗用車販売店（従業員）	・物価高に慣れてきているようにもみえる。今より安くはならないという状況が続いているため、車検やタイヤ買換えのタイミングで販売量は増加するとみている。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新年度税制により客は買換えに前向きになると予想され、販売数が増えるとみている。
	○	旅行代理店（従業員）	・4～9月に社全体で東北を売出すキャンペーンを実施する予定である。
	○	通信会社（経営者）	・5月からサービスエリアを拡張するため、テレビサービスの新規加入者数の増加が期待できる。学生向けの集合住宅が多いエリアであり、通信サービスについてはアパートへのインターネット一括導入が見込める。
	○	テーマパーク（職員）	・3～4月は春休み、5月はゴールデンウィークがあり、学生や3世代家族の利用が見込まれる。
	○	観光名所（職員）	・観光客からの予約が少し埋まり始めている。
	○	競艇場（職員）	・ゴールデンウィークに来場促進イベントを行う予定である。新規客を獲得し売上増加に結び付けたい。その先はリピーターの増加による売上拡大を見込んでいる。
	□	商店街（代表者）	・原油価格高騰の影響により物価高は続くため、景気は変わらないとみている。
	□	一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・原油市場の不安定化が続くことにより、今後も物価上昇が進むと予想される。また、商品の仕入れ自体が困難になることも予想され、急激な需要の高まりが起こることも考えられる。
	□	一般小売店〔寝具〕 (経営者)	・売上低迷が続くとみている。
□	百貨店（企画担当）	・婦人、紳士の衣料品が引き続き厳しく、全体売上のマイナス傾向は変わらないとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	<input type="checkbox"/>	百貨店（経営者）	・気候が良くなるため、特にファッション分野の消費の活性化に期待している。一方で、ガソリン価格を始めとする物価上昇の先行きが不透明であることから、生活防衛意識が強まり、消費行動が減退することも考えられる。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・最低賃金は上げられたが、物価高と燃料費の高騰により、景気回復は期待できない。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・今月の動向からみても見通しは悪い。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店舗運営）	・4月以降は食料品以外でも相当数の値上げが見込まれるため、買い控えが続くとみている。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・コンビニの景気は、本部施策の当たり外れの影響を大きく受ける。良くなることを期待したいが変わらないとみている。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・値上げによる来客数の減少、経費の増加、廃棄過多など悪い要素しかない。加盟店の利益は下がり続けている。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・来客数の増加傾向は続くとみている。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・気温上昇や季節トレンドによる来客数の増加は見込めるが、外的環境の変化による好転は期待できない。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・中東情勢の影響により原油価格が高騰しているため、仕入価格が上がることを懸念している。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・夏物が本格的に動き出す時期になるが、売上が大きく改善する要因は見当たらない。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・更なる物価上昇により、個人消費の停滞は続くとみている。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・原油の供給や物価の動きに明るい見通しがみえてこない限り、消費者の慎重な購買行動は続くとみている。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・地政学的要因により景気が不安定となるなか、メンズビジネス需要はレディースに比べて、買い控えの傾向がこれまで以上に強まっている。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・新型車の発売効果が多少は続くが、今後新たな発売予定はないため、販売量は現在と同程度とみている。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・決算期にもかかわらず受注できる車種が減っているため、数か月後に販売できる車がない。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・客からはガソリン価格に対する不安の声を聞く。販売台数は12月から良くなってきているものの、この状況が3か月先まで続くかは分からない。
	<input type="checkbox"/>	その他専門店〔靴〕（経営者）	・中東情勢の影響が見通せない。
	<input type="checkbox"/>	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢の沈静化が前提となるが、その後も従来の状況に戻るまでに時間を要するため、当面は厳しい状況が続くとみている。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・予約も伸び悩んでいる。外食控えが定着している状況は当面続くとみている。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（スタッフ）	・景気が回復するような施策はない。世界情勢に客が振り回されなければよい。
	<input type="checkbox"/>	観光型旅館（スタッフ）	・6～7月は全体的に動きのない時期だが、当地で多くの人が集まるイベントの開催が予定されているため期待している。
	<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（支配人）	・インバウンドの先行予約が鈍化傾向にある。
	<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・景気判断ができる状況にない。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	・好転する材料に乏しい。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	・見込み案件は例年並みの推移となっている。
	<input type="checkbox"/>	観光名所（職員）	・予約数、振り客数、来客数、レジ通過客数、客単価、いずれも微増が続いている。特別なことがない限りこの状況は続くとみている。
	<input type="checkbox"/>	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・現状を維持したいが、国際情勢や原油価格、株価、金利など懸念材料は多い。売上水準をどこまで維持できるかが分かれ目になるとみている。
	<input type="checkbox"/>	設計事務所（経営者）	・受注計画は予定どおり進んでおり、数か月先も変わらない。ただし、建設費の高騰に伴い発注意欲が低下しているため、長いスパンで見れば建設業全体の景気は悪くなるとみている。
	<input type="checkbox"/>	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・今夏の猛暑に備え、エアコンの早期交換や断熱リフォームの問い合わせが増えるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	商店街（代表者）	・消費はかなり停滞しており、特に高額消費の客は少なくなっている。世界情勢が不安定な状態が続き、景気は悪くなるとみている。
	▲	商店街（代表者）	・世界的に不安感が広がっており、この先、生活に影響が出るのが懸念される。
	▲	商店街（代表者）	・物価高が止まらない。
	▲	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・当地では3月20日からタクシー料金が値上げされ、運転手からは20日以降は利用者が減少したとの話を多く聞く。各方面で値上げが続いていることから、景気は悪くなるとみている。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	・中東情勢の緊迫化による原油価格高騰の影響が出ており、不透明な先行きに不安しかない。この状況が長引けば、燃料費だけでなく食料品や日用品等の生活必需品への支出増加が家計を一段と圧迫する。結果、購買力の低下や個人消費の冷え込みなど経済にマイナスの影響が出てくるのが懸念される。
	▲	百貨店（従業員）	・物価高が続くなか、原油価格の高騰などもあり、先行きは不透明な状況にある。生活防衛意識が高まり、買い控えが一層強まることが予想される。
	▲	スーパー（経営者）	・中東情勢の影響による原油・エネルギー不足の長期化が危惧される。原油価格高騰、円安、株値の低迷、金利の上昇も懸念されるため、消費マインドには非常に良くない影響が出る。消費は非常時備蓄品等に動きがあるかもしれないが、節約志向が強まることを懸念している。消費回復に時間を要する。
	▲	スーパー（店長）	・ガソリンも商品も値上げが続いているため、消費は上向かないとみている。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢が不安定で先行きが見通せない。
	▲	スーパー（商品担当）	・物価上昇は続いているものの、中東情勢によって急激な価格上昇が生じれば、買い控えが一段と強まるのが懸念される。
	▲	コンビニ（経営者）	・商品が値上がり傾向にあるなか、客単価が低下している。また、買上点数も減少傾向にある。
	▲	コンビニ（経営者）	・石油製品やエネルギー価格が大分高くなっている。3か月後には更なる物価上昇が見込まれ、景気はかなり落ち込むと予想している。
	▲	コンビニ（経営者）	・来客数は微減傾向にあり、販売量は横ばいか微減で推移するとみている。商品価格の上昇も続いており、買い控えの動きも見受けられる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・ガソリン価格や電気料金など生活コストの大幅な上昇が見込まれることから、買い控えが生じるとみている。
	▲	コンビニ（店長）	・販売価格の改定が余りにも多い。
	▲	コンビニ（店長）	・今月は来客数が増加したものの、今後も続くかは見当がつかず、先行きは不安しかない。
	▲	衣料品専門店（総務担当）	・賃上げと所得環境改善により景気は回復基調にあるといわれているが、物価高が続くことが予想され、景気が良くなることはないかとみている。
	▲	家電量販店（従業員）	・中東情勢の影響が懸念される。夏前のエアコン購入需要は、早めに動き出すとみている。
	▲	乗用車販売店（店長）	・新年度税制は業界にとって追い風と考えるが、中東情勢のインパクトが余りにも大きすぎるため、市場全体の消費マインドを喚起するには至らないとみている。
	▲	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・明るい見通しが立たない。
	▲	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・今年の夏も暑くなることが予想される。空調服の販売は好調と聞くが、まだ購入していない企業も多いとみえており、今後の売上につなげたい。ただし、企業によっては貸与ではなく個人購入としており、その場合は量販店などで購入するため、当社の売上にはならない。また、夏物商材では空調服以外の売上がないことが課題である。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢の影響により、価格高騰や出荷制限が発生している。暖房用燃料の需要はほぼ終了する時期だが、出荷制限が続けば通年で使用する業種向けの販売量は減少する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・中東情勢の影響により客の財布のひもがより固くなっている。飲食店街のリニューアルオープンを4月下旬に控え、集客の柱に据える計画である。
	▲	一般レストラン（経営者）	・物価上昇により材料費が上がっており、利益が出ない。中東情勢の影響もあるため、この先は暇になるとみている。
	▲	観光型ホテル（スタッフ）	・原油価格の動向次第とみている。
	▲	観光型ホテル（スタッフ）	・世界情勢の影響を受け、旅行需要は減少するとみている。
	▲	観光型旅館（経営者）	・中東情勢の影響による更なる物価上昇が懸念されるため、良くはならない。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・最も多い台湾からのインパウンドの伸びが悪い。
	▲	旅行代理店（従業員）	・海外旅行は燃油サーチャージの値上がりにより減少が予想される。また、物価高による買い控えが生じる恐れもある。
	▲	タクシー運転手	・5月は花見をかねた会社の歓迎会の開催が多くなることが予想される。
	▲	通信会社（営業担当）	・ガソリン価格は緊急的激変緩和措置により一時的に下がったが、不安定な状態が続く。原油価格は今後も物価に大きな影響を与えるものとみている。
	▲	遊園地（経営者）	・原油価格の上昇が遠出や消費に影響を及ぼすおそれがあり、先行きは不透明である。
	▲	ゴルフ場（支配人）	・物価上昇に対して賃上げが追い付いていないことから、レジャーへの消費意欲は後退するとみている。
	▲	美容室（経営者）	・物価上昇が急激すぎて利益を出すのが難しい状況である。
	▲	美容室（経営者）	・カット中の会話でも物価高や燃料費の高騰に対する不安の声が聞かれ、不安感から買い控えが進むことが懸念される。また、理美容界の仕入コストの上昇も懸念材料である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・人手不足による売上減少が予想される。
	×	一般小売店〔茶〕（経営者）	・中東情勢の影響が今後ますます大きくなるとみている。早期に収束することを願う。
	×	スーパー（経営者）	・中東情勢の長期化により世界的な不況と物価上昇が進み、買い控えが強まるとみている。
	×	スーパー（業務担当）	・中東情勢の影響により景気は後退するとみている。
	×	コンビニ（経営者）	・近隣に競合店が開店したことに加え、観光客の来店も伸び悩んでおり、今後は景気が悪くなるとみている。
	×	衣料品専門店（店長）	・物価高で入学金や転勤費用など生活に関する支出が増加しており、衣料まで手が回らないようである。収入と支出のバランスが取れるまでは若干苦戦するとみている。
	×	住関連専門店（経営者）	・受注生産をしているが、中東情勢により将来の不確実性が高まっているため、見積りを出しても決まらない。受注量の確保が厳しい状況になっている。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・中東情勢の影響や物価高騰に加え、米価高騰の反動も懸念される。米価が下がらなければ米の在庫は動かないが、米価が暴落するか徐々に下がるかは見当が付かない。中東情勢の混乱も長期化の気配がある。悪化する要因しか見当たらない。
	×	一般レストラン（経営者）	・せり鍋の提供も今月で終わり、県外客の来店が減少するため、来客数、売上共に落ち込む。
	×	一般レストラン（経営者）	・景気が活性化する材料が出そろう前に中東情勢の影響が出た。中東情勢が落ち着いたとしても、エネルギー関連のインフラ復旧には相当の時間が掛かる。様々な分野に多大な悪影響が及ぶことが予想されるため、当面は厳しい状況が続き、景気は悪くなるとみている。
	×	その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・中東情勢の影響により生産性が低迷し、景気は悪くなる。今後は節約志向が一段と高まり、購買意欲は低迷するとみている。
企業動向関連	◎	建設業（従業員）	・時期が後倒しになったことで、年度初めに見込まれる受注契約が一定数ある。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・案件は少しずつ増えている感触がある。景気は良くなることが期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東北)	○	通信業（営業担当）	・新年度予算が確定した企業からのクラウドやAIソリューションの導入に関する相談が増えており、景気は良くなる見込みである。
	○	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・春の観光シーズンとなり人の往来も増え、外食市場もにぎわいが増すとみている。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢の長期化による原油価格の高騰に伴い、売上の減少が予想される。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・AIのデータセンター向け需要の高まりで、半導体設備向けの見込みが増加している。反面、中東情勢による供給制限や価格高騰が景気上昇の妨げになる可能性がある。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・確定ではないが良い情報はあ。注視していきたい。
	□	建設業（従業員）	・4月以降、資材価格がどの程度値上がりするかで受注動向が大きく変わる。
	□	建設業（従業員）	・人手不足のため、受注量をこれ以上増やすことができない。
	□	建設業（従業員）	・中東情勢の影響に若干の不安はあるものの、受注が好調な今の状況が変わることはない。
	□	通信業（営業担当）	・顧客の値下げ要請に対しては、サービス品質と価格の妥当性を理解してもらえよう努めていく。
	□	広告代理店（経営者）	・周囲の状況から、広告投資を増やす決断は難しい状況にあるとみている。
	□	その他企業〔企画業〕（経営者）	・石油の民間備蓄放出によりガソリン価格と灯油価格は下がっているが、値上がり前の価格には戻っていない。国家備蓄も放出しているが先が見えない。
	□	その他企業〔協同組合〕（職員）	・地政学的リスクへの不安はあるが、政府による補助金等の物価対策の効果が一定程度期待でき、企業も自助努力をすることで景気が腰砕けする事態には至らないとみている。
	▲	農林水産業（従業者）	・原油価格の上昇により、燃料だけでなく生産資材、肥料、薬剤等の価格も上昇することが予想される。
	▲	食料品製造業（経営者）	・中東情勢の影響により工場で使用する重油の値上げが発生している。また、石油製品の包材、資材関係を扱う業者からは値上げ要請や供給を不安視する声が出ており、先行きは不透明である。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・物価高や原油価格の高騰により、嗜好品の消費減少が懸念される。
	▲	食料品製造業（製造担当）	・安価志向の高まりにより、特に飲食費は抑えられる。一方で、原料や資材等の価格高騰が続き、収益を圧迫することが予想される。
	▲	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・業界でも中東情勢による石油製品の価格上昇の影響が出ている。印刷関連メーカーからは、価格引上げや在庫ストックの要請など厳しい取引条件が示されている。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・新年度に向け受注予測が上向く時期だが、世界情勢の影響か見通しは悪い。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・不確実な要素が多いため、しばらくは停滞感が続くことが予想される。
	▲	輸送業（経営者）	・先行きは不透明であり、中東情勢は生活や産業などあらゆる面に大きな影響を与える不安材料となっている。輸送業界にとって、燃料の価格上昇や高止まり、調達難は死活問題となる。
	▲	金融業（広報担当）	・中東情勢の影響によりガソリン、重油、軽油の価格が急騰し、融資取引先の経営に大きな影響が出ている。運送業、温泉業を始め多くの業種に影響が広がっており、軽油は高騰に加え不足が発生しており、確保できずに廃業を選択するところも出ている。
	▲	広告業協会（役員）	・中東情勢による先行きの不透明感が企業マインドを委縮させており、広告費の増加は見込めない。また、国内の物価対策は政策実行に時間が掛かるとみられることから、3か月後の広告業界の景気はやや悪くなると予想している。
	▲	経営コンサルタント	・日本経済が安定するまでには相応の時間が掛かるとみられ、その間は消費停滞が避けられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	司法書士	・受託件数と地元登記所受付件数が共に前年同月比で下回っている。金利上昇と物価高により、このすう勢が続くとみている。
	▲	公認会計士	・現在の円安による物価上昇、特にガソリン価格の高騰により全体として景気が減速するイメージがある。人手不足や原材料価格高騰の影響により、製造業、建設業の業績が悪化することで、小売業、サービス業は現状維持としても、全体としてはやや悪くなるとみている。
	▲	コピーサービス業（従業員）	・政府の景気対策はあるものの、中東情勢の影響で原油価格が高騰しているため、景気はやや悪くなるとみている。
	×	農林水産業（従業者）	・販売価格の急な値上げは考えにくく、原油価格高騰に伴う資材費や人件費の上昇により利益が圧迫される可能性が高い。また、果物はし好品のため、物価が高くなると消費者の買い控えが懸念される。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	・新年度の需要想定も前年比減少となっており、明るい兆しが全くみえない状況である。
	×	電気機械器具製造業（総務担当）	・取引先からの見込みが悪化している。
	×	輸送業（従業員）	・中東情勢の影響による物流網の混乱が予想される。
	×	不動産業（従業員）	・世界経済の影響により不動産に関わる物価が上昇しており、販売力を鈍くしている。
雇用 関連  (東北)	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	・求人数、求職者数共に前月、今月と前年比では改善傾向にあることから、4月以降も好転サイクルが続くと見込んでいるが、当面は様子見になる。
	□	職業安定所（職員）	・物価対策など新たな経済政策は打ち出されているものの、中東情勢の見通しが立たず、物価高騰への不安が大きい。
	□	職業安定所（職員）	・有効求人数は前年同期比で横ばいである。一方で、今後数か月にわたり、企業整備による人員削減の企業が複数ある。
	□	職業安定所（職員）	・窓口では小規模事業所や個人事業主からの求人票の提出が多く、人手不足感は継続している。業種別に増加と減少が混在し、分野ごとにばらつきはあるが、全体として求人の動きに大きな変化はないとみている。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・現在の物価高が続く限り、状況は変わらないとみている。
	▲	人材派遣会社（経営者）	・当県でも中東情勢を不安視している企業が散見される。特に飲食業では、光熱費や原材料価格の高騰を懸念する経営者が増えている。
	▲	人材派遣会社（社員）	・中東情勢の動向次第である。このままエネルギー危機が長引けば、様々なところに悪影響が及ぶことは避けられない。
	▲	学校〔専門学校〕	・中東情勢による影響が多岐にわたり出てくるのが予想される。
	×	アウトソーシング企業（経営者）	・中東情勢がいつまで続くのか不透明ななか、原油価格が高騰すればあらゆるコストが上昇するため、人件費を上げることができなくなる。景気は相当悪化するとみている。
	×	求人情報誌製作会社（経営者）	・商品やサービス、原材料価格の上昇が止まらないなか、体力のない企業が対応し切れず、廃業に至るケースが増えることが予想される。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・中東情勢の影響が長期化することが予想され、空前の物価高に突入する懸念がある。

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北関東)	◎	*	*
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・天候が暖かくなり、これから総会シーズンが始まり、宴会等も少しずつ増える。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後も来客数は落ち込むことなく維持できると考えている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・春休み明けで、学生や新社会人の通学、通勤利用が本格化し、平日の来客数増加が期待される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・もう少し天候が暖かくなれば、人の動きも活発になると予想している。
	○	都市型ホテル（経営者）	・年間で1番落ち込む2月を乗り越え、天候も暖かくなってくるため、来客数も増加傾向となる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊等は団体受注も多く、前年実績を上回る状況である。宴会場利用に関しても同様で、懸念していた宴会件数も増加傾向にある。ただし、1件当たりの人数減少が大きくなっている。会合の欠席に対するハードルが低くなり、幹事の予想する参加者数とのかい離が発生している。
	○	旅行代理店（経営者）	・春の繁忙期が始まるため、やや良くなる。
	○	タクシー（経営者）	・昼も夜も動きが良くなっているため、この先も良くなるとみている。
	□	商店街（代表者）	・新年度に向けて、幼稚園児や児童数の減少による写真需要、販売数の減少は明確であるため、景気は良くならない。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・中東情勢は石油関係のいろいろな物に影響している。この情勢が落ち着けば、景気は幾らか落ち着くのではないかとみている。
	□	百貨店（営業担当）	・依然として物価高で、消費行動の改善には至らない。向こう数か月は現状維持ではないかと考える。
	□	コンビニ（店長）	・近隣の街中に立地していた最後のスーパーの閉業以降、それまでも少なかった来街客が更に少なくなり、来客数は大変厳しい。この傾向はしばらく続く。
	□	家電量販店（営業担当）	・海外からの資材や商材の入荷状況が悪く、単価も非常に高くなっているため、経営は悪化している。
	□	家電量販店（企画担当）	・エアコンの2027年問題に伴う駆け込み需要や、電気代高騰による省エネ需要の高まりから、エアコンは引き続き堅調な推移が見込まれる。一方、最近の原油価格の高騰や物価高などによる家計への圧迫から、生活必需性の低いその他家電や耐久消費財は、消費マインドの低下が懸念される。
	□	自動車備品販売店（経営者）	・特段良くも悪くもなるような要因やムードがない。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・ガソリン価格の乱高下や原油についてのネガティブな報道など、消費を後押しする明るい要素がないため、節約意識の高い状況は変わらない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・ガソリン価格や物価の高騰が変わらない間は、支出を抑える傾向は続きそうである。ただし、宴会自体は減ってはいない。
	□	都市型ホテル（支配人）	・4月は歓送迎会、5～6月は総会等の予約を受ける状況は変わらない。
	□	旅行代理店（従業員）	・やや上昇傾向だったが、ここにきて停滞している。このままこの状況が続くとみている。
	□	テーマパーク（職員）	・中東情勢に関連してガソリン価格の高騰が際立っている。レジャー費は劣後に回る傾向があるため、旅行や外出控えになると懸念している。
	□	ゴルフ場（従業員）	・予約状況は前年を下回っている。物価上昇に伴い、レジャー等の娯楽費がシビアになってきている。
	□	住宅販売会社（経営者）	・当地周辺では、土地の動きは大して変わらず、価格も全くと上がらない。事務所やアパート関係の家賃等についてはほとんど変化がなく、逆に値引きして安く貸しているケースが多いようである。人口の流動や新規の出店等がほとんどなく、動きが停滞している。
	□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・諸物価が上昇しており、住宅関連では急を要する修繕依頼が中心になっている。基本的にこの状態が続くとみている。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・当店のような観光土産店は、情勢が不安定になると真っ先に不景気になる。世界情勢がどのようになるか予断を許さない状況のため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（総務担当）	・このまま原油価格の高止まりが続けば、景気悪化も続く。
	▲	スーパー（商品部担当）	・今後も食料品の値上げが続き、かなり厳しい状況も続く。食料品業界では、良くなる要素が見当たらない。現状維持できればひとまず良い状況である。
	▲	スーパー（経営企画）	・原油価格高騰の影響が出てくる。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・ガソリンを始め、諸物価高騰による客の買い控えが心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	乗用車販売店（経営者）	・物価上昇の影響が大きい。当地域の自動車メーカーでは輸出台数は微減であるものの、米国の関税問題等の影響により利益が減少している。また、中東情勢の問題でガソリン価格を心配して車の稼働を減らそうというドライバーも出てきている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・メーカーの方針転換による影響度合いが不透明である。
	▲	一般レストラン（経営者）	・原油の状況次第ではないかと考える。不足すればガソリンだけではなく、全てにおいて値上げとなるのは間違いなく、外食への影響は大きい。
	▲	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・食材関連では、4月からの値上げ通告を受けた品目が多数ある。更に海外情勢による肥料や飼料を始めとした関連品の値上げで、食材費への影響が懸念される。状況次第では、調達自体が難しくなることも懸念され、影響は大きく、長期に及ぶのではないかとみられる。今後の展開において、不透明感が一段と大きくなっている。
	▲	旅行代理店（所長）	・先行きは不透明である。中東情勢の問題が解消すれば、良い方向に進むとみているが、このままガソリン価格の高騰が続くと、マイカー利用の旅行への影響は否めない。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・石油価格や物価の上昇により、消費者の行動に支障が出てくる。
	▲	通信会社（社員）	・エネルギー価格上昇の影響により、サービス提供に必要な原材料も価格上昇が見込まれるため、業績への影響が予想される。
	▲	通信会社（営業担当）	・中東情勢の影響が長引く可能性が高いことから、当面強く影響が出る恐れがある。
	▲	通信会社（総務担当）	・今月の特需が終了するため、やや悪くなる。
	▲	ゴルフ練習場（経営者）	・今後もいろいろな物が値上げされる予定である。
	▲	美容室（経営者）	・給料のベースアップを上回る物価上昇が続いている。財布のひもはますます固くなる。
	▲	設計事務所（所長）	・様々な価格高騰が続き、とどまる気配がない。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・経費全般が増える要因ばかりで、売上等への悪影響が多い。大手企業の円安景気とは裏腹に、国内中小企業は悪くなる一方である。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・4月から値上げラッシュで、業界的にかなり厳しい状態に入っている。商材不足や客に価格転嫁ができないことが、悪化の最大の理由である。
	×	百貨店（営業担当）	・取引先や関連会社との情報交換で、燃料や原材料に関する懸念が出てきている。現在のところ、大きな影響は出ていないが、楽観視はできない。購買心理にいずれ影響が出てくるとみられるため、そのときでも売上を確保できる施策を準備していきたい。
	×	家電量販店（店員）	・中東情勢により、原油価格の高騰の影響が長引けば景気は下降していく。
	×	乗用車販売店（経営者）	・世界情勢からみて、先行きに安定感も高揚感もない。
	×	その他専門店（総務担当）	・仕入価格の上昇分を売上に反映できそうにない。
	×	タクシー運転手	・大都市ではタクシー利用客が多いようだが、地方では少ない。タクシードライバーでは生活が苦しく、仕事が続かない。
	×	通信会社（経営者）	・円安や原油価格高騰から波及した物価高で、消費者は必要最低限の物しか買わない。円安が全て悪いわけではないが、限度がある。
×	通信会社（局長）	・中東情勢の影響で、原油等のエネルギー輸入の先行きが全く分からない。既にガソリン価格は上がり続けており、今後は更に諸物価の上昇に波及し、先行きは全く見通せない。	
企業 動向 関連  (北関東)	◎	—	—
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢が好転すると予想している。
	□	食料品製造業（経営者）	・個人の収入は増えておらず、節約志向が非常に強い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・好調な決算報告ができそうである。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・石油問題も含めて、海外情勢の先行きが見通せない上に、国内の景気に明るさを実感できない。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・この1～2か月は受注量と取引先の様子にかなり動きが出ている。2～3か月先はどうなるか、中東情勢もあるため分からない。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況なども依然として続いている。
	□	経営コンサルタント	・中東情勢や原油等エネルギー価格の変化の不透明さなどによる不確実性が大きくなっている。中小企業の業況に対する影響はさほど小さくなく、業績の変化はまだないとみている。
	□	司法書士	・何とかやっているが、良くなる様子や材料は、ほとんどゼロに近い。先行きは変わらない。
	□	社会保険労務士	・中小企業の賃上げは余り期待できない。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	・中東情勢により、数字が悪くなってきている。この先、やや不安な部分が多く、どうなるかと心配している。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・協力工場より、中東情勢の影響により資材調達ができず、生産を一部ストップする可能性があるとの報告が入っている。事態が改善しなければ、景気悪化は避けられない。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響で、化学物質など石油由来の材料等が入手困難になるとみている。実際に樹脂メーカーや電線メーカーから、受注制限や価格上昇などの通知が届き始めている。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今のところ、主要取引先の生産や計画に変化はないが、今後の中東情勢次第では影響が出てきそうである。先行きが不透明だ。
	▲	建設業（総務担当）	・業務量が足りておらず増える要素もないため、先行きも厳しいことが想定される。
	▲	輸送業（営業担当）	・夏物家電、その他生活必需品等については、前年並みの物量を確保予定である。労働条件も実際とはかい離しており、ドライバーの労働時間の規制、運送業としては中東の海峡封鎖等の影響による原油不足で自社のインタンクや出先での給油等に大きな問題を抱えている。こうした影響から、仕事量は確保しているものの、車両自体がどこまで動かせるか見通しが難しい状況である。
	▲	金融業（営業担当）	・中東情勢による原材料価格の高騰等、今後に不透明感があるため、やや悪くなる。
	×	金属製品製造業（経営者）	・資材が入手困難となり、製造が停止すると悪くなる。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・中東情勢で動きが相当鈍くなっている。2～3か月後はもっと悪くなるのではないかとみている。
	×	不動産業（管理担当）	・中東情勢の影響で物価上昇傾向が一段と進みそうである。4月から最低賃金が上がることや社会保険料の負担増加もあり、これまでに経験したことのない厳しい状況になると見込まれる。また、管理物件の清掃部門では、ワックスなど油脂由来の資材が入荷できなくなれば、業務量を減らすなどの対応を取らざるを得ず、売上減少につながる事態になりかねないため、非常に懸念している。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	・原油価格が落ち着くことを期待している企業は多い。新入社員、新入学を迎えた学生等の購買力は、やや厳しいものの、食品や衣料品、音楽関係が動いていく期待感はある。製造業では、自動車関連への影響が厳しい。営業する上では、ガソリン価格が落ち着き、安定供給できる状況だとおおい。
	□	人材派遣会社（社員）	・飲食店などサービス業を中心に人材の需要はあるものの、求職者とのミスマッチは解消していない。賃上げについては大手企業を中心に進んでいるが、余裕のない中小企業から、高時給の求人へ人材が移動する傾向が加速している。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月と横ばいで推移している。
	□	学校〔専門学校〕（副校長）	・今後の状況を見ていく必要はあるが、求人動向は大きく変わらないと予測している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・人材派遣を利用して就職活動する地方の人材が少なくなっており、クライアントからの製造派遣依頼も少ない。
	×	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (南関東)	◎	衣料品専門店（経営者）	・熱中症対策商材に力を入れて、在庫も確保している。4月から本格的にスタートするため、良くなる。
	◎	ゴルフ場（経営者）	・例年、3か月後の6月前半はゴルフシーズンの最盛期でもあり、期待を持てる。ただし、原油危機がいわれているなかで、どこまで末端の消費者に影響が出るのか不透明な部分もあり、安心していられる状況ではない。
	◎	住宅販売会社（従業員）	・今月の販売量が悪すぎるため、普通に推移すれば単純に今月より良くなる。住宅ローン金利も上がる予定であり、余り良いニュースはないものの、コストを抑えた新商品の発売や建売分譲住宅の価格改定を行い、販売増加につなげる。
	○	一般小売店〔文房具〕（経営者）	・3月の動きから、新学期である4月も学童用品を中心に販売量は上がる。学童用品は、まとめ買いの傾向があり、家族連れの来店で迷わず購入する（東京都）。
	○	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・顧客数増加に向けた施策を行うことで、やや良くなる（東京都）。
	○	一般小売店〔傘〕（店長）	・これからの季節は雨天と日ざしの強い日が増えてくるため、良くなることを期待している。
	○	百貨店（営業担当）	・前年に落ち込んだ免税売上に対する回復基調は続く。衣食を中心とした国内需要も順調に推移しているため、全体としては微増傾向が続く（東京都）。
	○	百貨店（販売促進担当）	・人気の宝飾及び時計ブランド、メゾンブランドが続々とオープンし、売上、来客数共に期待できる（東京都）。
	○	百貨店（販売促進担当）	・若年富裕層の購買意欲が活発で、外商受注会の予約が数か月先まで前年比でみて増加傾向にある（東京都）。
	○	コンビニ（経営者）	・これから春先にかけて気温がどんどん上昇するため、ソフトドリンクやアイスクリームなどの販売が伸びる。
	○	コンビニ（従業員）	・通常の店舗であれば、真夏は売上が落ちる時期になる。暑さが厳しい時期は来客数が減る。しかし、当店は近くに市民プールがあるため、夏は売上が大幅に伸びる。夏前までは現状と同じような景気が続くと思われるが、世の中の景気が良くなれば、自然と来客数、販売量も増える可能性が高くなる。
	○	コンビニ（従業員）	・真夏までは行楽シーズンで来客数、販売数がやや増える。新たな商材として焼きたてパンを販売する予定もある。来店動機を増やす商材として、これからの動きは重要である。
	○	家電量販店（店長）	・ゴールデンウィークから夏休みに入るシーズンのため、インバウンドの増加で需要が拡大することが期待できる（東京都）。
	○	乗用車販売店（経営者）	・新車販売もサービス部門も前年より増加しており、今後も続く見込みである。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・中東情勢の影響がなければ、もっと良くなる（東京都）。
	○	一般レストラン（経営者）	・高単価メニューの注文が増えているため、客単価も上がっている。3月下旬から花見シーズンとなり、気温も上がってきて、繁華街に出掛ける人も多くなっている。ただし、原材料の値上がり、人件費の高騰もあり、利益に結び付けることが難しくなっている（東京都）。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・イベント開催が多くなるため、ある程度の売上を見込める。
○	タクシー運転手	・花見、歓送迎会と飲む機会が多くなり、利用も少し増えるとみている。物価上昇が気になるが、ここに来てロングの利用客がいるため、やや期待している。	
○	通信会社（経営者）	・案件の受注及び工事関係が増加傾向にあるため、景気はやや良くなる（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	通信会社（社員）	・CMや番組依頼の引き合いが継続している。来年度に向けた準備を進めている（東京都）。
	○	通信会社（経営企画担当）	・年度が替わり案件数が増加し、動きが活発になる（東京都）。
	○	通信会社（営業担当）	・全国的な賃上げの影響により、購買意欲が向上している（東京都）。
	○	ゴルフ場（従業員）	・天候が暖かくなるため、来客数が増えると見込んでいる。
	○	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（営業担当）	・6月からサッカーワールドカップが始まり、スポーツ参加への気運が高まるとみている（東京都）。
	○	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・関係者との間で、繁忙期とされる時期がずれていることが話題に上がることが多い。
	○	住宅販売会社（経営者）	・都内のホテルの宿泊料金が上昇しつつあるため、ホテル業界は今後ますます良くなる。建設費の高騰で我々中小企業はなかなか厳しい環境にあり、賃金を上げることができない。
	○	住宅販売会社（従業員）	・物価や金利は上がっており、賃金も上昇しているため、今後も景気は少しずつ良くなっていく。
	○	住宅販売会社（総務担当）	・原価の高騰を価格に反映した上でも高額商材を求める客もいるが、一部の層に限られており、そうでない客との格差が広がっている。しかし、そうした一部の客層がけん引し、事業としてはやや上向くとみている。
	□	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・物価高の傾向のため、変わらない。
	□	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・蛍光灯の販売終了やエアコンの2027年問題について客に知らせていこうと考えている。省エネ補助金も年度が替わればまた始まるとみている。
	□	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・社会情勢次第である。
	□	一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・物価上昇、原油価格の高騰など消費にマイナスなことが多く、需要拡大は期待できない。
	□	一般小売店〔米穀〕（経営者）	・中東情勢に伴う世界的にエネルギー燃料等の問題がある。エネルギー問題から派生した物価上昇があるとみられるため、非常に難しい局面である（東京都）。
	□	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・4月の入学、入社時期は、1年を通じてよく売れる時期である。客に適したメガネの提案を行い、しっかりと売っていく。
	□	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・5月は新茶の時期なので、何とか売上を伸ばしたい（東京都）。
	□	百貨店（売場主任）	・総じて、ハレ需要の贈答品は堅調である一方、ケ需要の日常消費は節約志向が継続しており、消費の2極化が進んでいる（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	・中東情勢が不透明ななか、原材料価格の上昇のみならず、原材料の供給不足による影響も出てくる可能性が否定できず、先行きは見通せない。物価全体の上昇傾向は続く想定しているため、購入単価の緩やかな上昇は期待できるものの、実質賃金の上昇が追い付かない状況が続けば、当面は現状のまま変わらない（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	・混とんとする世界情勢の影響を受け、物価高が一層進行するなど不安定な状況が継続している。一方で、足元の景気は明確な後退には至っていない。今後の景気は各種リスクの動向次第で左右される（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	・中東問題がどのくらい続くか見通しが立たず、国内消費への影響が読みにくい（東京都）。
	□	百貨店（広報担当）	・インバウンドの動きは不透明だが、ここから更に悪化する材料に乏しい。また、国内客については、中東情勢が一段と不安定となり、原油が更に高騰するリスクなどがあるものの、当店の常連客についてはそういったマクロ影響を受けにくく、むしろ最近のインフレマインド定着から、今が最安であり買い時だという風潮から、必要な消費を後回しにしないことが予想される（東京都）。
	□	百貨店（営業担当）	・特にプラス要因は見当たらず、中東情勢など不確定要素が多いため、先行きは不透明である（東京都）。
	□	百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向から考えると変わらない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	<input type="checkbox"/>	百貨店（管理担当）	・中東情勢の影響が長期化し、燃料などの価格高騰が続く（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	・原油価格高騰なども多少関係しているとみられるが、値上げにより客が節約志向になっていることが大きい。それに加え、青果はずっと相場安が続いているため、単価がなかなか上がらず、足を引っ張っているところもある。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	・可処分所得が増えていないため、節約のトレンドは変わらない。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・前年と違い、価格上昇の気運が一時的に落ち着いているため、大きな変化はないものの、原油調達の問題が長期化した場合、商材によっては前年の米不足と同じような状況につながる事が予想される。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（総務担当）	・中東情勢の影響により更に物価が上がりそうである。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（営業担当）	・中東情勢の影響もあり、単価の上昇はまだ継続するとみられるが、販売数、来客数の動向次第で今後の売上及び利益が変わってくる（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・来客数の動きが2～3か月前と変わらないことから、2～3か月後も値上げが控えているなか、変わらない動きとなる予想である。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・デイリーユーザーの利用はそこまで変わらないが、中国からのインバウンドの来店が明らかに減っており、この流れは続く。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・商材の値上がりが続くようであれば、この先は更に厳しくなる。一方で、自家需要商材等の販売は好調のため、今後の動向を注視したい。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（商品開発担当）	・一時的に対策を打ったとしても、恒久的な対策がみえない限り、商材価格の改善は難しい（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・懸念材料は、日常の物価上昇に加え、中東情勢によりエネルギーを中心に更なる物価上昇が見込まれ、それがいつまで続くか不明なことである。今のところ売上面では大きく影響は受けていないものの、長期化すると消費者の一層の生活防衛意識が強くなり、消費の冷え込みにつながる。収益面では、既にこん包資材等の価格が上昇しており、計画値を下回る可能性が高い（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（役員）	・原油価格の影響等、物価上昇のために、客は衣料品を購入する余裕がないとみられる。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（従業員）	・世界情勢が安定しないと、今後も影響を受ける。
	<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・いろいろな物が値上がりし、先行きが不安なため、まだしばらく現状のまま変わらない。しかし、高額商材、エアコンや冷蔵庫などの省エネ商材は安定して売れている。
	<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・今のところ、景気が良くなる兆しはない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・気候が良くなるとレジャー費が増え、自動車に掛けるお金は必要最小限になる。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・景気は悪い状態のまま変わらない。原油価格高騰、中東やウクライナも含めて世界情勢がなかなか良くならないため、景気の安定や復活はできないとみている。新入社員の初任給を大きく上げている大手企業もあるものの、既存の社員に対する賃上げについては期待できないため、今後も景気はやや悪いままで変わらない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	高級レストラン（営業担当）	・レストラン、宴会共に前年と同様の推移で予約を受注している（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・レストランは3月も客が一杯入っており、2～3か月先もそれほど変わらない。席数から客の入れる人数は決まっているため、極端に伸びるということはない。3月は人の出入りが激しいことから、ケータリングも多く、売上が伸びるが、2～3か月先は人の動きが落ち着いてくる時期のため、今よりは少なくなる。全体的には今月と同じくらいかやや良くなるとみている。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・毎年、3～4月は大体同じようなペースで歓送迎会の予約がある。週末も花見イベントで客足が多くなる（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	その他飲食 [カフェ]（経営者）	・インターネットと実店舗での販売が半々だが、インターネット販売は安定しており、将来的にはこちらが主流になりそうな気配がある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他飲食〔居酒屋〕 (経営者)	・4月以降に値上げされる物が多く、景気が良くなる要因は見当たらない(東京都)。
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕 (役員)	・2026年度に向けた価格転嫁交渉も計画以上に積み上がっているが、賃上げなど人事制度改正等により収益水準はやや悪くなるか横ばいになると予想される(東京都)。
	□	都市型ホテル(経営者)	・宿泊部門、宴会部門共にこの先2～3か月はやや良くなる見込みではあるが、世界情勢の影響からエネルギー関係や原価等がかなり上昇しており、先の見通しが立たないため、不安である。早く収束することを願っている。
	□	旅行代理店(経営者)	・3～6か月先の計画を立てなければいけないような商売ではあるが、現状ではそこまで先の見通しが立たないため、変わらない。
	□	タクシー運転手	・特に客が増えるとは考えられないが、個人タクシーなので、燃料代の高騰で景気がどうなるのか心配である(東京都)。
	□	タクシー(団体役員)	・悪くなる可能性が高そうだが、現時点では分からない。中東情勢次第ではないか。
	□	通信会社(営業担当)	・中東情勢の緊迫化により物価が上昇し、消費に対して前向きになる状況が見通せない。
	□	通信会社(局長)	・グローバル環境が大きく変化しているなか、当社としては原価高騰の影響を受けるが、それ以外の部分では余り変わらないこともあり、エリア外営業を強化しながら更にB to B関連を伸ばさせていけば、全体的な売上、利益の確保はしばらく続くとみられるため、何とか現状を維持できる見込みである(東京都)。
	□	通信会社(営業担当)	・良くなる材料がない。
	□	通信会社(管理担当)	・契約数の伸び悩みはしばらく継続する見込みである(東京都)。
	□	通信会社(管理担当)	・案件が一段落するため、新規案件の開拓を行いつつ、変化する市場への対応が必要である。そのため、総合的には変わらない見込みである(東京都)。
	□	通信会社(経営企画担当)	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されないため、変わらない(東京都)。
	□	観光名所(職員)	・世界情勢による影響が何らかの形で出てくる(東京都)。
	□	ゴルフ場(経営者)	・ウクライナや中東情勢など、悪い材料しかない。
	□	ゴルフ場(経営者)	・春のハイシーズンになるが、原油価格と円安に起因した物価の上昇がレジャー支出を抑える要因となる。
	□	競輪場(職員)	・休止している事業の再開予定がない。
	□	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕(従業員)	・不安要素はあるものの、現時点では大きく変わらない(東京都)。
	□	その他サービス 〔フィットネスクラブ〕(エリア統括)	・中東情勢による先行き不安のなか、更に物価高が進む不安感が個人消費の足を引っ張る可能性がある(東京都)。
	□	設計事務所(職員)	・石油価格の問題が大きく影響する。いつまでこの状況が続くのか見通せず、世界情勢次第である(東京都)。
	□	住宅販売会社(従業員)	・資料請求件数に変化はない。
	▲	商店街(代表者)	・国際情勢や原油価格などの不安要素は、日々の購買行動や消費マインドにじわじわと効いてくる。短期的には物価対策のおこめ券に代わる区内共通商品券などの効果が商店街にもあるだろうが、一過性に終わるとみている。不安要素の方が大きい(東京都)。
	▲	一般小売店〔印章〕 (経営者)	・年度末の区切りで商材に多少の動きがある。4月も期待したいが分からない。
	▲	一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・世界情勢から、改善する兆しが見えない。
	▲	一般小売店〔生花〕 (店員)	・2～3か月先の5月は母の日があるものの、最近の母の日は余り花が売れない。個人商店ではいろいろと難しくなっている(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・小売部門ではいろいろな物を駆使していることもあり、売上が伸びている。外商部門もそれなりに案件はあるが、懸念材料としては、シンナー等の石油由来の内装向け資材の枯渇や値上がりの連絡がきていることである。そのため、この先は原価率が上がり、景気はやや悪くなる。
	▲	百貨店 (総務担当)	・フロア改装に向けた工事が続くため、全館での売上に影響を与える。
	▲	百貨店 (営業担当)	・原油価格の上昇が、入居テナントの商材に今後どのような影響を与えるのかまだみえない。石油製品を多く扱う100円均一のような店は値上げをするのか、生活コストが上がり、し好みやぜいたく品の買い控えにつながるのか等、懸念材料は幾つも考えつくが、良い材料は見当たらない。食料品の消費税減税が起爆剤になることを期待している (東京都)。
	▲	百貨店 (営業担当)	・中東情勢の不安定さにより、物価上昇や株価の乱高下などマイナス要因が多い。これまでの状況が続くような楽観視はできず、消費行動の減退に直結する可能性が高い (東京都)。
	▲	百貨店 (販売促進担当)	・現政権の政策により消費気運が高まることを期待したが、中東情勢の緊迫化による不安感の高まりから、客の消費意欲は減退するとみられ、景気はやや悪くなる。
	▲	百貨店 (財務担当)	・中東など地政学リスクの高まりによる物価高が個人消費に影響を及ぼす (東京都)。
	▲	百貨店 (企画宣伝担当)	・国際的な政情不安やガソリンを始めとする生活必需品の価格高騰により、消費マインドが停滞する。
	▲	百貨店 (店長)	・世界情勢の先行きが見通せず、原油を含めた物価の上昇が再度加速すると想定される。大企業は賃上げできているようだが、中小企業は大幅な賃上げは期待できないため、購買意欲が高まることは考えられない。
	▲	百貨店 (管理担当)	・世界情勢の変化により、客が購買に一層慎重になると予想される。一方で、作業委託費やシステムに係る固定費は上昇し続けており、客の財布のひもが固くなると宣伝費等を緊縮しなければならなくなるため、より景気が悪くなる (東京都)。
	▲	スーパー (経営者)	・1品単価が上昇し、買上点数が減少している。ガソリン価格上昇の影響により心理的にも節約志向が進むとみられる。今後も更なる値上がりがあるため、良くなる見込みはない。
	▲	スーパー (経営者)	・中東情勢が不透明である (東京都)。
	▲	スーパー (店長)	・消費者には節約志向が依然として根付いており、世界情勢が不安定ななか、食料品においても物価上昇が考えられるため、現在よりも良くなるとは考えにくい (東京都)。
	▲	スーパー (仕入担当)	・中東の海峡の原油調達については、工場稼働、物流等の燃料に関わる問題と、ペットボトルや食品トレイ、容器、手袋、レジ袋等のプラスチック製品製造に関わる問題があり、今後大きく値上げや原材料不足が生じてくる。
	▲	スーパー (販売担当)	・中東情勢次第である。
	▲	コンビニ (経営者)	・買上点数が減り、おにぎり等の単価が上昇している商材に全く手が伸びない傾向が非常に強くなっているため、やや悪くなると考える。
	▲	コンビニ (経営者)	・休日におけるコンビニの利用のされ方が改善されるのかが課題である。
	▲	コンビニ (経営者)	・中東情勢にもよるが、物価高が続くと客はコンビニより安価なドラッグストアやミニスーパーに行ってしまう。最近コンビニでは当店も含めて初めて値引き販売を進めている。値引きを行うことによって来客数を取り戻したいものの、まだ厳しい。
	▲	コンビニ (経営者)	・中東情勢の影響により株価が大きく低迷し、原油価格も高止まりしそうな気配で、原油の輸入動向次第ではインフレが起きる公算が大きい。先が見えないことも不安要素である。所得が増えても燃料費や製品が値上がりしては、消費は伸び悩む (東京都)。
	▲	コンビニ (エリア担当)	・4月に加熱式たばこの増税に伴う値上げがあるため、買い控えから売上が厳しくなる (東京都)。
	▲	コンビニ (エリア担当)	・今後も物価高に伴う来客数の減少傾向に変化はない (東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	衣料品専門店（経営者）	・円安が続くなか、ガソリン価格が急騰し、原材料費も大幅に上がっている。客に見積額を伝えてしまった手前、急に値上げするわけにもいかず、利益の確保が難しくなっている。物価が安定しない限り、この先はやや厳しくなる。
	▲	家電量販店（店長）	・賃上げが定着してきているが、世界情勢の影響によりインフレリスクが再燃しているため、更なる物価高やエネルギー関連の値上げで消費活動に影響が出る。4月からの値上げが食品だけで2000品目を超えることから、財布のひもが締まることは予想がつく。これらの要因を考えると、景気はやや落ち込む。
	▲	家電量販店（店員）	・物価高によりやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢次第で上振れも下振れも考えられる（東京都）。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	・世界情勢に鑑みて、買い控えがあると予想している。
	▲	乗用車販売店（渉外担当）	・中東情勢が大きな不安材料となる。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン代が高騰していることとローン金利の上昇が影響し、来客数が減っている（東京都）。
	▲	住関連専門店（店員）	・原油調達の問題があり、物価は上昇する一方である（東京都）。
	▲	その他専門店〔貴金属〕（統括）	・社会情勢が不安定ということもあるが、物価上昇など生活していく上で必要な消費に対する不安があることから、景気はやや悪くなる（東京都）。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・中東情勢の地政学リスク次第であるが、原油価格の高騰が続けば、石油製品は元より化学品や輸送等、様々な分野でコストが上昇し、消費マインドが冷え込む（東京都）。
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ガソリン価格の急速な上昇に加え、原油価格高騰の影響による更なる物価上昇も見込まれるため、購買行動は縮小傾向となる（東京都）。
	▲	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・天候も安定せず、不安材料が多い（東京都）。
	▲	高級レストラン（経理担当）	・足元の法人客の売上は減少していないものの、業績が良い今期中に消費しようという声も聞かれる（東京都）。
	▲	都市型ホテル（経営者）	・中東情勢の影響による燃料価格の上昇もあるが、何より平和が脅かされると観光や人の動きが阻害される。日中関係に加えて世界情勢に問題が生じる状況では良くならない（東京都）。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・中東情勢の緊迫状態がかなり長引きそうである。
	▲	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の先行きが見えないなか、政府の備蓄燃料放出もどれほど効果があるか不明である。先行きの見込みも良くない（東京都）。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・国力が低下している（東京都）。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・中東情勢の影響により、物資不足、物価上昇によりレジャーにお金を掛けなくなる。
	▲	タクシー運転手	・ガソリンや食料品を含め物価の上昇が著しく、毎日の生活に困窮している人が増えてきている。今後ガソリンや食料品の価格が下がることを期待している。
	▲	タクシー運転手	・現時点では、中東情勢がこれからどのように影響してくるのか、原油調達が滞ることで燃料代が高騰し、それによりどのような変化があるか読めない。現状それほどの影響はないが、今後の動向によっては変わる（東京都）。
	▲	通信会社（管理担当）	・物価上昇により販売数は横ばいである。
	▲	通信会社（経理担当）	・原油の価格転嫁が夏頃までは続きそうである。原油の備蓄放出で物資不足にならないければよい。
	▲	通信会社（営業担当）	・原油価格を含めて余りポジティブな話がない（東京都）。
	▲	観光名所（職員）	・中東情勢の影響がこのまま続くようであれば、景気は良くならない。家計への負担も大きくなり、観光等レジャーへの支出は自ずと縮小するとみている。インバウンドについても、燃料費の高騰や空路の安全が旅客機の運航にも影響するとみられることから、良い見通しが持てない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	ゴルフ場（従業員）	・石油の安定供給が見込めず、中東情勢の影響が長引けば長引くほど、物価上昇にとどまらず、必要な物が手に入らない状況に陥ることが懸念される。
	▲	パチンコ店（経営者）	・中東情勢が緊迫化し、国内を取り巻く環境は、原油価格高騰や円安の影響によりインフレが加速、あるいは高止まりし、消費動向は低下基調に向かうと予想される。
	▲	その他レジャー施設 〔複合文化施設〕（財務担当）	・中東情勢の影響による原油価格高騰が心配である（東京都）。
	▲	その他レジャー施設 〔映画〕（営業担当）	・中東情勢の影響があり、世界経済が安定しない（東京都）。
	▲	その他レジャー施設 〔総合〕（経営企画担当）	・中東情勢の影響を受け、訪日キャンセルが増えている。また、原油価格の高騰の影響による物価高に加え、不安定な株価による心理的な影響もあり、景気動向は悪化が想定される（東京都）。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・相変わらず物価上昇が続いているため、生徒数は減少している。教育費に回すお金を増やせないという親が多くいるため、景気は下向きになる。
	▲	その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・契約メインの商売のため、転勤等で契約者数が減るリスクがある。中東情勢の影響による原油価格の高騰で、今後のメンテナンス費用の増加が気掛かりである。
	▲	その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・中東情勢が見通せず、全般的に景気は悪くなる。
	▲	設計事務所（経営者）	・中東情勢の緊迫化で、世界が全く変わろうとしている。建築資材の価格高騰などを考えると、現状は非常に悪い。
	▲	設計事務所（経営者）	・中東情勢をきっかけに、今後の資材、労務費の高騰に歯止めがかからず、先行きが不透明である。
	▲	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建材需要期が一段落するなか、大型案件もあるものの、前年の総量を超える見込みはない。仕事量は目減りする傾向にある（東京都）。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・原油価格の高騰でガソリン代への影響が大きくなってくる。ほかにもなかなか入ってこない商材もある。照明器具などはメーカーからいつになるか分からないといわれており、エアコン等も値上がりしているため、この先は苦しくなる（東京都）。
	×	一般小売店〔書店〕（総務担当）	・輸送費の上昇はもはや避けられない。中東情勢の緊迫化前に、取引先と送料料を含めた契約を締結しており、増加分の輸送費を転嫁することは困難である。このため、2～3か月先の業績悪化は避けられない見通しである（東京都）。
	×	スーパー（ネット宅配担当）	・4月以降の値上げラッシュと原油価格の推移によっては、見通しが立たなくなるおそれがある。
	×	スーパー（食品担当）	・各企業の努力によるところが大きいですが、支えきれなくなる（東京都）。
	×	コンビニ（経営者）	・オイルショックのときのようなことが起きるような雰囲気がある。噂というのは怖いもので、徐々に買占めが始まっている。
	×	コンビニ（経営者）	・中東情勢の懸念で外出を控える様子が見受けられる。この状態でいつまで商売ができるか不安である。
	×	乗用車販売店（営業）	・ガソリン価格の高騰もあり、車の買換えが進まない。
	×	住関連専門店（営業担当）	・中東情勢の緊迫化により石油由来製品の値上げ、品不足や消費マインドの冷え込みなど多大な影響があるとみられ、楽観的な見通しは立たない（東京都）。
	×	その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・原油調達の方次第で、いろいろな商材が供給不足になる可能性がある。
	×	高級レストラン（役員）	・対米首脳会議は終了したものの、中東情勢の影響による世界的な原油価格の上昇から始まる経済悪化と、不透明な先行きへの不安感は続く（東京都）。
	×	高級レストラン（仕入担当）	・世界情勢の影響により、経済の減速は避けることはできない（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	・3か月後、中東情勢が落ち着いても、重油等のエネルギー資源が回復するのは大分先になる見込みである。ガソリンなどの石油製品等が値上がりするため、売上はなかなか戻らないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般レストラン（経営者）	・米国の政策や中東情勢の影響により、食材のほかにラップなども価格が上がるといわれている。食材、資材に加え欧州等からの輸入品も値上がりし続けている。その上、外食機会も減ると、外食産業は厳しくなる。
	×	一般レストラン（経営者）	・中東問題が長引いた場合を予想しての回答である。
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・石油調達の問題で、現時点でも値上がりの話が出始めている。この2年ほど様々な資材や原料価格が上がり、値上げが続くなか、更なる値上げは、消費者からするとまず身近で必要な物を買うことからとなり、嗜好品や外食への支出は厳しくなってくる。早く中東情勢が落ち着くことを願うばかりである（東京都）。
	×	観光型旅館（スタッフ）	・中東情勢の影響がある（東京都）。
	×	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の影響によるエネルギー価格の上昇及び世界情勢不安のため、旅行控えが発生すると予想している。
	×	旅行代理店（従業員）	・海外旅行は世界情勢と航空券の燃油サーチャージの値上げのダブルパンチである。欧州、長距離路線はかなり厳しくなり、集客できても利益率の低いアジア圏のみとなりそうである。また、国内旅行も前年の大阪・関西万博のような大型イベントもなく、物価高の影響もあって動きが鈍いため、かなり苦戦する見通しである（東京都）。
	×	通信会社（社員）	・中東情勢が落ち着くことはない。原油に端を発する物価上昇に、明るい兆しはどこにも見当たらない（東京都）。
	×	ゴルフ場（経理担当）	・中東情勢の影響により経済の先行きが不透明である。今後も素材、エネルギー価格の高止まりは続き、固定費の回収すら苦慮する経営環境にあり、利益を創出できない状況が続くことには変わりはない。3か月後に当たる6月下旬は気温が高くなり始める時期であり、楽観視はできない。物価上昇、実質賃金低下により、生活防衛を意識して高額レジャー支出の抑制が顕著となる状況を総合すれば、景況感の回復を展望することは困難である。
	×	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・集客期にもかかわらず反響が悪すぎる。
	×	設計事務所（所長）	・仕事の受注見込みがない。
企業 動向 関連  (南関東)	◎	その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・決算ボーナスもだが、7月昇給も前年同様に行う予定である。景気は上向きである。
	○	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・全体的には余り変わらないと回答したが、部分的にみると今月は会社設立印の注文が5本あり、例月よりはやや多くなっている。また、個人の実印で、ふだんは1本の注文が多いところ、家族分もまとめて4本という注文があり、その客とは別に1本余計に作る客もいた。印鑑は必要になって作るものだが、景気がやや上向いてきて、財布のひもが緩くなっているとみている（東京都）。
	○	金属製品製造業（経営者）	・夏場にかけて忙しくなる取引先が多くなっているが、当社にはほとんど影響がなく、厳しい状況が続く。新規客の開拓を進めているため、2～3か月後には多少は効果が出ることを期待している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先からの内示では、取引量が増えるところと減るところがあり、相殺される可能性があるものの、総じて単価の適切な見直しに応じてくれた取引先の取引量が増える予定である。
	○	電気機械器具製造業（企画担当）	・A I 関連半導体製品の需要が拡大し、客の要求に応えることができれば、確実に当社の景気は良い方向に向かっている。
	○	建設業（経営者）	・政治が安定してきているため、やや良くなる。
	○	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・このまま推移していけば利益率が上がり、売上も伸びる。
	□	食料品製造業（経営者）	・これから値上げがどの程度まで続くのかまだ分からないため、心配している。
	□	プラスチック製品製造業（経営者）	・中東向け医療品容器の大型案件に、原料調達が対応できるか心配である。
	□	金属製品製造業（経営者）	・中東情勢の影響により将来の予測が難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	精密機械器具製造業（経営者）	・ウクライナや中東情勢によりエネルギー、原材料、物価上昇、円安、金利上昇等、不確定要素が多く、中小企業では解決できないことばかりで、全く先が読めない。そのため、設備投資も控えなくてはならなくなっている。
	□	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・中東情勢が収束しない限り、自動車メーカーは計画比で減産する見通しであり、景気は後退する。
	□	建設業（経営者）	・景気全体としてはこう着状態である。メディアなどで景気が悪いと言っているが、実際どうなのかは疑問である。
	□	建設業（従業員）	・世界情勢が安定していないため、不安が募っている。原油価格の高騰に伴う物価上昇で、原価がますます上がっており、先行きに不安が残る。
	□	建設業（営業担当）	・悪い状態が続くとみられるが、時期的に官公庁の工事入札量が多少安定するため、良くはならないが悪くもならない。
	□	輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷は閑散期になり、燃料の動向次第では、大きく低迷する予想である。今後も情勢を見極めていく必要がある。
	□	通信業（広報担当）	・当面は現状のままとみられるが、今後は下押し圧力が高まる（東京都）。
	□	金融業（営業担当）	・製造業関連の受注予測は、先行きの不透明感が払拭できない状況が続いており、改善し得る要因は余り見当たらない企業が多い。不動産関連は郊外の戸建ての冷え込みがやや見受けられるものの、首都圏近郊物件の活発な状況は継続している。
	□	不動産業（経営者）	・当社テナントビルの入居率に変化はないが、近隣の賃貸住宅あっせん業者の話によると、来店、インターネット共に商談は減少しており、ライフスタイルに合う物件への移転、賃貸から持家への住み替えなど様々な希望はあるものの、物件価格の高騰により、現状で我慢している様子がうかがえるため、しばらく動きは鈍いとみている。
	□	不動産業（経営者）	・政治や国際情勢の先行きが不透明である（東京都）。
	□	不動産業（従業員）	・そろそろ上昇基調が落ち着いてくる（東京都）。
	□	不動産業（総務担当）	・中東情勢が緊迫化しているが、この先2～3か月においては、景気は変わらず良い（東京都）。
	□	広告代理店（経営者）	・AIツールの普及による業務環境の変化が続いているが、短期間で大きく状況が変化するとは考えにくい。取引先でもAI活用を試行する動きがあるものの、完全な内製化には時間が掛かるとみられる。当社としてもAIツールの導入や学習を進めているが、業務内容や受注量に急激な変化が出る段階ではない。当面は現状が続き、景況感は大きく変わらずに推移する（東京都）。
	□	税理士	・中東の海峡閉鎖により石油の調達が滞っている影響から、ガソリン、ナフサなども高くなっている。円安も続いているため、中小零細企業は原材料を高値で買うことになっている。大手の輸出企業は円安で利益が増えているだろうが、中小零細企業は原材料高、燃料価格の高騰に加え、人手不足で非常に苦戦している（東京都）。
	□	社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
	□	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・問合せ等が増えてきているが、原材料、資材等の値上げも予定されており、トータルとしては厳しい状況のまま変わらない。
	▲	食料品製造業（経営者）	・中東情勢の影響に伴う物流費高騰による波及を懸念している（東京都）。
	▲	食料品製造業（経営者）	・マイナス要因がいろいろと増えているため、悪くなる（東京都）。
	▲	繊維工業（従業員）	・原油市場の混乱により、この先徐々に影響が出てくる恐れがある（東京都）。
	▲	化学工業（従業員）	・中東情勢の影響が出始めており、原料の納期が不透明になっているため、生産に影響が出そうである。
	▲	化学工業（総務担当）	・中東の海峡封鎖の影響により、化学品の価格高騰、供給制限が始まりつつあり、当社の事業にも相当のダメージがあるとみている。
	▲	その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・中東情勢の影響による原油価格高騰など、物価変動の余波を受けやすい業界のため、やや悪くなる（東京都）。
	▲	建設業（経営者）	・急激な価格高騰により物件数が目減りする。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	金融業（従業員）	・中東情勢の先行き不透明感、中小企業の経営環境に継続的な不確実性をもたらしている。原油価格上昇により、原材料価格が高騰し、収益の圧迫や取引の遅延、回収不能といったリスクも懸念される（東京都）。
	▲	金融業（総務担当）	・値上げはまだ続きそうであり、実質賃金が上がっても実感が湧かない。ガソリン価格も上がっており、車で旅行する人が減っているため、観光業や宿泊業に影響が出そうである。住宅ローン金利上昇の影響もあり、都内のマンションの売行きが低迷し始めている。消費者は買い控えをし、無駄な物を買わなくなっている。リユース販売業は好調である（東京都）。
	▲	金融業（支店長）	・株価の上昇に無関係な中低所得者の生活は圧迫され、その層を相手に商売している店の収支も悪化の一途をたどっている。
	▲	不動産業（経営者）	・エネルギー価格の上昇から、全てのコストが上がりそうである（東京都）。
	▲	不動産業（従業員）	・材料費等の高騰につき、建設費全体が厳しくなる可能性が高い（東京都）。
	▲	広告代理店（営業担当）	・中東情勢の緊迫化が長引きそうであり、更なる物価高が見込まれることから、クライアントの宣伝費が抑制される（東京都）。
	▲	経営コンサルタント	・中国との関係や中東情勢など不安定な要素が多く、景気が良くなる材料がない。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・5～8月頃までは受注量が減少する見込みである（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	・原油価格の高騰の流れで資材全般の値上げ交渉が多々発生しており、見積りの際に慎重にならざるを得ない。また、今後どの程度の値上げになるか、資材の調達ができるか、予想がつかないことを考えると、最悪な状況といえる（東京都）。
	×	輸送業（経営者）	・中東情勢の収束にどの程度時間が掛かるのか注目している。仮に長引けば、状況の悪化は避けられない（東京都）。
	×	輸送業（経営者）	・物量とは別に、燃料価格の上昇の影響が大きい（東京都）。
	×	広告代理店（従業員）	・今月は良かったが、期末という1年でも特殊な月であるため、2～3か月先は今年よりは悪くなる（東京都）。
	×	税理士	・中東情勢が改善されなければ原油価格の高騰は確実である。価格の問題だけでなく、原油そのものが入手困難にもなりかねない。原油調達を中東に依存し過ぎていたため、他の入手方法を官民一丸となって考えた方がよい。
	×	経営コンサルタント	・重油不足はどの分野にも多大な影響がある（東京都）。
	×	その他サービス業 [ビルメンテナンス]（経営者）	・原油価格の高騰により物価が上昇する。
	×	その他サービス業 [ソフト開発]（経営者）	・ガソリン価格の高騰が景気を押し下げる（東京都）。
雇用 関連  (南関東)	◎	新聞社 [求人広告]（担当者）	・現時点でかなりの予約が入っている。現在の事業がうまくいっておらず、他業種に転換するために新たに求人をするような依頼がかなりある。
	○	人材派遣会社（支店長）	・自社も他社も忙しさはあるので、経済が回り始めてほしい。
	○	職業安定所（職員）	・求人数の増加傾向が続いており、今後も同様の動きが期待できる。
	□	人材派遣会社（社員）	・今後も求人数が減ることはなく、同水準で推移する。
	□	人材派遣会社（社員）	・課題解決型の請負案件が多くある。今後もその流れは変わらない（東京都）。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人数に大きな変化はない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・4月に入り新年度が始まるとともにエンジニア派遣ニーズが回復する期待はあるものの、現時点では予測不能である。4月の動向を確認したい（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（経営者）	・国際情勢が不安定であり、予断を許さない（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（広報担当）	・物価高などのマイナス要因もあるが、景気が良い状態が続くとみている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	求人情報誌製作会社（所長）	・表面的な変化はあるものの、根本が変化している兆候はみられない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年比で微減が続いているが、事業所の担当者からは人手不足で新規の仕事を受けられないとの声も多く聞かれる。
	□	職業安定所（職員）	・先行きの不透明感が強く、判断が難しい（東京都）。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・企業からの求人は幅広い業種であるものの、企業側の条件が結構厳しく、条件に合う人がなかなか見つからない状況は今後も続く（東京都）。
	▲	人材派遣会社（支店長）	・中小企業では、人手不足ではあるものの、人件費や物価上昇に伴うコスト圧迫もあり、必要な人材採用も手控える企業がある（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・物価が安定しないため、暮らしへの影響が大きい（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・中東情勢の影響により、やや悪化方向と考えている（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・採用活動が一段落するため、やや悪くなる（東京都）。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・求人数の動きは例年どおりだが、年度末の3月を超えたタイミングで求人数が減少し、業界全体として落ち着く。派遣就業総数は若干減少する程度とみている（東京都）。
	▲	職業安定所（職員）	・製造業において、需要の減少と経費の増加により人員整理が行われている。
	×	人材派遣会社（社員）	・中東情勢の影響を受けて、求人数も減少するとみている（東京都）。
	×	求人情報誌製作会社（営業）	・原油価格高騰や物価の上昇により、生産を抑えたり雇用を減らす動きが加速している。体力が持たずに倒産する企業も増えてくる。

#### 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (甲信越)	◎	タクシー（経営者）	・人の動きは活発になってきているものの、世界情勢の影響が懸念される。
	◎	その他サービス [葬祭業]（経営者）	・様々な依頼が増えている。
	○	商店街（代表者）	・天候が暖かくなり、客が自然と外に出ることが期待できる。毎年、春先から夏にかけては客足が徐々に良くなる。
	○	スーパー（経営者）	・4月から、プレミアム付商品券の発行が始まる。新型コロナウイルス感染症発生時の発行でも助けられた。確実に来客数は増加する。
	○	コンビニ（経営者）	・徐々に天候が暖かくなり、日も長くなっていくため、客の動きが若干良くなり、売上も多少増えるとみている。
	○	コンビニ（経営者）	・観光シーズンに期待している。
	○	乗用車販売店（経営者）	・モデルチェンジや自動車税の環境性能割廃止などにより、新車需要が喚起されることを期待している。
	○	一般レストラン（経営者）	・来月からのプレミアム付商品券の発行に期待している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・物価高が続き利用は減少傾向になるとみていたが、イベント等における客の消費は過去よりも増えている。ゴールデンウィークは各種イベントやコンサート等で、宿泊料金に関係なく早い段階から予約が動いており、好調に推移している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・前年同期と比べ、客入りが期待できるかどうか分からない。ただし、マラソン大会の開催などで一定の需要は見込めそうである。
	○	通信会社（社員）	・加入者数の増加という点では良くなる見込みだが、解約者数を減らす努力も必要である。
	○	遊園地（職員）	・春休み終了後も、広報効果の確保やイベントの開催等、積極的な集客施策の実施や情報発信を行うことで、より多くの客の来園を期待している。
	○	その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・天候に左右されるところもあるが、ゴールデンウィークに向けて集客が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	一般小売店〔家電〕 (経営者)	・消費者は我慢の生活をしており、必要のない物の購入を控える生活に慣れて消費意欲もみられない。販売側にとっては厳しい状況が続くそうである。
	□	百貨店 (店長)	・景気対策への期待よりも社会情勢への不安感が消費マインドに影響するため、上向きになる状況ではないと考えている。
	□	家電量販店 (店長)	・物価は上がっているものの給料は据え置かれており、支出だけが増えている。
	□	自動車備品販売店 (従業員)	・世界情勢など不透明な状況が続いており、ガソリン価格など物価高騰が続く予想もあるため、良くなるとは言いにくい。
	□	高級レストラン (経営者)	・世界情勢が不安定で物価高騰が止まらないため、客足は伸びない。
	□	スナック (経営者)	・新型コロナウイルス感染症の発生以降、客は送別会等でも大人数での開催を避ける傾向にある。少人数の宴会はなかなか売上につながらないのが現状である。歓送迎会も同様に余り期待できない状況で、翌朝の車の運転等を考えて早く帰る客も多く、なかなか売上が増えない。
	□	タクシー運転手	・市の中心から離れた山間地で、自家用車の保有率が高いエリアのため、日常の買物などでのタクシー利用は見込めず、変わらない。
	□	ゴルフ場 (経営者)	・世界情勢の影響範囲が分からない。
	▲	商店街 (代表者)	・現状維持が精一杯である。
	▲	商店街 (代表者)	・4月からの値上げラッシュや中東情勢の影響により、景気は気からということで、ゴールデンウィークも期待薄である。
	▲	百貨店 (経理担当)	・不安定な世界情勢、特に、中東地域の石油資源関連で、石油製品の価格上昇や円安傾向による物価上昇から、消費鈍化が想定される。
	▲	百貨店 (営業担当)	・中東情勢が不確実であるため、これからどうなるか分からない。原油価格の高騰や物価高が直接影響し、生活にも響いてくる。
	▲	スーパー (経営者)	・原油価格が燃料費高騰に結び付き、いつ平常化するか見込めないため、客の節約志向は当然のことである。売価を上げられなければ利益は減少する。
	▲	スーパー (企画担当)	・ガソリン価格が急騰前より1リットル当たり10円程度高くなっているため、消費者心理が萎縮し悪化している。
	▲	コンビニ (経営者)	・ガソリン価格の高騰が続く、今後も生活が圧迫されれば、購買意欲は低下する。
	▲	コンビニ (経営者)	・世界情勢や物価高がかなり影響してくる。前月より売上が減っているところだが、これから前月より売上が増えてきても前年実績は超えないと予想している。
	▲	コンビニ (エリア担当)	・再度、物価上昇が目立ってきている。賃金は上昇しても可処分所得が増えず、消費に回せない。
	▲	コンビニ (店長)	・依然として不安定な状況が続いており、今後は厳しくなるとみている。ただし、生活水準を落とすことは難しいため、極端に落ちることはない。
	▲	一般レストラン (経営者)	・一般消費者が頭を悩ます事象ばかりが発生しており、良くなる理由が見当たらない。
	▲	スナック (経営者)	・何が原因で悪くなっているのかよく分からない。世界情勢も不穏で、ガソリン価格も高く、諸物価が上昇している。こうした影響から、良くなっていくとは期待できない。節約して乗り切るしかないが、現状のままだと景気はやや悪くなる。
	▲	観光型旅館 (経営者)	・特に4月の予約で客の動きが悪い。中東情勢が変化する前から4月の動きは悪く、原因が分からない。ガソリン価格が上がると車での旅行を控える傾向にあるため、今後の動向が一層心配である。
	▲	都市型ホテル (スタッフ)	・4月から食品など2000品目以上が値上げと報道されている。また、ガソリン価格の高騰により、客の外出控え、ホテル、レストラン等での食事を控えるようになる。今後の物価高がどこまで続くのか、非常に気になる場所である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	旅行代理店（副支店長）	・海外旅行の受注は諸般の事情で確実に減少している。その分、国内旅行に期待したいが、物価高で動きが鈍く、ゴールデンウィークの予約も少ない。客が足踏み状態のため、期待薄とみている。
	▲	通信会社（社員）	・中東情勢の変化や長期化が物価を押し上げ、客が消費を控える傾向が更に加速していくため、やや悪くなる。
	▲	観光名所（職員）	・ガソリン価格が多少下がり始めたものの、燃料費の高騰による交通機関の減便やマイカー利用客の減少に懸念があるため、やや悪くなるとみている。
	▲	ゴルフ場（副支配人）	・ガソリン価格の高騰など、物価上昇が収まらなければ回復が難しい。
	▲	その他サービス〔貸切バス〕（経営者）	・燃料が高騰しているため、やや悪くなる。
	×	コンビニ（経営者）	・物価高や少子化の影響により悪くなる。
	×	乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢の影響を受けて悪くなる。
	×	その他専門店〔酒〕（店長）	・今後は再び格差が広がっていくのではないかと危惧している。ガソリン価格の高騰によって消費とは関係なく物価が上がっていくため、強いところと弱いところがはっきり分かれるかと警戒している。中東情勢の影響が長引かないことを祈っているが、しばらくは続きそうなので、客の様子をみながら販売していきたい。6月は各種税金の支払月のため、非常に悪くなる。
企業 動向 関連  (甲信越)	◎	—	—
	○	食料品製造業（製造担当）	・出張販売に注力し、回数を増やして売上増加を目指す予定である。
	○	金属製品製造業（総務担当）	・半導体が回復し、やや良くなる。
	□	食料品製造業（総務担当）	・原材料価格の高騰が続くと予想される。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注品の受注対応で多忙がしばらく続きそうである。
	□	建設業（経営者）	・工事単価は少しずつ上がっている。受注量は若干増えている。
	□	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・世界情勢に対する不安から値上げが続いている。新年度に対して警戒感を示している取引先が多くみられる。
	▲	食料品製造業（営業統括）	・今後の中東情勢によっては、消費者心理はますます引締め傾向が強くなるため、現状でも販売量は減少傾向にあるが、更に低下するものとみられる。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	・4月以降、現在料の値上げがめじろ押しである。また、ナフサ等の不足で、特に、シンナーも含めた塗料関係の値上がり非常に大きい。また、価格への影響だけでなく、入手も非常に困難になるということである。そうなれば製造もできなくなると懸念されるため、先行きは非常に心配である。また、当社だけではなく、いろいろな部署に影響が出る。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・今月に入り地金価格が急激に下がり、小売店ではまだ下がるのではないかと商材の仕入れを控え始めている。利益率が落ちているなか、給与改定や経費の上昇もあり、今後の見通しは厳しい。
	▲	金融業（調査担当）	・中東情勢の先行きに対する不透明感が強まっており、企業や消費者マインドの低下が予想される。
	▲	金融業（経営企画担当）	・中東情勢の変化により、更に物価高騰が進むのではないかと不安である。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
×	電気機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の変化に伴い、資材関係が今までにないほど高騰し、購入制限も掛かっている。生産や利益に影響が出ており、先行きは厳しくなる。	
雇用 関連  (甲信越)	◎	—	—
	○	職業安定所（職員）	・地元企業にも賃上げの良い影響が出るのではないかと期待感も一部にある。求職者の一部には、物価高に対応するために副業を検討する人や賃金などの労働条件を重視する傾向もみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	人材派遣会社（営業担当）	・中東情勢が解決すれば大きく変わりそうである。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比で1.0%減少し、前年同月比で2か月連続で減少している。
	□	職業安定所（職員）	・求職者の動きを前年同月比でみても大きな変化はない。
	▲	職業安定所（職員）	・中国の景気が低迷していることに加え、中東情勢が日本経済へ与える影響がより一層不透明となっており、今後は日本企業の収益悪化等が懸念される。
	▲	民間職業紹介機関（経営者）	・原油価格の高騰や円安による不安感が増しており、求人は多いものの、雇用条件のレベルも上がって、採用の厳しさは拡大している。
	×	—	—

## 6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	◎	商店街（代表者）	・まだ景気は上向きである。中東情勢の関係も落ち着くとみる。
	◎	百貨店（経理担当）	・中東情勢が落ち着き、原油価格高騰の解消や株高に加え、企業業績の持ち直しが期待されることから、現在の景気は回復局面に転じると考える。
	◎	百貨店（販売促進担当）	・株高を背景に、富裕層の購買を始めとして全体的に景気が上向きに推移しており、この流れは当面継続する。
	◎	乗用車販売店（従業員）	・全体的な流れから良くなるとみる。特に悪い要素はなく、一般的に前へ進んでいる印象を受ける。季節要因を含めずとも、良い期待ができる。
	◎	旅行代理店（営業担当）	・上期における団体旅行の取扱は6月に集中している。例年の猛暑を懸念して、7月以降は避けたいという客の声もある。
	○	百貨店（経理担当）	・6月上旬に近隣の高層ビルがオープンするため、地域がにぎわうとみる。
	○	スーパー（店長）	・現在の販売促進強化を継続すれば、来客数が増えていく見込みである。
	○	スーパー（販売担当）	・4月より値上げラッシュが続いてると懸念されるため、見込みは少ない。
	○	コンビニ（店長）	・現状の様子から悪くなる印象は受けない。ただし、中東情勢が今後どの程度影響してくるのか、若しくは特に影響が生じないのかが気掛かりである。
	○	家電量販店（店員）	・高額商品の購入に迷いのないパターンが多くなっている。
	○	その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・金の価格が下がり円高になることで、消費者の購買意欲が向上するとみる。
	○	その他専門店〔書籍〕（社員）	・5月頃まで、新年度向けの販売量の増加は続く。
	○	旅行代理店（経営者）	・中東情勢の影響は3月下旬から4月上旬に終わると想定するため、5月から6月は少し景気が良くなるとみる。
	○	旅行代理店（経営者）	・原油不足の問題はあるが、天候が暖かくなり少し活気付いてきた印象を受ける。このまま推移すると判断する。
	○	パチンコ店（経営者）	・新年度を迎え、いろいろな物に変化する。
	○	美容室（経営者）	・これまで寒かったために足が重くなり髪が伸びている客が、春になり天候が暖かくなれば来店する。
	○	美顔美容室（経営者）	・4月から7月末まで新規顧客募集のキャンペーンが始まる。
	□	商店街（代表者）	・週末の来客状況が変わらないため、当面景気は変わらない。
	□	商店街（代表者）	・家電製品の値上げが続いており、客には割高感が強くできてきている。そのため購入に慎重になっている。
	□	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・先の予約はある程度入るが、フリー客や直前の予約はまだ鈍い。4月からスパークリングワインやワインの値上げがあり、販売価格への転嫁が実施されるため、客の来店や消費機会の減少につながる。
□	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月程度では景気は変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	百貨店（売場主任）	・取引先が靴の製造を控えているのか、余り在庫を持っていないため、客注対応となることが多い。その場合は、メーカー在庫ではなく、取扱店舗を探して商品を融通してもらうことが多いため、今後サイズ切れが続出することが懸念される。土日の来客数は多いが、買物をするのではなく店内を散歩しているだけの客が多いため、売上に結び付かない。
	□	百貨店（販売担当）	・今後も物価上昇や価格改定の影響が続くとみられ、購入については慎重な動きが続くとみられる。そのため、全体としては大きな変化はないと見込まれる。
	□	スーパー（経営者）	・地域の伝統行事に伴う来客数増加に期待する。
	□	スーパー（店員）	・昔のオイルショックの記憶により、客がこぞって大量購入するため、紙系の仕入れ、在庫がない。オイルに関する商品や物流費が値上がりし、品薄が当分継続する。
	□	スーパー（店員）	・競合店のオープンから3か月ほど経つため、来客数も売上も落ち着いてくる。
	□	スーパー（販売担当）	・引き続き様々な物価が上がり、現在も来客数が減少しているが、これ以上悪くなるのかどうかは見通しを決めかねる。
	□	コンビニ（エリア担当）	・現状の動きに大きな改善が想定できないことから、現状の鈍化が数か月は続くとみる。
	□	コンビニ（店長）	・インバウンドの動向がどうなるかが最大の関心事である。国内客の動きはそれほど変わらないとみるが、インバウンドの状態によっては、景気は上向き、若しくは売上が上向きとみる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・物価高が続くと、洋服を購入しようという消費マインドは冷え込んだままの状態が続くとみる。
	□	衣料品専門店（店長）	・来店する客からの話で、業態を問わず非常に忙しいという声を今は多く聞く。ただし、中東情勢の影響による作業用資材の不足が出てきている。そのため、今後は中小企業の工場や塗装関連の多い地域経済に影響が見込まれる。
	□	衣料品専門店（売場担当）	・賃上げにより収入増加が見込まれる。一方で、生活必需品は4月から価格が上がり、賃上げ分が帳消しになる。
	□	家電量販店（営業担当）	・今年は前年よりも夏物が動くとする。
	□	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢の関係が良い方向に解決し問題がなくなれば、買い控えの分、景気は上がる。逆に、長引くのであれば、悪い方向にどんどん行ってしまうと懸念される。
	□	乗用車販売店（従業員）	・賃上げによる収入増加の期待感と、これからの物価高騰や原油輸入がうまくいかなかったらどうなるか、また、円安がどのように生活に響いてくるのかと相反する不安感が入り交じる状況で、なかなか明るい話題が会話のなかで出にくい。ゴールデンウィークもあるため、せめて天候に恵まれて人の行動が活発になることを期待する。
	□	乗用車販売店（従業員）	・販売枠が限られているため、販売台数は年々減少しており、台数を売ることができなくなっている。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・先行きの不透明感が客との会話でもあり、急ぎではない車の買換えは控えているとみる。環境性能割が廃止されることだが、どの程度の追い風になるか、来月以降にならないと分からない。
	□	住関連専門店（営業担当）	・全国的な状況で、石油ナフサが不透明な状況となり、建築業界全体で工事の見通しが立たない状況になっていること、また、資材価格の値上がりが見込まれ、既に値上げがされているところもある。物件自体は新築工事は減少しているものの、小中規模のリフォームや改修工事は多くなっており、当面は現状の維持で推移できるとみる。
	□	高級レストラン（経営企画）	・外部要因も含め、客の節約志向が強まっている。
	□	一般レストラン（経営者）	・当店の客は高齢であるため、退職者や年金生活の人が多く、財布のひもは固い。
	□	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・度重なる値上げにより、いつ消費が急激に減退するかと考えていたが、多くの消費者は値上げ後の価格に慣れてきている。また、最低賃金の伸びにより給与水準が良くなったという声もあり、消費を下支えしているとみる。
	□	観光型ホテル（支配人）	・宿泊予約数は堅調である。ただし、宴会の予約状況が悪く、トータルでは横ばいである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
	□	都市型ホテル（経営者）	・イラン情勢の問題が長期化すれば影響が懸念され、不確実性はあるが、現段階では先行きに大きな変化はまだみられていない。
	□	都市型ホテル（総支配人）	・宿泊は、5月までは比較的予約が入っているが、6月は季節要因もあり不透明である。中東からの重油が入らなくなれば、ホテルの給湯設備はA重油のため、営業できなくなるリスクがある。既に3月には原油元受けが販売調整をしていないにもかかわらず、重油納品業者が一時納品できないと通知してきた。
	□	旅行代理店（経営者）	・中東情勢が安全な方向に向かっていくことを見守るしかない状況であり、現在は燃油料の掛からない行先に切替えを促している。そのため、新型コロナウイルス感染症のときのように国内需要が高まる可能性が高い。
	□	旅行代理店（経営者）	・ターミナル駅の前が、成長ではなく縮小均衡の形になり始めている。昼食の低単価志向や駅前の飲食店ビルの空き店舗の増加、レストランの閉店時間の繰上げ等、人口減少に比例するとともに来街者数の減少が徐々に進んできている。様々な資源価格の上昇による値上げが予想されるため、それに伴う買い控えて値上げ分と相殺される。
	□	旅行代理店（営業担当）	・物価が上昇することが常態化しつつあり、実質賃金が少しずつ物価に釣り合うようになってきている。高い旅行代金の商品でも購入し、旅行する客が増えている。それは、一種の麻痺状態とも捉えられるが、家計に少し余裕があるとみる。
	□	タクシー運転手	・中東の情勢が不透明である。
	□	タクシー運転手	・最近客の動きが低迷しているように見え、今後も現在の動きから急に変化するようには思えない。気候が暖かくなれば客足も増える。急激な変化はないが、売上が増加することを期待する。
	□	テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィーク付近の行楽は、近場で済ませることが予想される。告知をしっかり行うことで、今まで来園しなかった客層が増える可能性がある。
	□	テーマパーク職員（総務担当）	・春休みが終わり、次はゴールデンウィークの集客に注力するが、同業施設との競争を非常に懸念している。また、ガソリン代の高騰がレジャー志向をより安近短に傾斜させる可能性があるため、今後は近隣住民の来園にも一層期待したい。
	□	美容室（経営者）	・明るいニュースよりも中東情勢問題等の暗いニュースが多いため、当分景気は変わらないと判断した。
	□	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・季節要因を差し引けば、余り変動はない。
	□	住宅販売会社（従業員）	・原油価格の高騰による影響が出てくる。資材、運送費がどこまで上がるのか、販売量にどう影響するかが不安である。
	□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・これから閑散期のため不安である。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	・現状が続くと決して良くはならない。必要な物だけ買い、余分に金を使わない傾向が続く。
	▲	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・ガソリンや光熱費の値上がりも続き、また、商材も値上げの連続であるため、一般顧客の購買が厳しくなると懸念される。
	▲	百貨店（総務担当）	・米価格の値下がりや暫定税率の廃止に伴うガソリン価格の値下がりがこのまま消費に回ると想定していたが、中東情勢の影響による原油価格の高騰がガソリン価格に反映され、マイナスの影響も懸念される。数か月後には、電気代やガス代に高騰分が反映されるとの報道もあり、消費マインド的にマイナス要因である。また、航空券の値上がり等の心理的な不安により、インバウンドの減少も懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	百貨店（企画担当）	・百貨店で取り扱っている食料品は原材料価格の高騰等による影響を受けて値上げされているが、それほど影響はなく売上を維持している。また、衣料品は気温に左右されているが、大きな落ち込みはみられていない。高額品は中国からのインバウンド顧客減少の影響によりグロスは下がっているが、国内富裕層が下支えをしており好調を維持している。その反面、国際情勢や為替、株価の変動による含み資産の減少が購買意欲の減少につながる可能性を懸念している。
	▲	百貨店（営業担当）	・国際情勢が不安定すぎて、どのようなことが発生してもおかしくない。
	▲	百貨店（販売担当）	・文具雑貨ブームがやや下降気味である。種類によって売行きが違う。客層的に社会情勢は余り関係ないが、春が来そうで来ない気配から盛り上がり欠ける印象を受ける。
	▲	スーパー（店長）	・世界情勢の不安から値上げのイメージが広がり、買い控えの発生や客の来店回数が減少している。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢の問題が改善傾向にない。
	▲	スーパー（店員）	・全てはガソリン価格次第である。不透明さが大きく、節約志向に向かうとみる。
	▲	スーパー（店員）	・担当部門においてまだ値上げの予定が多くあり、し好品を中心に苦戦が予想される。
	▲	スーパー（支店長）	・国際情勢の問題が長引くなかで、産業に関わるコストが一般的に高騰を余儀なくされることは明確である。今後は政府がどんな対策をするかにもよるが、一般消費者の感覚としては消費にかなり消極的になる。1日も早く平常になることを願う。
	▲	コンビニ（店長）	・中東情勢による燃料費の高騰は、景況感に悪影響があると懸念される。
	▲	コンビニ（企画担当）	・インバウンドはまだ回復していない状態であり、現在の社会情勢による先行きの不透明感が悪影響を及ぼすことが想定される。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・石油不足、値上がりの影響が心配される。
	▲	コンビニ（店長）	・売れ筋商品のおにぎり等が200円近くまで高くなり、販売数が減っている。また、値上げによりレシートクーポンによる1つ無料等の施策を実施できなくなっていることも影響している。
	▲	コンビニ（店長）	・4月1日からの値上げ品目の多さが気になっており、客離れの加速が予想される。また、今月の給料日前の客の様子から、著しい買上点数の減少など家計状況の深刻さを垣間みえた。
	▲	コンビニ（店長）	・ガソリン代や電気代等の上昇が不確定であり、節約ムードがどれほどになるかが見通せない。
	▲	コンビニ（商品企画担当）	・原油価格高騰の影響により、一定の値上げによる消費の冷え込みを想定する。
	▲	コンビニ（本部管理担当）	・中東情勢の問題は、燃料費の高騰や物流網の混乱を招き、我が国の小売業にも影響している。特に原油価格の急騰は、店舗の運営コストや配送費を押し上げるだけでなく、原材料費の上昇を通じて商品の販売価格に転嫁せざるを得ない状況を作り出している。直近では、サプライチェーンの寸断による欠品リスクやインバウンド消費の鈍化が重なり、多くの企業が収益性の維持に苦慮する等、業界全体がダメージを受けている。今後の展望についても中東情勢問題の長期化が懸念されるなかで、仕入コストの増加や消費者の節約志向の強まり等もあり、先行きを楽観視することはできない。
	▲	衣料品専門店（販売企画担当）	・物価高はファッション品への影響が大きく、売行きも下がってきている。生活必需品も厳しくなっている。
	▲	衣料品専門店（売場担当）	・前月と今月の繁忙期とは異なり、2～3か月後はスーツが必要でなくなる人が増える。ワイシャツとパンツのみやセットアップに移行する人が多くなる。ただし、カジュアルなセットアップはかなり売れており、売場もそれらが主体に変わりつつある。当社独自の完全ノーアイロンシャツを主に売上を伸ばしていきたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・エアコンと照明の売上増加はまだ続きそうである。ただし、エアコンは安い商品の駆け込み需要なので高単価モデルへの振替を意識したい。商品自体は動いているが少しでも安い物を買いたいという客が増えているとみている。市のクーポンは少しでも得をしたい方が使っている印象を受ける。スタグフレーションを意識せざるを得ない状況である。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	・中東情勢の影響が出て、一気に物価が上がり、物不足が発生する。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の問題等の外的要因でのインフレ懸念に加え、プラスチック製品の供給不足の懸念もあり、今後車両の供給にも影響が出てくる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・新車は燃費の良い軽自動車を中心に売れているが、中古車は電気自動車を中心に値段が上がりつつある。また、自動車の修理に使用される石油原料由来の油脂類における価格改定や仕入制限の話も出ており、顧客の影響が大きいとみられ、先行きが非常に不安定である。
	▲	乗用車販売店（販売担当）	・自動車業界では環境性能割が4月から廃止されると聞いている。ただし、まだ不透明であるため、3月は買い控えが発生していた。環境性能割がなくなることにより、車の販売量が多くなるかもしれない、このあたりの影響により3か月後の見通しは不透明である。
	▲	一般レストラン（経営者）	・景気が悪化している。
	▲	一般レストラン（スタッフ）	・郊外の店舗営業が主となっているため、最近のガソリン価格の値上げが懸念される。
	▲	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・中東情勢問題の進展次第で、現実的に景気悪化の波が来る。
	▲	観光型ホテル（経営者）	・宿泊予約のペースが、前年比では10%程度落ちているため、今月よりやや悪くなると判断した。団体旅行を実施するのは中小企業が多いため、企業業績が良くなると団体旅行が発生しない。前年より続く物価高などの影響によりどこも伸び悩んでいるとみる。インバウンドは当地域には元々来ていないため、集客数に与える影響はない。
	▲	旅行代理店（経営者）	・中東情勢が長引くと、関連業者への影響が出てくるため、現状より更に悪くなる。
	▲	通信会社（企画担当）	・中東情勢の影響で全世界的な先行き不安が当面続き、景気が大きく減退する局面である。
	▲	テーマパーク（職員）	・今後の世界情勢が不安である。
	▲	観光名所（案内係）	・値上げの声が各地で度々聞かれる。景気が良くなるとはいえず、反対の方向へ進んでいる。
	▲	パチンコ店（従業員）	・近隣に同業他社がオープンし、顧客流出が懸念される。
	▲	理美容室（経営者）	・客との話で、ガソリン代や様々な物の価格が上がっているため、景気が悪くなるとみる。
	▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・住宅にまつわる仕事は様々あるが、単価が上がっているため、施主は見積りを見て二の足を踏み、なかなか着工には至らない。この先仕事があっても厳しい状態が続く。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・中東情勢の影響を受ける。
	×	商店街（代表者）	・中東情勢が見通せないなか、エネルギー価格の上昇が家計を圧迫する。そのため、極力無駄を省いた節約型の消費傾向になる。また、生活必需品以外の物が売れないという時代に戻らないでほしい。
	×	商店街（代表者）	・中東情勢問題の終息めどが立っていないため、今後ガソリン価格の備蓄が少なくなり、大恐慌になることが懸念される。解決すればよいが、それまではかなり不安定な状態が続く。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・中東情勢問題の終結次第である。
	×	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の影響は必至である。玉突き的に全ての物価に影響が出て、家計がますます切迫すれば、景気にはかなりの悪影響になる。
	×	乗用車販売店（経営者）	・例年4月以降は販売台数は下がっていく。6月のボーナス月に期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般レストラン（経営者）	・社会情勢への不安もあり、買い控えなど金を使うことを躊躇う人がますます増えている。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価高の影響がある。
	×	住宅販売会社（経営者）	・中東情勢の影響がまだ出るとみている。
	×	住宅販売会社（従業員）	・中東情勢の影響が長引くとみる。世界的恐慌になるおそれがある。
	×	住宅販売会社（従業員）	・更に資材等が高騰すると、新築住宅の成約だけでなくリフォームすらもなくなると懸念される。
企業 動向 関連  (東海)	◎	—	—
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の設備投資がある程度期待できる。また、円安が円高方向に走ることに期待して、多少良くなるとみる。
	○	金融業（企画担当）	・ようやく発注企業が受注企業のことを考え始め、具体的な動きも見えてきた。中小企業にまで賃上げが浸透してくれば景気は上向いてくる。
	○	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・停滞しているこのようなときこそ、地道な先駆けが必要である。困ったときには何かを考案する必要がある。新しいものの制作と、新規客の開拓が重要であり、まずは新しい物を作る必要がある。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・緩やかな円安や全体的な物価上昇に加え、新年度予算が未確定なこと、4月以降値上げがめじろ押しであること、更に中東情勢の問題や中国問題等がある。そのため景気は現状も余り良くないが、2～3か月先も現在と同様の景気とみる。
	□	化学工業（総務秘書）	・石油の供給が危うい状況になったら備蓄石油を放出するとの政府発表があり、経済を停滞させないような動きがタイムリーに行われた。経済立て直しのムードが崩れないような政策は今後も打たれ、経済界も政権を支持しており、予期せぬことが発生しない限り景気が後退することはないとみている。
	□	一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みから判断した。
	□	電気機械器具製造業（企画担当）	・内閣に対する期待からか明るさが広がっている。一方で、中東情勢の問題から懸念される物価高の不安も継続しているため、どちらに振れるのか読みにくい。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・不安材料が多く見通しが立たない。
	□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・製造物の生産計画上の数値は上がっているが、輸出量が中東情勢の影響により下がってきている。
	□	建設業（役員）	・中東情勢の問題から、原油価格上昇で多くの産業に影響が出ており、この先数か月で景気は好転しない。今後の情勢によっては、更に景気が悪化することも懸念される。
	□	建設業（営業担当）	・物価高により支出を抑制して、蓄える状況では景気回復は難しい。それぞれの業種で金が掛かるものは掛かるというスタイルで仕事をしているが、もらえるものも増えるというような、需要と供給のバランスが新たな段階に進まなければ、とてもではないが景気が上向くことはないとする。
	□	輸送業（従業員）	・世界的に原油の問題がどうなるか見通せないため、悪くなると予想しているものの、今のところは何ともいえない。
	□	通信業（法人営業担当）	・取引先である小売業や飲食業の事業者にはヒアリングしても、外国人は金を使わず、稼ぎに来ているだけ、という声が聞こえる。景気は外国人ではなく、日本人が立て直せるようにならないと上向きにならない。
	□	金融業（従業員）	・米国との関係は良いかとみられる一方、意向に沿う形となり、今と変わらない。
	□	不動産業（経営者）	・今後も晴れの日が多くなりそうであり、外出や遠出をする人は増加傾向になっていく。今後も売上は増加し、前年を上回る状況が続く。
	□	広告代理店（制作担当）	・飲食に関わるイベント企画の引き合いが多少増えてきている。ただし、近年は長い夏が猛暑になるため、屋内に絞られる企画が増えていく。
□	新聞販売店〔広告〕（店主）	・現状、景気が上向きになる要素が見当たらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	会計事務所（職員）	・4月の昇給はこれまでどおり行われる顧問先が多い。学校費用の無償化もあり、少し余裕が出るかもしれないが、食材や日用品の値上げも予定されており、相殺されるとみる。そのため、景気が良くなるまでとはいかない。
	□	会計事務所（職員）	・関税の影響がない取引先製品の受注割合が増えており、売上や利益共に徐々に回復してきている。ただし、物価上昇や原油不足などの不安要素もあるため、この先景気が上向くことはないとする。
	▲	食料品製造業（社員）	・中東の情勢が不透明で、中期的に燃料価格の高騰は避けられない見込みであり、それによる消費の停滞が懸念される。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・受注数、販売数が落ち込んでいる。
	▲	食料品製造業（経営企画担当）	・原材料価格が高騰している状況は変わらず、特に包材関係の値上げ圧力が顕著になってきている。
	▲	窯業・土石製品製造業（社員）	・中東情勢の問題から石油由来の材料が高騰し始めており、入手困難なものも出てきた。さらに、レアアースの入手難も絡んで、客の生産が抑えられてしまい、受注減少になる可能性がある。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・仕事の出が悪いと見込まれているなかで、中東情勢の影響による溶剤・塗料系石油製品の供給不安から全体的に不安感が強く、せっかく作っても仕上げができずに出荷が滞るなどの懸念がある。
	▲	一般機械器具製造業（営業担当）	・中東情勢の影響による原油価格の上昇が輸送コスト、原材料価格の高騰へつながるため、どれくらい影響が出るかは不明だが、設備投資を控える動きが出るのが懸念される。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・原油等の値上がりはイラン情勢次第であるとする。また、プラスチック等の油脂関連がここに来てますます値上がりし、供給の滞り等が懸念される。
	▲	輸送業（経営者）	・中東情勢は見通せないが、物流業も含めて活動に支障が出る。また、コストが上がることによる消費の低迷が考えられる。
	▲	輸送業（従業員）	・中東情勢が不安定であるため、企業の来期予想も見通しが立たず、投資が消極的になるとみる。
	▲	輸送業（エリア担当）	・原油の問題から販売動向に大きな影響が出ると見込まれる。
	▲	輸送業（エリア担当）	・中東情勢の影響から燃料価格が上がっており、コスト増加となっている。補助金で緩和しているが、原油が入ってこなければいずれ価格も上げざるを得ない。とはいえ、単価は上がらない。
	▲	金融業（従業員）	・自動車部品や自動車関連における生産の伸びはそれほどない。また、生活費の圧迫等により節約するといったような動きをよく耳にする。そういった観点から将来的なものを想像したときに、景気は下向いていると判断する。
	▲	公認会計士	・中東情勢の問題が終息する様子もなく、金利も上昇していることから、今後ますます個人消費は減る。また、4月より多くの商品が値上げになり、物価高も今後も続くことから景気は少しずつ悪くなる。今期予算の使い方により、多少の変動はあるかもしれないが、大きく改善される可能性は低い。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・収入が上がらないなか、物価が上がりにすぎている。これだけ様々な物の価格が高くなると、やはり手を出せなくなる。そのため、景気は上がらないとする。
	×	化学工業（営業担当）	・中東情勢の影響により、2026年5月以降のプラスチック原料の調達是不透明である。また、プラスチックの原料が4月調達分より急騰する。製品価格に転嫁できなければ事業継続の根幹に関わる問題である。化学薬品メーカーでは既に減産や生産停止の製品がある。5月以降、更に景気悪化が懸念される。
	×	鉄鋼業（経営者）	・上昇要因がなく、今後も停滞する先行きしか持てない。
	×	金属製品製造業（経営者）	・引き合いが低調で、販売数量の減少傾向が続く。また、資材の価格が急に上がっており、利益の減少につながる見込みである。
	×	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・中東情勢の問題が終わらない限り、石油製品の高騰は確実である。その他も便乗値上げ等で悪化すると懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	輸送業（従業員）	・前月後半に勃発した中東情勢の影響で軽油代が爆上がりしたことに伴い、一部の住宅メーカーからの出荷がなくなる事態が見込まれており、取扱量の減少が見込まれる。
	×	通信業（総務担当）	・誰もが先行きに不安を抱いているため、金を自由に使えない。生活への投資ができないため、買い控えており、消費意欲が冷えている。
雇用 関連  (東海)	◎	—	—
	○	人材派遣業（営業担当）	・暫定予算成立を経て、来年度予算成立後は景気対策が実行され、景気は緩やかに回復する。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・特に変化がない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・新年度で、賃上げの恩恵を受ける層と物価高に苦しむ層の分断が進む。全体としてはプラス成長を維持しつつも、実態としては一部の好調業種が数字を押し上げるのみで、実感が伴いにくい状況が続く傾向にある。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・世界情勢の混乱などで、不安定な状況が続いている。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・米国の関税政策や政策金利の引上げ等、外部環境の変化も落ち着き始めたが、中東情勢の関係による今後の情勢緊迫化を受け、新年度に向けて業績改善にブレーキが掛かる状況にならないか懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向にあるが、中東情勢の影響による求人数の減少が懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・長期にわたる原材料費や燃料費、運送費や人件費等の各経費の高騰、並びに金利上昇の傾向によって、価格転嫁を進めることが困難な中小企業では事業活動への大きな負担が継続し、かなり厳しい状況となっている。受注が堅調な産業もあるが、物価高騰等に伴う消費動向の停滞や経済動向への懸念等により、新たな求人提出を控え、引き続き様子を見る産業も少なくない。一部求人提出を控えている産業が見受けられるものの、現時点で大きな生産調整や雇用調整等の情報は入っておらず、当面は、景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
	□	職業安定所（職員）	・ガソリンや重油価格の不安定さが懸念される。また、従業員の採用のみならず、定着に課題を抱えている企業が多い印象を受ける。
	□	職業安定所（職員）	・新規求職の動きや有効求職者数はここ数か月ほぼ横ばいで推移しており、企業側の求人も一部業種では変動があるものの、全体としては安定している。そのため、短期間で景気が急速に好転する要素も、逆に大きく悪化する兆しも現時点ではみられない。
	□	職業安定所（職員）	・企業に採用意欲はあるものの、長引く物価高などで求人を手控える動きもあり、先行きは不透明な状況である。
	□	職業安定所（職員）	・求人数や求職者数に大きな変化がみられない。
	□	民間職業紹介機関（窓口担当）	・求人数は右肩上がりの状況であるものの、年度初めを迎える前の3月がピークであり、これからは求人数も落ち着く時期である。AIに関する知識を持っている人材の派遣導入など新たな展開に期待する状況である。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・人員計画も固まり、これから2026年度採用における中途採用ポジションのオープン化が始まる。5月のゴールデンウィーク明け以降活動する求職者数が増加してくる見込みである。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用について、今後2～3か月先で状況が変化することはない。
	▲	人材派遣会社（社員）	・現状では予約状況が余り良くない。
▲	人材派遣会社（営業担当）	・自動車部品メーカーにて、2026年度は電動化や運転支援、自動運転の領域でのコスト面は厳しくみられている。開発テーマはあるものの、人員予算を増やして推進する温度感ではなくなってきた。	
▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・物価高やエネルギー不安により、求人や採用活動用の企業広報に使える費用に影響が出る可能性がある。	
▲	職業安定所（職員）	・資源価格が安定せず金利が上昇するなか、借入れの多い事業所が営業継続を断念した事案が複数発生したことから、これからも同様の事案が想定される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	人材派遣会社（社員）	・世界情勢の不透明感が企業の採用行動に影響を及ぼすことが懸念される。

## 7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北陸)	◎	－	－
	○	商店街（代表者）	・4月は花見シーズンを迎えるため、国内観光客の更なる増加を見込んでいる。中国市場の回復は依然として不透明だが、現在の好調な国内需要と、多様な国からのインバウンドによる下支えがあるため、更なる売上増加が期待できる。特に富裕層を中心とした本物志向の購買行動は継続するとみている。
	○	乗用車販売店（経理）	・環境性能割廃止に伴い、客の購買意欲が高まることが期待できる。ただし、中東情勢による原油価格高騰の影響は現時点では分からない。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・店舗のリニューアルによる景気上昇がしばらく継続するとみている。原油価格高騰の影響により購買意欲が低下することが懸念材料である。
	○	タクシー運転手	・新年度に入れば歓迎会などがあり、また、観光客も増えるため、タクシーの利用が増えるかとみている。
	○	美容室（経営者）	・中東情勢が落ち着いていることを望んでいる。
	□	商店街（代表者）	・春以降は空き店舗が複数埋まる予定である。大きな流れにはならないものの、商店街への効果はあるため期待している。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	・4月から食品の値上げが続くことを踏まえると、賃上げがあっても実質賃金がプラスになるかどうかは分からない。
	□	百貨店（販売担当）	・富裕層は景気悪化を見越して、資産価値が高まる商材の購入を継続するとみている。一方で、一般客は賃金がやや上昇しているものの、ガソリン価格や電気代などの高騰により低単価商品へ流れる節約志向が更に強まると考える。店舗運営は現状維持ができるとみているが、上昇への道筋がみえない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・ガソリン価格の高騰など環境が悪化しており、客の心理がなかなか好転しないとみている。
	□	家電量販店（店長）	・県の省エネ家電購入応援キャンペーンやエアコンの2027年問題の影響により、売上増加を見込んでいる。
	□	家電量販店（店長）	・冷蔵庫や洗濯機を中心に主要商品の単価が下がっている。利便性より予算に重点を置く客が多い。
	□	家電量販店（本部）	・ある商品カテゴリが伸長してもほかが停滞する動きが続いている。特需的な動きはあるが、全体の底上げには至っていない。急速に耐久消費財の買換えが促進される状況になるのは難しい。
	□	乗用車販売店（経営者）	・いろいろな物が値上がりするなか、自動車の価格も同様に高くなっているため販売量が前年と比べて減っている。しばらくはこの状況が続くとみている。
	□	乗用車販売店（従業員）	・今月はタイヤ交換や車検などのサービス入庫が多いが、販売に関しては特に変化はみられない。
	□	住関連専門店（役員）	・耐久財に対する消費マインドに大きな変化はみられない。単価は上がっているが数量が減っているため、ならずと最終的に変わらない。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	・長年経営してきたが、これ以上は耐えられない状態である。今年での閉業も検討している。
	□	一般レストラン（店長）	・衆議院選挙と県知事選挙が終わり通常に戻るため、例年並みの来客数を期待したい。
□	観光型旅館（経理）	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、営業再開までかなりの期間を要する。	
□	都市型ホテル（スタッフ）	・ガソリンを始め物価が上がっており、インバウンドの伸びや国内旅行者の回復が見通せなくなっている。	
□	通信会社（職員）	・景気が変わる要因が特にない。	
□	通信会社（営業担当）	・新入学の時期を終え、来客数、販売数共に通常の状態に戻るとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	通信会社（役員）	・特段のイベントはないが、契約数は前年と同程度で推移すると考える。
	□	通信会社（役員）	・原油価格高騰による物価上昇や、AIデータセンター増設に伴う半導体不足で放送用端末の在庫が不足するなど事業運営に影響は出ているものの、景気を左右するようなインパクトは現状はないとみている。
	□	住宅販売会社（従業員）	・物価上昇傾向が変わらず強いため、住宅価格の上昇を考慮して問合せが続くとみている。ただし、契約までに時間が掛かっている状況である。
	□	住宅販売会社（従業員）	・受注が停滞している。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	・客単価が下落している。牛肉、豚肉、鶏肉全てに共通することだが、今後は飼料の価格や燃料費の値上がりが見込まれるため、値上げが頻繁に行われると懸念している。
	▲	百貨店（売場主任）	・中国による日本への渡航自粛の影響が長引いている。また、世界情勢が不安定であるため株価も暴落しており、景気が上向き好材料が見当たらない。厳しい状況が続くとみている。
	▲	百貨店（販売促進担当）	・不安定な国際情勢は経済にとって大きなマイナスである。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢により原油価格が高騰している。それに伴って商品の値上げが予想されるため、景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（仕入担当）	・海外情勢により、商材の入荷遅れや価格上昇が予想され、販売動向が鈍るとみている。ディスカウントストアに客が流れるとみているため、身の回りの景気は悪化すると考える。
	▲	スーパー（役員）	・中東情勢の影響により、資材関係の値上げや欠品、一部商品の値上げが出始めている。今後も、石油関連商品や資材、化学肥料などが高騰し、生鮮品及び加工商品全般が値上がりする可能性がある。
	▲	コンビニ（店長）	・不安定な国際情勢のなかで、石油関連製品を始めとした輸入製品の原価上昇や商材の仕入れそのものができなくなる可能性を危惧している。今後の供給が安定するまでに時間が必要であると考え。円安に起因する値上がりも続いており、当店の利用にも影響が大きい。
	▲	コンビニ（店舗管理）	・燃料費の高騰により利益が圧迫されるだけでなく、消費マインドも冷え込むとみている。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・中東情勢の緊迫が長引くと、更なる物価高を招くと考える。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・石油備蓄の限界が近づけば、社会不安に駆られて消費動向は鈍るとみている。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・これまでの物価高に加え、物流コストが増え、石油関連製品が値上がりするとみている。ナイロン素材製品の価格が急騰すれば、客の購買意欲が低下する。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢の影響により、今後価格が高騰するものが増えていくため、節約志向がより強まり消費行動が抑えられる。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・団体客の受注は前年並みで推移しているが、中東情勢の影響が長期化すれば特に個人利用は大幅に減少するとみている。
	▲	一般レストラン（統括）	・中東情勢が長期化すると石油関連製品の入手が困難になり、世界経済が不安定な状況に陥る。その結果、外食産業だけではなく日本全体が非常に厳しい状況になり、消費者が物を購入しなくなって経済が低迷する。
	▲	スナック（経営者）	・現在の国際情勢により、先行きが良くなることはないとみている。
	▲	観光型旅館（経営者）	・4月以降の予約が少なく、仕入価格や販売費及び一般管理費の上昇もあり先行きが不安である。
	▲	旅行代理店（支店長）	・新年度で動きが鈍るのに加え、中東情勢による物価高への不安が更に増加して、旅行控えにつながるとみている。
	▲	タクシー運転手	・景気が悪い方向に向かうため、客は貯蓄し金を使わなくなる。
	▲	テーマパーク（役員）	・中東情勢によって原油価格が上昇し物価が上がると、全体的に景気が悪くなり、客の動きも鈍るとみている。
	▲	パチンコ店（経理）	・中東情勢の影響により、物価高になり景気が悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	競輪場（職員）	・原油価格が高騰し、先行きに不透明感がある。娯楽産業は総じて厳しいとみている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・例年3～4月には需要を掘り起こす大きな住宅展を行うが、今年は3～4社程度が参加する小さなイベントの予定しかない。少ない情報のなかでしっかりと契約につなげる行動を取ることが重要になってくる。
	▲	住宅販売会社（営業）	・中東情勢の不安定さから原油価格が高騰し、原材料価格に影響が出ることを懸念している。これ以上の価格上昇は確実に消費マインドの減退につながる。
	×	商店街（代表者）	・景気対策を議論している間にも、徐々に売上は悪化している。中東情勢による原油の供給不足などの不安もあり、客の財布のひもは固くなる一方である。
	×	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・中東情勢による石油の供給不足の影響により、商品価格の高騰が止まらなくなり、客の買い控えの傾向は更に加速するとみている。
	×	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・先行きが全くみえず、景気が良くなる要素は今のところない。
	×	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の影響により、景気は悪くなるとみている。
企業 動向 関連  (北陸)	○	—	—
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・二輪車用部品については、メーカーの在庫調整が入り、完成車メーカー向けの受注が減少している。しかし、補修用については欧州向けを中心に受注が好調で、生産が追い付いていない状況が続いている。船便の日程が厳しくなっており、売上が後ろにずれる傾向にある。農業用トラクター用部品については、海外での在庫が減少している影響から受注が増加している。
	○	電気機械器具製造業（営業担当）	・顧客の情報から、車載関連製品や産業用機器関連製品共に受注増加の傾向が読み取れ、多少の好況感がある。新規製品の注文も入っており、来年以降に関してもある程度の受注確保が見込める。
	□	食料品製造業（経営企画）	・能登半島地震での被災から3年目に入った。一般小売用の新商品投入や販売促進活動に一定の成果が現れてはいるものの、業務用商品の低迷が大きく、全体としては依然として震災前の数字に及ばないまま推移する見通しである。
	□	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から、景気は変わらないとみている。
	□	不動産業（経営者）	・個人客、法人客共に問合せや相談が余りない状態である。
	□	司法書士	・顧客からは、人手不足や材料費高騰などが今後も続くことへの懸念やそれらに対して解決のめどが立たないという不安の声を聞くことが多いが、売上自体は悪くなっていないようである。
	▲	建設業（経営者）	・中東情勢の影響が広がっている。アスファルト舗装工事をメインとする当社に対して、仕入先の工場から、4月以降のアスファルト合材価格は改定する見込みであるという案内が届いた。原油平均価格を110ドル、120ドル、130ドル、140ドルと想定した場合のバージン合材、再生合材の価格を提示している。110ドルの場合はバージン合材が1トン当たり2700円の増加、再生合材が1700円の増加で、140ドルの場合はバージン合材が1トン当たり3900円の増加、再生合材が2400円の増加となり、6月末決算における利益の大きな下振れ要因になる。
	▲	建設業（役員）	・中東情勢など不安定な要素が多く、景気に悪影響が出ると考える。
	▲	輸送業（管理会計担当）	・石油関連製品の品薄状況と価格高騰もあり、今後はガソリン価格の上昇や企業の生産活動低下が見込まれる。
	▲	輸送業（経理）	・燃料価格が高騰しており、先行きが見えない。
	▲	金融業（融資担当）	・これまでの物価高や賃上げに加え、足元では中東情勢の影響により原油価格高騰や物流の停滞が発生し、更なるコスト増加が考えられる。価格転嫁が難しい中小企業の先細りを懸念している。
▲	金融業（融資担当）	・中東情勢の動向によるが、原油価格の高騰はあらゆる素材、商品の価格高騰につながるため、投資や消費マインドの更なる低下を懸念している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	税理士（所長）	・中東情勢の状況により、半導体など好調だった業種においてもマイナスの影響があるとみている。
	×	繊維工業（総括）	・中東情勢の緊迫が長期化すれば、原材料価格の高騰や調達への制約による経営、生産への影響が出る。さらに、オイルショックの再来となる景気低迷を懸念している。
	×	プラスチック製品製造業（広報）	・中東情勢の影響が懸念され、景気は悪くなるとみている。
	×	通信業（営業）	・今後の中東情勢次第だが、緊迫した状況が長期化するとあらゆる業種に影響が出る。
雇用関連	◎	—	—
(北陸)	○	新聞社〔求人広告〕(担当者)	・求人広告の見込み数が増加している。
	□	職業安定所（職員）	・原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などにより企業環境が徐々に厳しくなっており、前年同月と比べて有効求人数や有効求人倍率が徐々に下がっている。また、最低賃金の大幅な引上げに伴う人件費の高騰や中東情勢による原油価格高騰のため、先行きを不安視する事業所が少なくない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・賃上げと物価上昇によるコスト増加の影響から、求人を控えているという話を聞く。大手企業は賃上げに応じることができるが、中小企業にとっては容易ではない。景気動向に大きな変化はなく、今後もこのままの状況が続くと考える。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・物価上昇や円安、能登半島地震と豪雨災害の影響に加え、日中関係や中東情勢による日本経済への影響といった不安要素があり、状況が好転する気配がみられない。
	▲	人材派遣会社（役員）	・派遣先企業から、元請け企業からの受注がなくなる可能性があり、そうなると派遣契約を終了せざるを得ないという話があるなど景気の悪い話が出ている。
	▲	職業安定所（職員）	・原油価格高騰の影響は、現時点では求人や求職者に出いていないが、今後景気後退につながるとみている。
	▲	職業安定所（職員）	・多くの事業所から業績が徐々に下降しているという話を聞くため、景気はやや悪くなるとみている。
	×	—	—

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	◎	コンビニ（店員）	・気候が良くなって外出機会も増えるため、手軽に酒やたばこを買い替えるコンビニは利用が増える。価格帯は定番商品も少しずつ上がっているが、購入の動きには余り響いていない。
(近畿)	◎	衣料品専門店（店員）	・これから気温が上がり、衣替えシーズンに入るため、購買意欲が高まる。
	○	商店街（代表者）	・気候が良くなり、人出も増えることで、少し期待できそうな雰囲気がある。
	○	一般小売店〔菓子〕(営業担当)	・気候が良くなり、ゴールデンウィーク前には販売量の増加が期待できる。
	○	百貨店（売場主任）	・株価の乱高下などで景気の見通しが立たず、高額品の消費に慎重となっている客が多い。その一方、中東情勢の影響を受けつつも、今が景気の底であり、今後は回復に向かうとの見方もあるため、先行きに期待している。
	○	百貨店（外商担当）	・国際情勢や物価動向の変化で市場の波乱が予想されるが、外商客の富裕層やインバウンドの購買意欲は今後も堅調に推移するとみている。また、開業予定の商業施設には、ラグジュアリーブランドの売上などに大きな期待が持てる。
	○	スーパー（企画担当）	・春に向かって気温が上昇し、行楽や花見、新入学、新生活などの季節催事がめじる押しとなる。米価格も5キロで2980円となるなど安値で安定し、販売数量が一気に増えている。野菜も相場安であるなど、主要商品の販売数量の増加により、売上全体の増加に寄与している。
	○	コンビニ（経営者）	・暖かくなり、高齢者の外出頻度が増えれば良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・温かい軽食商品を自分で取れるように、セルフ化を進めるほか、商品別の売上ランキングを表示して、販売を促進する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	コンビニ（経営者）	・4月になれば、花見やイベントが増えてくるため、活気が出てくる。
	○	家電量販店（店員）	・家電については、エアコンの2027年問題や蛍光灯の製造中止などの影響を受け、販売量が増える見込みである。
	○	家電量販店（人事担当）	・今年の夏も早い時期に気温が高くなる予報であり、エアコン需要の動きも早期化する見込みである。ただし、気温が高くなり過ぎれば、外出が抑制される懸念もある。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・安定した気候となり、家族や複数人での食事会の増加が期待される。
	○	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・学生やインバウンドの人出が増加している。前年は大阪・関西万博の開催で、大阪や京都に人が集中する傾向がみられたが、当県などの周辺の観光地に人が流れることを期待している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・5月中旬から閑散期に入るものの、インバウンドの団体予約が継続的に受注できている。中国からの予約は先行き不透明であるが、欧州を中心に販売できている。一方、食堂や宴会部門については例年並みの見通しである。
	○	通信会社（社員）	・AIの普及に関連した、インターネット高速サービスの需要増加が期待される。
	○	競輪場（職員）	・グレードの高いG1レースを開催するため、客単価が上がる。ただし、世界情勢の影響で様々な商品が値上がりしているほか、円安も進んでおり、経済の先行きが不透明であるため、通常よりも動きは弱いと予想される。
	○	住宅販売会社（経営者）	・中東情勢の影響も懸念されるが、今のところは不動産業界への影響は限定的であり、しばらくは堅調な推移が期待される。
	□	一般小売店〔時計〕（経営者）	・世界を巻き込んでいる不安定な状況がいつ落ち着くのかが見通せず、明るい材料がない。現実には自らの生活への影響に直結するため、予断を許さない。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・物価上昇の継続で、国内客の購買意欲がなかなか上向かない一方、インバウンド需要は予約も増えており、今後も好調が続く。
	□	一般小売店〔化粧品〕（経営者）	・価格にシビアな客が低額商材にシフトする状況は今後も続く予想され、知名度のあるラグジュアリーブランドと低額商材の2極化は更に進む。報道などでは値上げの流れが出てきているが、客の心理としては、化粧品にコストを掛ける動きは増えにくく、ワンランク下の商品の需要が増える予想される。
	□	一般小売店〔手ぬぐい〕（経営者）	・イラン問題で経営環境が良くないなか、景気がどう変化するのか、予測が難しい。
	□	一般小売店〔野菜〕（店長）	・中東情勢の影響にどのように対応するかで変わってくる。今のままであれば悪化していく一方であるが、解決すれば、これまでの反動で良くなる。
	□	百貨店（企画担当）	・免税売上は為替や航空料金に連動する一方、国内売上は株価に大きく連動しているため、今後の情勢は見通しが立ちにくい。
	□	百貨店（企画担当）	・イラン情勢の変化による世界経済の不安定化で、消費の鈍化が予想される。
	□	百貨店（広報担当）	・日中関係の改善への道筋はまだみえないなか、今回の国際情勢の変化による商品価格への影響が懸念される。
	□	百貨店（サービス担当）	・原油価格が上昇するなか、物価への影響が懸念材料であるが、食料品フロアのリニューアル効果で一定の来客数が確保できる。また、新生活フェアの拡大も売上の増加要因となる。
	□	百貨店（マネージャー）	・日中関係の変化による影響が2～3か月続いており、インバウンドの8割以上のシェアを占める中国人客が前年比で20%以上の減少となっている。その一方、国内客には前年を超える堅調な動きがみられる。このインバウンドと国内客の動きは数か月変わらず、今後数か月も大きな変化はないと予想される。
	□	百貨店（管理担当）	・店舗の改装終了まで、しばらくは来客数の落ち込んだ状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	<input type="checkbox"/>	百貨店（販売推進担当）	・中東情勢の変化による株価の低迷で、景気への影響が懸念される。ただし、円安傾向でもあるため、インバウンド需要は安定的に推移する。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（売場統括）	・中東情勢の変化による、原油価格の高騰に端を発した物価の上昇で、生活防衛意識は高まっている。ただし、米国も早期解決に向けた姿勢を示しているため、影響は一時的なものにとどまる。足元の景気はやや悪化する可能性があるものの、2～3か月先は現状と同じ水準まで回復すると予想している。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（営業推進担当）	・世界情勢が不安定なほか、原油価格の高騰により、物価の動きに影響が出る可能性がある。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（販促担当）	・見通しは非常に不透明であり、イラン情勢の変化による大きな下振れもあり得る。一方、今夏も暑くなる予報であり、猛暑対応商材の提案が重要となるほか、夏物ファッションの展開も再構築が必要である。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（商品担当）	・不安定な海外情勢が落ち着くかどうかにかき左右される。それに伴い、為替や株価が連動し、国内客の購買意欲やインバウンドの増減にも影響するため、現時点では判断しにくい。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（宣伝担当）	・4月以降は原油価格の高騰による航空料金の値上げで、インバウンドの更なる減少が予想される。新生活需要やゴールデンウィークの需要を取り込む準備をしているが、国内客の消費も値上げの影響で力強さを欠いており、厳しい状況が続く。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（マネージャー）	・外的要因による商品の値上げが続くものの、中間層には慣れもあり、購買動向に変化はないと予想される。物販と時間消費のバランスから、富裕層を含むイベントなどの内容が鍵を握る。一方、地域的にインバウンド消費の客単価が上昇する傾向は当面続くため、大きな変化はないと予想される。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	・物価の上昇に対して、中小企業の賃上げが対応できていない。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・物価の上昇が収まらない限り、上向き気配はない。賃上げも大企業のみであり、その他の企業には閉塞感がある。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・競合店の増加や、物価の上昇が続けば、今の厳しい状態が続くと予想される。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（社員）	・今春も多くの企業で賃上げが見込まれており、当面は若い世代を中心に、消費意欲は高い状態が続く。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（企画）	・4月から子ども・子育て支援金の負担が始まり、節約志向は継続する見込みである。一方、足元の売上は前年比104%で、平均単価が101%と落ち着いてきたほか、購入点数も100%に戻り、来客数も回復している。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	・今後も客の節約志向が続く。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・税制の変更は消費者にとってプラスであるが、地政学リスクから物価や原油価格が更に上昇すれば、景気が落ち込む可能性もある。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・自動車税の環境性能割の廃止を前に、3月の登録が4月にずれているが、全体的には現状維持と考えている。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（役員）	・これまでの物価の上昇傾向や、高機能装備の追加による単価の上昇に加え、中東情勢の影響で経済情勢の不安定感も増している。そのような状況下では、新車購入のモチベーションはなかなか上がらない。数か月先に新型モデルの発表予定であるため、少し期待できるものの、経済情勢の不安定化が足かせになっている。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・景気の先行きが不安なこともあり、大きな買物には慎重になる客が増えている。
	<input type="checkbox"/>	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・4月からの値上げに伴うまとめ買いが多く、その際にはクーポンが必ず使用されるなど、消費者の生活はまだ潤っていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・医薬品や健康食品の販売では、例年と比べて花粉症の影響が小さく、売上は鈍化している。一方、気温の上昇に伴い、カウンセリング化粧品などの売上は順調に推移しており、今後の春物商材への切替えによる売上げが期待できる。食品等の生活必需品も順調に推移しているが、来客数や買上点数の増加にはつながっていない。全体として客単価は上がっているが、大きな変動要因はみられないため、今後2～3か月も現状の推移が続く。
	□	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・新カタログを発刊しても、受注量に変化のない状況が続いている。
	□	高級レストラン（企画）	・当面は、インバウンド需要の減少を国内旅行の需要増でカバーする状況が続く。
	□	一般レストラン（経営者）	・例年、季節要因もあって販売数量が増加する。
	□	観光型旅館（経営者）	・先の予約は反応が悪いが、直近の予約は入っており、全体としては変わらない。
	□	都市型ホテル（客室担当）	・4～5月は欧米からのインバウンドの動きが大きいですが、まだ厳しい状況が予想される。
	□	都市型ホテル（管理担当）	・世界情勢が余りにも不安定である。
	□	都市型ホテル（客室担当）	・近隣のテーマパークが開業25周年を迎え、来客数は増加しているが、経費の高騰分の価格転嫁が難しい状況になっている。
	□	旅行代理店（支店長）	・今年のゴールデンウィークは8連休と日並びも良く、長い場合は16連休ともいわれるが、申込み状況は良くない。今後、好転するようなイベントも少ないため、状況は変わらない。
	□	通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・市場環境の変化に対し、取引先は様子見の状態である。
	□	テーマパーク（職員）	・景気対策を実施するため、とにかく早期の予算成立が求められる。
	□	競艇場（職員）	・貸上げや物価の上昇、海外情勢の変化に加え、政治による影響など、様々な要因がどのように作用するのか、見極めるのは難しい。
	□	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・物価上昇の影響か、コストをできるだけ抑える傾向にあるため、事業収益の拡大につながっていない。
	□	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球のシーズンが始まるほか、家族向けのイベントやコンサートも開催されるため、若年層を中心に多数の来場者が予想される。
	□	美容室（店員）	・流行のデザインやメニューが出ない限り、余り変わらない。
	□	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・良くなる材料が見当たらない。
	▲	一般小売店〔雑貨〕（店長）	・ガソリン価格の上昇による影響が出る。
	▲	一般小売店〔呉服〕（店員）	・以前であれば、自分の振り袖を娘に着せる場合、半襟は新しい物を購入するケースが一般的であったが、最近では半襟も含めて着用するケースが増えている。
	▲	一般小売店〔花〕（店員）	・物価の上昇が続き、様々な影響で家計が圧迫されるため、生活必需品ではない花は買い控えの傾向が強まる。
	▲	百貨店（売場マネージャー）	・海外情勢などをみると、現状よりも景況感は良くならない。消費環境を取り巻く物価上昇や、燃料費の高騰など、今後も先行きは不透明である。
	▲	百貨店（外商担当）	・イラン情勢の先行きが全く見通せないほか、高級ブランドの相次ぐ値上げの影響で、客の購買意欲が減退していく。
	▲	百貨店（商品担当）	・大阪・関西万博の閉幕による有形無形の影響が大きい。対策としては、好調の物産展の回数を増やし、キャラクター関連のコーナーを増やすなど、既存客の拡大を狙う。ただし、一時的に回復したインバウンド売上も、前年比では再び厳しくなる見込みである。
	▲	スーパー（店長）	・石油関連製品の値上げやエネルギー資源の確保に向けた不安が、景気の悪化につながる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	スーパー（店員）	・ガソリン価格は今後も上がっていくことが予想されるため、先行きは厳しくなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・原油の供給が先行き不透明なほか、原油価格の高騰による物価への影響も懸念される。
	▲	スーパー（経理担当）	・中東情勢の問題について終息がみえないなか、賃上げ効果が物価の上昇で吹き飛ぶ可能性が高い。必然的に節約意識が高まり、売上の低迷や値下げ競争の激化につながるおそれがある。
	▲	スーパー（販売促進担当）	・イラン情勢が落ち着けば、景気が上向く可能性もあるが、今のところはその兆しが無い。むしろ長期化の予想が大勢を占めており、現状よりも景気が悪化する懸念もある。そうなれば、消費税減税が行われても焼け石に水となる。
	▲	スーパー（開発担当）	・中東情勢が不安定ななか、ガソリン価格が補助金の影響で下がっているものの、今後どうなるかは分からない。仮に石油が入ってこなくなれば、かなりの景気の悪化が考えられる。
	▲	スーパー（企画）	・中東情勢の影響もあるが、紙製品などの売上が伸びている。中東情勢による国内経済への影響には高い関心がみられるなか、今後商品価格が上昇すれば、消費は大きく冷え込む。
	▲	コンビニ（経営者）	・物価が全体的に上がる。
	▲	コンビニ（店員）	・給料はほとんど増えていない一方、物価が上昇し続けているため、節約傾向が高まっている。
	▲	コンビニ（店員）	・食料品やパン、弁当、おにぎりなどの値上げに続き、たばこまでが値上げとなり、客の節約意識が高まったことで、買い控えがみられる。
	▲	衣料品専門店（店長）	・客との会話では、景気の悪化や生活の圧迫という内容も少なくないが、今後は中東情勢の変化による石油の輸入停滞などが不安視される。
	▲	家電量販店（店員）	・中東情勢が良好化しない限り、景気の回復は難しい。問題が長引けば長引くほど、景気は悪くなる。
	▲	家電量販店（営業担当）	・イラン情勢や日中関係について、好転するめどが立たない。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・このまま原油価格が高騰し続ければ、個人消費が冷え込む。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が良好化しなければ、原油相場の上昇は落ち着かないほか、将来的な不安によって消費に関心が向かないため、政府の新しい経済対策が求められる。
	▲	その他専門店〔食品〕（経営者）	・多くの商品が中東情勢の影響を受けるため、消費が落ち込む。
	▲	その他小売〔ネット通販〕（管理担当）	・不透明感が漂っており、景気の先行きが不安である。
	▲	一般レストラン（経営者）	・4月からの物価上昇やイラン情勢の変化により、今後は全ての物価の上昇が予想されるため、消費者の財布のひもは固くなる。
	▲	一般レストラン（経営者）	・イラン情勢の変化による不安や、更なる物価上昇に加え、光熱費や燃料価格の上昇も懸念される。仕入価格も上がるため、消費者の財布のひもは固くなり、景気の鈍化が予想されるため、日常的な飲食店の利用は減少する。また、輸入状況も安定しないため、仕入れが不安な経営環境が続く。
	▲	一般レストラン（店主）	・地方圏だけではなく、世界的に不安定な状況にあるため、観光地が様々な面で影響を受けている。
	▲	一般レストラン（店員）	・物価上昇の影響により、今後景気が上向くことはない。
	▲	一般レストラン（企画）	・中東情勢の変化や円安傾向により、値上げラッシュが予想され、消費者の購買意欲が低下する。また、原材料価格の高騰も見込まれるため、経営状況は更に厳しくなる。
	▲	観光型ホテル（経営者）	・4月、5月は3月ほどの動きはない。今後の団体予約は悪くない状況であるが、特にゴールデンウィークの前半は団体客、個人客共に動きがなく、今年も苦戦する。
	▲	観光型旅館（経営者）	・世界情勢の影響を受け、旅行に出掛ける雰囲気がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	都市型ホテル（客室担当）	・花見の時期以降、閑散期に入る。ゴールデンウィークは狭むが、大きな祭りやイベントは限られるため、インバウンドは影響なく取り込めそうであるが、国内客を満遍なく取り込めるかが課題となる。
	▲	タクシー運転手	・新年度の初めは人が動くが、中東の海峡問題を受けた景気の悪化は避けられず、厳しい状況となる。
	▲	通信会社（経営者）	・円安環境の継続が予想される。
	▲	通信会社（社員）	・新年度からキャリア手数料が見直されるが、手数料収入は年々厳しくなっている。いかに販売台数を増やすかが課題であるが、最大の商戦である3月の繁忙期の後は、やはり販売数は落ちる。
	▲	通信会社（役員）	・新年度を迎え、特定キャリアの3G停波に伴う特需が収束するほか、物価の上昇や不安定な世界情勢の影響もあり、消費者の購買意欲は減退に転じる。
	▲	通信会社（営業担当）	・4月までは好調な販売量が続くものの、5～6月は90%に販売量が落ち着くため、やや悪くなる。
	▲	遊園地（経営者）	・ガソリン価格の高騰を発端として景気が減速し、消費マインドも低迷する。特に、レジャー関連は支出削減候補として、上位に挙がるリスクがある。
	▲	ゴルフ場（支配人）	・原油価格の高騰で燃料費は既に上昇しており、今後は電気料金や仕入価格も更なる上昇が見込まれる。コスト増加分を販売価格に転換することが難しいため、景気はやや悪くなる。
	▲	その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・ガソリン代や物価の上昇による、レジャーへの意欲低下を懸念している。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・建築関連の原価高騰による住戸価格の上昇で、住宅ローンが組めなくなっている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・株価の下落や金利の上昇で、分譲マンションの売行きが鈍化してくれば、これまで価格の上昇が当たり前であった風潮が変化し、消費者が慎重になってくる。
	▲	住宅販売会社（企画担当）	・中東の情勢が不安定なため、エネルギーコストが上がっている。
	▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・物価の上昇は今後も続くため、消費が減少する。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅ローン金利の上昇のほか、インフレの傾向も当面続く。
	▲	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・世界情勢の変化による原油価格の上昇はどのようなものもないが、何とか安定してほしい。
	▲	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・富裕層向けの販売はこれまで堅調であったが、世界的な不安定感の高まりで、今後は下押し圧力が働く可能性がある。また、実需物件では価格の上昇が続いており、購入が更に難しくなるなど、不動産の販売市場には不安要素がみられる。
	×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・中東情勢の変化で、ガソリン価格や物価の上昇につながる。
	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・中東問題が長期化すれば、原油の確保が難しくなり、物価の上昇は必至となる。従来以上に不透明で、不安定な社会情勢を考えると、景気が更に悪化することは避けられない。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・エネルギー価格が上昇するなか、景気が良くなるとは考えにくい。
	×	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・中東情勢の変化による、原油価格の上昇で物価が上がり、消費が冷え込む可能性は高い。
	×	百貨店（売場主任）	・イラン情勢の変化による原油価格の高騰が懸念材料である。燃料費の上昇に伴うインフレが発生した場合、一気に景気への悪影響が出るおそれがある。
	×	百貨店（マネージャー）	・中東情勢が先行き不透明で、様々な物の価格が高騰すると予想されるため、貯蓄志向や生活防衛意識が高まり、高額品の買い控えが起きる。
	×	スーパー（店員）	・ガソリンを始め、全ての商品の値上がりが見込まれる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・これから洋服が売れない時代がくる。服のトレンドがパンツからスカートに変わってきたため、スカートは売れると予想されるが、スカートが売れるときは景気が悪くなる時でもあるため、注意が求められる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	衣料品専門店（経営者）	・世界情勢が安定しない限り、景気は上向かず、消費が活発化する環境が整う兆しもない。
	×	家電量販店（店員）	・あらゆる商品の更なる値上げが予想されるなか、そもそも現行の値上げ前の商品が売れていないことから、この先も厳しくなる。
	×	乗用車販売店（経営者）	・ガソリン価格が異常に上昇し、先行きが見通せない。価格の上昇がゴールデンウィークまで続けば、更なる景気への悪影響が出てくる。
	×	住関連専門店（店長）	・輸入業では、中東情勢の影響で、輸入コストの増加が必至である。これ以上の値上げを客が受け入れるかどうかの懸念もあるなか、売れにくい状況が加速すると予想される。
	×	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・円安傾向が続き、地金相場が高騰したままでは、生活必需品の物価上昇と同様に、更なる値上げも考えざるを得ない。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・中東情勢の混乱がいつまで続くかが予想できない。混乱が長引けば、景気は一気に悪化する。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・物価上昇の影響か、AIの導入による影響かは分からないが、根本的に何かが変わっており、来客数が急激に減少している。
	×	旅行代理店（役員）	・イラン情勢の変化により、欧州方面の旅行に対する影響が予想される。また、原油価格の高騰に伴い、航空各社で燃油サーチャージの大幅な引上げが予定されており、ゴールデンウィークや夏休みの海外旅行需要に対する、大きな影響が懸念される。
	×	旅行代理店（支店長）	・中東情勢の影響で国際線の欠航が長引き、ツアーの中止が続いているため、先行きは不透明である。
×	観光名所（企画担当）	・回復する要素は現時点では見当たらないため、しばらく状況は変わらない。	
企業 動向 関連 (近畿)	◎	木材木製品製造業（経営者）	・世界情勢の影響を受けて、石油を始めとする全ての価格が上がり、予断を許さない状況になった。円安は今後更に進む気配で、輸入販売が中心の当社には不利に働く。ただし、新しい案件が何件か出てきているため、業況の改善が見込まれる。
	○	輸送用機械器具製造業（役員）	・受注価格が僅かながら上昇している。
	○	輸送業（営業担当）	・ガソリン価格が値上がりしているが、前年に荷物1個の運送に掛かったガソリン代は平均で5円にとどまるなど、輸送費に占めるガソリン代の割合は小さい。
	□	食料品製造業（管理担当）	・大きな変動要因はない。
	□	繊維工業（総務担当）	・催事での販売は、1日当たりの売上が減少している。今後は催事について、購入商品を身に着けていく機会と位置づけることで、販売にもつなげていく。
	□	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・大阪・関西万博のような大きなイベントがないため、企業はやや守りの姿勢が続く。
	□	化学工業（企画担当）	・原料価格は高騰しているが、販売価格に反映できており、利益は確保できている。中東の海峡問題の影響は未知数であるが、おおむねこれまでの傾向が続くと予想される。
	□	化学工業（製造担当）	・全体的に研究費や助成金が絞られ、新規テーマの選別に慎重になる傾向は、短期的には変化しない。
	□	プラスチック製品製造業（経営者）	・来年度には注文が出てくる予定であるが、5月後半以降となる。中東情勢の変化による影響は不透明であるが、石油関連の亚克力等は既に値上げとなっている。
	□	金属製品製造業（経営者）	・中東情勢の変化で原油価格が上昇している。主な材料や副資材の価格上昇のほか、人件費の上昇などのコストアップ要因が増えているが、製品価格に転嫁できるまでには時間が掛かる。
□	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いなどは増えているが、中東情勢の影響で為替が大幅に変動し、見積り条件が不安定なほか、納期までに価格が上昇する可能性もある。それに伴い、取引先も発注をためらう傾向があるため、先行きの予想は難しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	一般機械器具製造業 (設計担当)	・取支バランスで考えると、収入以上に支出が増えれば、後で景気が下向くことになる。支出を見直せば、賃金の増加とも帳尻が合い、景気が悪化することはないが、現時点で3か月以上先の状況は不透明である。
	□	電気機械器具製造業 (経理担当)	・原材料価格の急上昇により、設備投資を抑制する動きにつながる。原油価格の高騰は、単にガソリンだけではなく、あらゆる石油関連製品に波及するため、影響は見逃せない。
	□	電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・世界情勢が不安定で、先行きの不透明感が増している。
	□	建設業 (経営者)	・中東情勢の変化により、建設資材価格の高騰や品不足、納期の不安定化などの問題が発生するおそれがある。
	□	建設業 (経営者)	・売上の増加と、材料価格の高騰による悪影響が相殺し合い、全体としては変わらないと予想される。
	□	輸送業 (経営者)	・運賃の値上げ交渉は前進していない。さらに、取引先はそれどころではないほど、経費の上昇が進んでいる。
	□	輸送業 (サービス担当)	・イラン情勢次第であるが、原油価格の上昇への不安は続くため、燃料費などの経費が増加する懸念は消えない。
	□	金融業 (営業担当)	・平均すれば売上は前年と変わらないほか、固定費が徐々に増えても、取引先との価格交渉に変化はない。
	□	金融業 (営業担当)	・取引先の話では、今後の受注状況について、特に大きな案件はなさそうである。
	□	金融業 [投資運用業] (代表)	・中東問題に際しては、太陽光発電や風力発電の増加が、経済的に大きな負担になっていることへの認識も必要である。
	□	広告代理店 (営業担当)	・例年、期初の数か月は広告需要が減少する。
	□	その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	・この数か月、商品の動きが余り変わらず、停滞気味である。
	▲	食料品製造業 (従業員)	・世界情勢の変化で為替も大きく変動しており、輸入原料の多い当社製品には影響が徐々に出る。原料価格の改定を求め見積も少しずつ増えている。
	▲	パルプ・紙・紙加工品製造業 (経営者)	・中東の海峡問題の影響を受け、取引先が減産を行うという情報がある。
	▲	化学工業 (管理担当)	・今後の世界情勢は不透明である。
	▲	窯業・土石製品製造業 (管理担当)	・イラン情勢の変化による原油相場の高騰や、円安の継続による更なる物価上昇への不安がある。春闘で賃上げが進んでも、この情勢では実質賃金が前年割れとなる可能性が高く、全体として不確定要素が多いため、やや悪くなる。
	▲	輸送用機械器具製造業 (経営者)	・4月から自転車の使用に係る規制が開始される。そのため、消費者による購入は慎重となるが、ガソリン価格の高騰で新規需要が発生する可能性もある。
	▲	輸送業 (商品管理担当)	・家具の配達量が落ちてくるため、売上は減少する。
	▲	金融業 [保険] (経営者)	・原油価格の上昇はしばらく続くと予想され、それによる物価の上昇は避けられない。その一方、販売価格への転嫁は難しい。
	▲	広告代理店 (管理担当)	・価格の高騰が止まらない。
	▲	司法書士	・中東情勢の先行きは予想しにくい、仮に問題が解決しても、破壊された施設もあるなど課題も多く、景気の悪化が心配される。
	▲	経営コンサルタント	・実際にコストアップが生じてくると、売行きが鈍化し、仕入れや取引を控える会社が増える。
	▲	その他サービス [自動車修理] (経営者)	・中東の原油問題で、材料費が4月から現在の1.7倍に上がる。
	▲	その他サービス業 [店舗開発] (従業員)	・中東情勢の影響を受け、原油価格の高騰による更なる物価上昇が懸念されるなか、生活必需品以外については、少なからず買い控えが発生する。
	×	繊維工業 (団体職員)	・重油の値上げが進む。
	×	化学工業 (経営者)	・運送コストの増加や原材料の値上げにより、更なる需要の減少が見込まれる。
	×	金属製品製造業 (製造担当)	・今までも厳しい状況であったが、石油問題などで建築業界の状況は更に悪くなる。
	×	電気機械器具製造業 (営業担当)	・材料が入手しにくくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	建設業（経営者）	・中東情勢の影響が長期化すれば、エネルギー危機の懸念が出てくるほか、大型の長期案件では資材価格の高騰や調達面の不安もあり、契約にはちゅうちょせざるを得ない。
	×	通信業（管理担当）	・原油相場の高騰に伴う物価の上昇で、最悪の状況となる。
	×	不動産業（営業担当）	・景気が悪化しており、今後も悪くなる。
	×	その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	・中東の政情不安により原油価格が高騰するリスクに加え、円安も進んでいることから、今後は更なる原材料価格の上昇と、消費者による買い控えが進む。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・ますますエネルギー価格が高騰し、世界的な経済の混乱につながる。
雇用 関連 (近畿)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（営業担当）	・自社の賃金のベースアップに連動して、派遣料金を改定する企業は増加傾向にあるものの、上げ幅自体は限定的である。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・2028年卒採用のインターンシップの広報が好調となるが、夏に注力する分、秋以降の広報が前年よりも落ち着くとの見方もある。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・石油価格の上昇が落ち着くかどうかにかかわらず左右される。
	□	人材派遣会社（支店長）	・大型案件もなく、余り大きくは変わらない。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・世界情勢の不安定な状態は、2～3か月後には終結しているか、終結に近づく予想される。
	□	職業安定所（職員）	・人手不足による人件費の上昇が定着し、中小企業にとっては、仕事はあるが利益の出ない状況が常態化している。
	□	職業安定所（職員）	・国際情勢の先行きが懸念されるものの、現時点で大きな動きはみられない。
	□	職業安定所（職員）	・物価の上昇や人件費の負担増による悪影響もあるが、人材確保のための求人の動きもあるため、大きくは変わらない。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・現状から大きく変わる要素が見当たらない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・食料品に対する消費税の廃止や責任ある積極財政のほか、診療報酬の改定が医療業界の賃金に好影響を与える期待はあるが、イラン情勢の変化で吹き飛ばす不安もある。事態の早期解決が望まれる一方、医療福祉業界では人手不足が続いているため、新卒求人が大幅に減ることはない。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・年度末にかけて大企業を中心に人員整理が予定されており、求職者の動向が注目される。また、イラン情勢の変化による影響も具体化することから、今後の動向には注意が必要となる。
	▲	人材派遣会社（役員）	・中東情勢は不透明であるが、求人や求職者の動きへの影響はみられない。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・中東情勢の影響により、エネルギー価格や物価の上昇、物資の不足が予測される。それに伴い、全体的な景気の悪化が考えられる。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・イラン情勢の変化や物価上昇の影響で、関西企業が宣伝費やプロモーション費用の使用を控える動きがみられるため、宣伝予算は前年比での減少が予想される。
	▲	職業安定所（職員）	・早期希望退職者を募集している企業もあり、求職者数が増加傾向となる。
	▲	職業安定所（職員）	・例年の求人動向から判断すれば、4～5月は求職者の増加に伴い、有効求人倍率が低下する。現状の少ない求人数のまま推移すれば、例年よりも有効求人倍率が低下する見込みである。
▲	民間職業紹介機関（職員）	・例年、年度初めから梅雨明け時期までは、建設現場の稼働は低調となる。	
▲	民間職業紹介機関（営業担当）	・繁忙期が終わって閑散期に入るため、やや悪くなる。	
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・中東問題が全ての国の原油確保を困難にしており、混乱が広がっている。現状、この状況がいつまで続くかわからないため、景気はやや悪くなる傾向となる。	
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒求人において、採用者数の削減を検討している企業が増えている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	—	—

### 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (中国)	◎	テーマパーク（営業担当）	・これから春の繁忙期であり、ゴールデンウィークを迎える。
	○	スーパー（営業システム担当）	・今年の春夏は例年よりも暑くなるとの報道があり、飲料の需要が増える見込みである。値上げについても、客が価格に順応し始めたのか、ナショナルブランド商品の販売数量が回復傾向にある。しかし、ガソリン価格の上昇分が商品価格に転嫁される可能性もあり、楽観視はできない。
	○	コンビニ（店長）	・これから気温が上がり、前年と同様の猛暑の予想が出ているため、来客数も伸びていくと予想している。
	○	乗用車販売店（店長）	・人気車種の再販が多く予定されているため、新車販売は活発になる。
	○	乗用車販売店（業務担当）	・税金改定予定や新型車発売などで少しずつ上向きになってくる。
	○	その他専門店〔土産物〕（経営者）	・しばらくの間、地元客には商品券の効果が持続すると考えられ、来客数の増加は維持される見込みである。
	○	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・春休みや気候の好転により、国内旅行者が増加している。今後もこの傾向が続くとみられる。
	○	一般レストラン（店長）	・徐々に来客数が回復しており、予約の獲得状況も悪くない。ゴールデンウィークは安近短になると予想しており、期待ができる。
	○	バー（経営者）	・暖かくなり、来客数の増加が期待できる。
	○	観光型ホテル（予約担当）	・既に団体予約が多く入っている。
	○	通信会社（販売企画担当）	・政権への期待感がある。
	○	通信会社（企画・総務担当）	・例年、年度初めは売上が上昇する傾向がある。
	□	商店街（代表者）	・飲食店やカフェ等、インバウンド客を対象とする店舗は好影響を受けているところもあるが、商店街全体として余り影響はみられない。今後は各店舗の対策次第で、現状より悪化しない可能性もある。
	□	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・客のニーズが変化しており、売上上昇に期待はできない。
	□	一般小売店〔印章〕（経営者）	・例年5月までが繁忙期である。
	□	百貨店（営業担当）	・世界情勢も含め、先行きが非常に読みにくい状況である。
	□	百貨店（営業担当）	・高額購入者と低価格購入者の差は、今後も縮まらないとみられる。
	□	百貨店（営業担当）	・不安定な世界情勢や物価高などのマイナス要因が依然として解消されていない。
	□	百貨店（外商担当）	・物価高に加え、株価が下げ止まらない状況では、客の購買意欲は戻らない。
	□	百貨店（売場担当）	・大企業を中心に春闘での賃上げなど好材料はあるものの、当店の売上動向からは顕著な好転の兆しはない。引き続き、前年より微減の厳しい状況が続く。
□	スーパー（店長）	・現状の中東情勢にもよるが、生活に支障を来すレベルの価格高騰が発生すれば、景気は悪化する可能性がある。また、客の価格に対する警戒感が一層強まるとみられる。一方で、収入面では大きな改善があるものの、消費に対する防衛意識は強く、現状維持での推移になるとみられる。	
□	スーパー（店長）	・特売日やセール日に集客が集中している状況が続いており、節約志向が継続している。	
□	スーパー（業務開発担当）	・中東情勢の影響で、本日も値上げ要請があった。輸送コストも上昇しており、あらゆる物価に波及するのではないかと懸念される。	
□	スーパー（販売担当）	・中東情勢の不安定さの影響で物価が高騰し、買い控えが予想される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	コンビニ（副地域ブロック長）	・ガソリン価格の上昇や物価の更なる高騰もあり、来客数の減少傾向は続くと思込まれる。人件費も上昇しているため、経営面でも厳しい状況が続くとみられる。
	□	家電量販店（店長）	・物価上昇により、節約志向が一層高まっている。来客数の減少や販売量の伸び悩みが大きな課題となっている。堅実な買物をする客が増えるとみられる。
	□	家電量販店（副店長）	・引っ越し需要のピークが過ぎるため、単価は回復してくるとみられる。現状、不振が予想される要因は特になく、景気は変わらないとみられる。
	□	乗用車販売店（経営者）	・景気が良くなる材料がなく、仕入価格が高止まりしている。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・販売量は増えても利益率が良くないため景気は改善しないとみられる。
	□	乗用車販売店（リース担当）	・様々な商品の価格上昇により、景気の悪化が懸念される。賃金がそれに見合っていない上昇しているわけではなく、実質的に物価だけが上がっている状況にある。
	□	乗用車販売店（統括）	・景気が良くなる材料がない。
	□	その他専門店 [時計]（経営者）	・中東情勢の収束まで景気は安定しない。
	□	その他専門店 [革製品]（店主）	・オーダーメイドの依頼は多いものの、売上を更に伸ばすには、店頭にある既製品も販売していく必要がある。客は既製品にも満足している様子だが、不景気の影響で財布のひもが固く、なかなか購入には至らない。オーダーメイドは確実に売れるものの、製作に時間が掛かるため、販売量の増加には限界がある。
	□	一般レストラン（経営者）	・中東情勢が落ち着かないと、景気が良くなることはない。物価上昇が収入の伸びを上回ってしまう可能性がある。
	□	都市型ホテル（宿泊担当）	・比較的高い水準で推移していることから、大きな変動はなく、現状の水準を維持するものと予測している。
	□	都市型ホテル（宿泊担当）	・3月の売上も安定しており、好調な状況が続いている。大きな需要増や環境変化が見込まれる状況ではないものの、急激な悪化要因も見当たらず、足元の消費動向は堅調に推移している。
	□	タクシー運転手	・今月は歓送迎や異動、進学、春休みの影響で一定の動きはあるが、来月については期待していない。
	□	通信会社（企画担当）	・新年度明けの引き合いや工事の申込みは、前年同期と比べて増えている。エリア間の異動や引っ越しを要因とする事情も多いと推察している。この傾向は1か月を超えて続くと思予想する。
	□	テーマパーク（業務担当）	・大型連休の後半は例年どおりの予約数であるが、それ以外の休日の予約が極端に少ない。ガソリン価格の高騰や天候不順など、先行きが見通せない状況により、事前予約は減少し、1週間から前日にかけて予約するケースが増えている。
	□	観光名所（観光振興担当）	・売店で販売する商品の値上げやレストランの仕入価格の上昇など、いまだ値上げが相次いでいる。
	□	競艇場（企画営業担当）	・2～3か月後も、今月同様ネット投票が好調であるとみられる。
	□	美容室（経営者）	・客は節約をしており、大変な状況という話をよく聞く。短期では状況が改善することはなく、徐々に負担が増すため、長期的にみると更に厳しくなるとみられる。
	□	設計事務所	・新規案件の情報もあり、計画中止などの情報はなく、新年度も計画どおり進むとみる。
	▲	商店街（代表者）	・中東情勢の影響により石油価格の高騰が懸念されており、客の財布のひもは非常に固く、先行きは暗い。
	▲	商店街（代表者）	・景気は非常に悪く、前年との比較自体が適切ではない。事業は存続の危機に直面しており、非常に厳しい状況のなかで購買意欲も低下している。
	▲	一般小売店 [食品]	・ガソリン価格の急激な上昇により、客の節約意識が更に強まるとみられる。
	▲	一般小売店 [茶]（経営者）	・中東情勢が影響を与えないか心配している。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢により、原油価格高騰の影響が多方面で出てくることと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	スーパー（店長）	・店舗で扱う商品の価格は、野菜以外はほぼ高止まりの状態 で、販売量はなかなか伸びていない。
	▲	スーパー（店長）	・かなりの商品が4月に値上がりする見込みである。客の志 向は低単価商品を重視する傾向が高まっており、今後も売上 は厳しくなる。また、世界情勢が不安定なので原油価格の上 昇も続いており、客の生活防衛意識は一層高まる。
	▲	スーパー（財務担当）	・物価上昇による節約志向が続き、価格訴求品の買い回りに より、買上点数と客単価の前年割れが続く。
	▲	スーパー（販売担当）	・中東情勢が長引くと、原油価格の上昇に伴い、商品価格も 上がるとみられる。
	▲	衣料品専門店（経営 者）	・中東情勢の影響が出る可能性がある。
	▲	衣料品専門店（経営 者）	・世界情勢の変化が悪い方向に向かっている。
	▲	衣料品専門店（代表）	・中東情勢によりガソリン価格の値上げが起こっている。政 府が補助金により価格を抑えるようであるが、物流コストの 増加による物価高は避けられないとみられる。
	▲	家電量販店（企画担 当）	・石油価格の状況によっては、景気が悪い状況は続く。
	▲	自動車備品販売店（経 営者）	・弊社が扱う商品は重油を原料としており、中東情勢による 価格上昇に加え、ガソリン価格の高騰で行動が抑制されるこ とから、今後の買換えサイクルの長期化が心配である。
	▲	その他専門店〔宝石 店〕（店員）	・中東情勢の影響により、金価格の高騰や物価上昇が続いて おり、客の節約志向が続いている。
	▲	その他小売〔ショッピ ングセンター〕（支配 人）	・経済状況には特段の改善はなく、加えて中東情勢の影響で 原油やガソリン価格の高騰、食材費や物流費の上昇が続いて いることから、景気は回復傾向にない。
	▲	高級レストラン（事業 戦略担当）	・中東情勢を注視しており、原油価格高騰に伴う各種材料費 の上昇に危機感を持っている。
	▲	一般レストラン（経営 者）	・中東情勢の影響に伴い、原油の供給不足や価格高騰、先行 きの不透明感を背景とした資材価格の上昇が既に始まっている。 これに円安も重なり、食材の再値上げが見込まれるほ か、6月からは光熱費の上昇も予想される。こうした状況に より節約志向が一層強まり、可処分所得の縮小が進むなか、 外食産業においては値上げの影響も重なり、売上、利益共に 苦しい状況が予測される。
	▲	観光型ホテル（副支配 人）	・4月からの宿泊税開始の影響なのか、宿泊の予約の入り が鈍い。ゴールデンウィークも問合せが少ない。
	▲	都市型ホテル（総支配 人）	・現在の中東情勢を受け、特に欧州からのインバウンドで キャンセルが発生している。
	▲	旅行代理店（支店長）	・原油価格高騰や関連商品の価格上昇も想定され、旅行需要 への影響も大きくなると想定している。
	▲	タクシー運転手	・中東情勢で原油価格が急騰し、それに伴い関連する様々 な物価も上昇し始めたため、人々の動きが沈滞しつつある。こ の状態が収まる兆しがみえず、ますます悪化するとみている。
	▲	通信会社（運用担当）	・中東情勢で世界的な不安が広がっている。
	▲	放送通信サービス（総 務経理担当）	・中東情勢の家計への影響が懸念される。
	▲	通信会社（総務担当）	・仕入資材の価格が高くなっており、価格転嫁せざるを得な くなる。
	▲	通信会社（営業担当）	・原油価格の高騰の影響はガソリンである程度軽減されると しても、石油由来製品の値上がりは避けられず、家計への負 担は更に厳しくなる。
	▲	通信会社（広報担当）	・全体的に物価は上昇しているのに、客は価格の安さだけで 判断し、品質面には余り目を向けていないため、景気の回復 は期待できない。
	▲	通信会社（総務担当）	・中東情勢がすぐに改善するとは考えにくく、長期化すれば 世界的な景気不安につながる可能性がある。
	▲	ゴルフ場（営業担当）	・今後の世界情勢を踏まえると先行きは不透明である。通常 に戻れば、ゴールデンウィークの集客は改善すると見込まれ るが、現状は芳しくない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	美容室（経営者）	・物価上昇に対する懸念は消費者に浸透している。物価や最低賃金の急激な上昇に伴い値上げを行えば、来客数の減少や資金ショートのリスクは高まる。
	▲	設計事務所（経営者）	・建築費の高騰が続いているため、客の予算に合わず、成約に至らないケースが増加している。
	▲	住宅販売会社（事業推進担当）	・購入を希望しても購入できない人が増えており、単価もそろそろ高止まりの時期に入るとみられる。そのため、今すぐ購入したい人と、投資目的で2軒目を購入したい人だけが購入できる状況になるとみられる。
	▲	住宅販売会社（住宅設計担当）	・日本銀行が2025年12月に政策金利を0.75%程度へ引き上げ、2026年4月以降、住宅ローン変動金利が段階的に上昇する見通しである。その影響は今後3か月ほどで顕在化してくるものと想定し、顧客の意思決定に遅れが出てくるものとみている。
	×	商店街（理事）	・4月からいろいろな商品が値上がりする予定で、生活防衛意識から買い控えが起きる。買回品中心の商店街なので来街者が減少し、それが売上減少につながるという厳しいスパイラルが生じているようにみられる。
	×	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・石油の状況次第で、国内経済にも影響を及ぼす。
	×	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上がりが最大の原因だが、中東情勢の変化も影響しており、ガソリン価格の高騰が続いている。そのため、売上は更に悪化する可能性があり、政府による早期の支援が望まれる。
	×	乗用車販売店（営業担当）	・決算後の市場は例年どおりこう着すると予想され、ゴールデンウィークまでは厳しい状況が続くとみられる。何とか策を打って乗り切りたい。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・石油製品の入荷遅延や入荷日未定の商品があることから、今後の売上減少が予測される。中東の海峡封鎖が続く場合、全ての業種で状況は更に悪化する。
	×	住関連専門店（営業担当）	・物価上昇に伴う消費の落ち込みが出てくる。
	×	一般レストラン（経営者）	・世界情勢が急速に変化し、原油価格の高騰に加え、4月からの生活物価上昇もあり、良くなる要素が全くない。
	×	通信会社（総務担当）	・中東情勢の影響により、広告費を抑える傾向が出始めている。
	×	美容室（経営者）	・中東情勢の影響により、各種商品の価格上昇が見込まれ、節約志向が強まり、景気は悪化する。
企業 動向 関連  (中国)	◎	輸送用機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先も多忙な状況は続く。
	○	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・取引先の長期内示情報によると景気は良くなる。
	○	輸送業	・受注が増えている。
	□	食料品製造業（営業担当）	・気温上昇により、菓子の受注は例年減少する。
	□	繊維工業（財務担当）	・中東情勢による原油価格の高騰の影響で、物価が上昇する可能性があり、先行きは不透明である。
	□	鉄鋼業（総務担当）	・人手不足により景気に大きな盛り上がりが見られない。
	□	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
	□	一般機械器具製造業（管理担当）	・産業向け製品の製造では、国内需要は減少傾向にあるが、海外需要は後半にかけて増加しており、全体では横ばいで推移している。ただし、今後の中東情勢による影響には注視が必要である。
	□	建設業（経営者）	・世界情勢を鑑みると不透明感はあるが、大きな変化はないとみられる。
	□	建設業（総務担当）	・予定案件が当面ある。
□	輸送業（業務推進担当）	・特に大きなプラス要素やマイナス要素はないものの、世界情勢の変化による原油価格の高騰は懸念材料の1つとなる。	
□	輸送業（営業担当）	・顧客ヒアリングにおいて、おおむね変化がないとの回答であった。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	会計事務所（経営者）	・人手不足や不足分解消のための賃上げ、中東情勢による原油不足や物価高、消費市場の軟化などマイナス要因は多い。一方で、補助金予算の拡充に伴う支援等のコンサル業務は、ある程度堅調に推移する。
	▲	食料品製造業（経営者）	・3月までは季節商材の動きが良かったが、4～8月にかけては需要が落ち込む時期なので苦戦するとみられる。季節商材の投入についても、物量が低迷すると予想される。中東情勢の問題も含め、厳しい状況になるとみられる。
	▲	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・中東情勢次第だが、現在のままだと重油入手に課題が生じ、入手予定日が確定できない。入手が困難であれば焼成設備の一部が稼働困難となる。
	▲	非鉄金属製造業（業務担当）	・中東情勢や特に中東の海峡を巡るリスクが長期化した場合、我が国の燃料油供給は価格高騰のフェーズから、物理的な量的不足のフェーズへと移行し、製油所の稼働や物流網に深刻な影響をもたらす可能性がある。
	▲	金属製品製造業（総務担当）	・円安と原油価格高騰の影響を受け、部材や電力費の上昇は避けられない。上がり幅は不透明だが、中東情勢が落ち着くことを切に望む。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・為替相場が不安定であり、また、物価上昇等により売上が増加しても減益となる要素が大きいため、会社としての景気動向に関しては悪くなる見通しである。
	▲	建設業	・材料費や労務費の高騰が設備投資をちゅうちょさせることが今後も続いていくとみられる。また、中東情勢は先行きが見通せない状況にある。
	▲	輸送業（企画担当）	・中東情勢が終息しない限り、景気は悪い方向に進むとみられる。
	▲	通信業（営業担当）	・中東情勢の影響により、企業のIT投資等が絞られる懸念がある。
	▲	金融業（経済産業調査担当）	・中東情勢の収束が見通せないなか、原油供給の正常化には時間を要するとみられ、物価面への悪影響は避けられない。
	▲	金融業（副支店長）	・中東情勢の長期化で原油価格の高騰が続き、企業の利益喪失の要因となるおそれがあり、景気は悪化すると予想される。
	▲	不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の需要時期も落ち着き、やや悪くなると予測する。
	▲	広告代理店（営業担当）	・日中関係の影響や物価高が止まらないなか、今後の景気が好転する要素は見当たらない。
	×	化学工業（総務担当）	・中東の海峡閉鎖の影響で、ナフサ供給ができない状況が長引く懸念がある。
	×	化学工業（総務担当）	・世界的な情勢の安定化にはしばらく時間が掛かるとみられ、モノの動きもやや遅れ気味になり、中長期的に影響が及ぶと考えられる。
	×	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・燃料費の価格上昇が懸念される。
	×	通信業（企画担当）	・中東情勢の影響が資材の値上がりにより拍車を掛ける可能性が高く、取得コストが急激に上がることが懸念される。
雇用 関連	◎	—	—
	○	—	—
(中国)	□	人材派遣会社（経営企画担当）	・足元の業績は順調だが、中東情勢が与える影響がまだみえていない。特に石油系企業の動向を注視している。
	□	求人情報誌製作会社（総務担当）	・物価高など外部環境の変化に伴い、広告宣伝費が抑えられる可能性が高いと考える。
	□	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・人手不足が続いており、この状況はしばらく変化がなさそうである。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・期待を込めての部分が大きいですが、現状以上の悪化はないとみられる。物価は徐々に安定していくと予測している。
	□	職業安定所（事業所担当）	・業種によって求人の状況に違いはあるものの、大きな変化はみられないことから、当面はこのままの状況が続くと考えている。しかし、中東情勢がこれから景気にどのような影響を及ぼしていくのか予想できない。
	□	民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・大手人材紹介会社の動向次第である。
	□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・人手不足による構造的な売手市場は継続しているが、新卒採用枠の拡大によるものではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	人材派遣会社（支店長）	・これからゴールデンウィークもあり、人の動きが鈍化することが見込まれ、厳しい状況となる見通しである。
	▲	人材派遣会社（求職者対応）	・4月入社希望の人の採用が決まり、例年どおり応募は減少する。
	▲	人材派遣会社（事業部長）	・先行き不透明な状況により、受注求人数の一部にキャンセルが生じている。
	▲	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・AIの台頭と企業の生産性向上を背景に、スキルを持たない新卒の採用目標数を減らす動きが一部出始めている。
	▲	職業安定所（職員）	・大手事業所の閉鎖報告が複数あり、雇用や失業情勢の悪化が見込まれる。
	▲	職業安定所（職員）	・ガソリン価格や原油価格の高騰が生活を圧迫しており、ガソリン以外にも物価の上昇が続いて生活に影響を与えている。世界情勢が不安定ななか、景気も先行きが見通せない状況である。
	▲	職業安定所（事業所部門）	・燃料費や物価の上昇による家庭や企業の負担増加、更に地域の主要企業の解散発表など不安要素が多い。
	▲	民間職業紹介機関（職員）	・求人数の高止まり感はあるものの、以前と比べると採用ハードルが上がっているとみられる。妥協してまでは採用しないという姿勢がみられ、結果として年単位で探し続けている求人が幾つも見受けられる。
	×	学校〔大学〕（就職担当）	・世界情勢や石油の輸入、米国の関税など良くなる材料がない。

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	◎	－	－
(四国)	○	商店街（代表者）	・物価高、原油価格高騰等による不安もあるが、政府の迅速な経済対策が期待できる。このまま人出も増え、消費者マインドも上昇する。
	○	商店街（代表者）	・川沿いで開催している月1のマルシェは引き続き人気を維持している。また連動して川沿いから街路へ、街路からアーケード街へと展開に広がりが出てきた。また開催回数も増加しており、回遊性も伴ってきた。
	○	衣料品専門店（経営者）	・比較的順調な出だしである。気候も良く、順調に行くと前年を上回る。ただし、原油価格の高騰などで今までと雰囲気が違うこともあり、客が購入に対し慎重になると厳しい。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・飲食や食品、サービスのいずれも上向いている。来客数は計画を大きく上回って推移しており、5月の繁忙期においても順調な推移が期待できる。
	□	商店街（常務理事）	・中東問題が長期化しており、先行きが見通せない状況にある。消費者心理を下押しするネガティブな要因として受け止められており、物価高と併せて、当面は消費に前向きな動きが出てくるとは考えにくい。
	□	商店街（代表者）	・中東情勢の影響による燃料価格高騰の懸念があり消費者の行動は停滞気味になってきている。
	□	百貨店（マネージャー）	・中東情勢を始め、先行き不透明である。
	□	スーパー（店長）	・長引く物価高や目下の中東情勢などにより先行きが見通せない状況である。
	□	スーパー（店長）	・中東問題の解決と消費税の詳細が決定するまでは、現状維持で推移する。
	□	スーパー（企画担当）	・単価上昇は更に続き、客の比較購買や買い控えが発生してくる。
	□	スーパー（人事）	・経済対策が発動し効果が出るまでには時間が掛かる。
	□	スーパー（財務担当）	・地方自治体によるプレミアム付商品券の交付が本格化すれば、値上げによる消費マインド低下の下支えとなる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・物価高は止まらず、景気は良くならない。
	□	家電量販店（副店長）	・物価高などの影響が続き、景気回復は見込めない。
	□	乗用車販売業（営業担当）	・今後も販売停止車種が続く見込みであり、物価高もあり購買意欲は低下した状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	□	乗用車販売店（従業員）	・原油価格の高騰を受け物価高も避けられないなか、客の購買意欲は低下しており、景気の回復は期待できない。	
	□	乗用車販売店（役員）	・経済対策や世界情勢が不透明であるため景気回復は見込めない。	
	□	一般レストラン（経営者）	・原材料高により、販売価格を値上げした。例年は忙しい時期であるが、今後は値上げの影響が出てくる。	
	□	旅行代理店（部長）	・物価高や国際情勢から難しい状況が続いている。	
	□	タクシー運転手	・今後もお遍路の仕事があることから売上は現状維持で推移する。	
	□	タクシー運転手	・食品の値上げやガソリン価格が上昇しているにも関わらず、それらの影響を懸念する声を聞かないことから、2～3か月先も現状と余り変わらないと判断する。	
	□	観光遊園地（主幹）	・インバウンドを中心に、引き続き現状程度の来客数が見込まれる。	
	□	設計事務所（所長）	・国際情勢に非常に不安を感じており、建設業界においてもまだ価格が上昇する。	
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・前年に続き今年も商品の値上がりが続いているため、売上は減少する。	
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	・仕入価格の高騰と品物不足が続いている。	
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	・物価高で消費者の節約志向は加速する。	
	▲	スーパー（企画担当）	・緊迫する中東情勢により、エネルギー等のコスト増加が見込まれるなかで、更に物価は上昇する。春闘による賃上げはあるものの、依然として消費に対する警戒感がある。	
	▲	スーパー（統括担当）	・中東情勢によって物価高に拍車がかかっている。	
	▲	コンビニ（店長）	・商品価格の改定、物価高のなか目先の生活防衛のため、節約志向が強まる。4月は入学や進学に伴う支出があり、その他の買物は控えられる。	
	▲	コンビニ（店長）	・物価上昇の影響が出ている。今後も価格の上昇が予想されるため節約志向が更に強まり景気は悪化する。	
	▲	コンビニ（総務）	・前年度開催された芸術祭の反動の影響が見通せないが、来客数は大きく減少すると見込んでいる。	
	▲	衣料品専門店（経営者）	・中東情勢の影響により景気は悪化する。	
	▲	家電量販店（店員）	・前倒し需要の反動と価格上昇の影響により買い控えが起こる。	
	▲	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・ガソリン価格の上昇やその他商品も値上げが見込まれていることから、外食産業にも影響があり買い控えが進む。	
	▲	観光型旅館（経営者）	・ガソリン価格上昇や石油製品の価格高騰により旅行需要の動向が不透明である。	
	▲	都市型ホテル（経営者）	・石油関連を中心とした物価の上昇から先行きが不透明であり、人流が制約されている。	
	▲	通信会社（営業部長）	・新年度は例年動きがない傾向にある。現時点で上昇する要因はなく、現状維持で推移する見込みである。	
	▲	通信会社（営業担当）	・様々な商品の値上げの影響があり節約志向は強くなる。	
	▲	美容室（経営者）	・ゴールデンウィークで県外からの客がどれくらい来るかがポイントになる。	
	▲	美容室（経営者）	・例年3月は繁忙期であり売上は確保できたが、今後さらに良くなる要素がない。	
	×	コンビニ（商品担当）	・中東情勢や原油価格の高騰等不安要素が多い。	
	×	衣料品専門店（営業責任者）	・原油価格や商品価格の高騰で、消費行動を活性化させる話題や雰囲気がない。店頭でも同様であり、景気は悪化する。	
	企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—
		○	繊維工業（経営者）	・春夏の需要期であり、しばらくは好調が続く。
		○	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・ゴールデンウィークに掃除をする人が増えるため、今後はウェットクリーナーの売上が増加する。キッチンペーパーは生産が追いついておらず、生産力が上がれば更なる売上増加となる。
□		一般機械器具製造業（経理担当）	・中東情勢に左右される。	
□	電気機械器具製造業（経理）	・中東問題により政治・経済が影響を受けており、その状況が当面続くことが予想される。特に石油関連の価格高騰による経済への影響が出てくる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	建設業（経営者）	・今までと大きな変化はない。金利の上昇が不安要因である。
	□	建設業（経営者）	・官民とも工事が少ない。
	□	通信会社（総務担当）	・次年度への受注積上げができていない。
	□	通信業（企画・売上管理）	・例年3月は需要が活発な時期である。今後も同様の景気を見込んでいる。
	▲	食料品製造業（商品統括）	・中東問題は解決まで時間を要する可能性が高い。食品業界は、原料の輸入品も多く、燃料費、包材費、輸送費高騰による買い控えが懸念され、景気は悪化する。
	▲	鉄鋼業（総務部長）	・中東情勢の影響が継続し、仕入コストが増加する。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・資源、原料が入手できなくなる状況になっており、景気は悪化する。
	▲	建設業（総務）	・中東情勢で先行きが不透明である。
	▲	輸送業（経営者）	・燃料価格が不安定である。
	▲	金融業（副支店長）	・中東情勢の影響で原油価格が高騰しており景気が悪化する。
	▲	不動産業（経営者）	・物価高により景気に減速感がある。
	▲	広告代理店（経営者）	・物価高の懸念があり、多くの取引先は販売促進広告を削減している。
	▲	広告代理店（経営者）	・現状では好転する材料がない。
	▲	税理士事務所	・中東情勢の影響により、まだ物価が上昇する。
	×	食料品製造業（経営者）	・中東情勢や為替の影響で原材料価格の高騰が予想される。コストの上昇全てを製品価格に転嫁できないため利益は減少する。
×	木材木製品製造業（営業部長）	・中東情勢の影響を受け樹脂シート関係、接着剤、こん包資材などの資材入荷が不透明の状況、また値上げの要請もあり生産に影響がある。販売価格の値上げをしなければ今期は大幅に利益が減る。	
×	化学工業（所長）	・製品価格の高騰は避けられず、景気は悪化する。	
雇用関連	◎	—	—
	○	—	—
(四国)	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	・大きく変化する見込みがなく現状維持で推移する。
	□	民間職業紹介機関（所長）	・新年度の求人募集が開始されたが、前年までと比較して特に変化はみられない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・現時点で求人状況に変化はない。原油不足、物価の上昇、賃上げの動き等、企業収益に影響を与える要素があるため、今後の動向は不透明である。
	▲	人材派遣会社（総務部長）	・最低賃金引上げによる影響がある。
	▲	求人情報誌（営業）	・中小企業は新卒採用で苦戦している。初任給の大幅な引上げも困難であることから、今後の採用も苦戦する。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	・異動時期が落ち着き、求人数が減少する。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・民間企業の業況が回復しない限り、当県全域の景況感是好転しない。
	×	職業安定所（求人開発）	・為替変動や原油価格の高騰が資材費・原材料の輸送費に大きく影響してくる。先行きが不透明である。

### 11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (九州)	◎	—	—
	○	商店街（代表者）	・4月にはインバウンドの船が多数寄港する予定になっているため、その効果に期待している。
	○	家電量販店（従業員）	・先週から新生活に向けての家電の購入が一気に増えている。
	○	乗用車販売店（役員）	・4月に税制改正の施行開始が決定すれば、一気に販売量が増えるの見込んでいる。
	○	一般レストラン（スタッフ）	・当市が発行するプレミアム付商品券により一時的に消費が増加すると見込まれ、来客数は多少増加する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・ゴールデンウィークなどのイベントが多い時期は、市況は盛り上がり、需要が活性化する。また、連泊での利用も国内客やインバウンドを見込めると予想している。
	○	タクシー運転手	・旅行客の増加傾向やタクシー料金の値上げで、売上は上向きになると予想している。
	○	タクシー（統括者）	・稼働台数が増加した分、売上も増加するため、景気は若干良くなる。
	○	通信会社（社員）	・従業員のモチベーションを高める施策によって、売上増加につながると考えている。
	○	美容室（経営者）	・これからの景気回復は難しい状況であるが、世界情勢によっては、2～3か月先に急に原油価格が落ち着き景気回復につながることも考えられる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・中東情勢で難しい状況ではあるが、客との協議で新年度の委託費の値上げ等の了承もあり、景気が良くなることが期待できる。
	□	商店街（代表者）	・小規模小売業の商店街全体で低迷が続いているため、景況は良くない。商店街から大型ショッピングセンターに客が流れている。商品が低価格であるため、売上は従来より低くなっている。物価上昇の多くは食料品等で、衣料品等は低価格のままであるため、景気は変わらない。
	□	商店街（代表者）	・全体的な物価上昇やイラン情勢の行方を不安視している。ベースアップで収入が増えても物価上昇で支出が大きくなるため、現状より若干悪くなる可能性がある。
	□	商店街（代表者）	・景気回復は収入が増えなければ見込めず、原油の値上がりで物価は更に上昇するとみられるため、消費はより慎重になると危惧している。
	□	商店街（代表者）	・賃上げについて、大手企業の回答は明るい状況だが、地方では余り話題にならない。中東情勢による影響が大きいため、まだ景気は上昇せず懸念される。
	□	商店街（代表者）	・商店街の専門店が客が減少しており、今後も苦戦が続く経営となる。
	□	百貨店（経理担当）	・エネルギー価格の上昇等に伴い消費者物価の上昇も想定されるため、客の節約志向は続き、今後の売上に期待できない。
	□	百貨店（リーダー）	・今月は春の異動に伴う贈物やイベントにおける春物の婦人服、バッグに動きがあり、景気が良い傾向にある。今後はゴールデンウィークで需要が高まると予想され、今月と同様の動きになる。
	□	スーパー（店員）	・賃上げが大手だけでなく中小企業まで行き渡らなければ景気は変わることはない。
	□	スーパー（総務担当）	・消費者の生活防衛、節約意識の強まりはますます厳しさを増し、具体的な景気対策が実際に施行されなければ、業界を取り巻く景気はなかなか良くならない。
	□	コンビニ（経営者）	・国際情勢を起因とした石油問題などの不安要因はあるものの、客の消費マインドに大きな影響を与える状態にはなっていない。
	□	衣料品専門店（取締役）	・3か月後も何も良くなる兆しがみえない。不安定な世界情勢は続き、内政も決まっていないため、引き続き節約や投資などに頼らざるを得ない状況である。
	□	家電量販店（店長）	・物価高の流れが止まらなければ消費は回復しない。
	□	家電量販店（店長）	・来客数、客単価は共に苦戦している。景気が回復するための要素が見当たらない。
	□	乗用車販売店（代表）	・景気が変わる要因が見当たらない。
	□	住関連専門店（経営者）	・円安が進み、中東情勢は収束しないため、石油の輸入に深刻な影響が出ている。物価が上昇し先行きが不透明である。
	□	住関連専門店（従業員）	・当市では、3月30日からプレミアム付商品券利用が開始されるが、額面も低く、使用できる店舗数が非常に多いため、当店への波及効果は余り期待できない。
	□	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・異動関係は一段落し、4月からは新規客が増加する傾向にあるが、増加件数は予想がつかないため、前年と変わらないと考えている。
	□	観光型ホテル（専務）	・世界情勢の影響により景気動向が全く分からないため、景気が良くなることを願っている。
	□	観光型ホテル（総務）	・当面の間、現状で推移すると見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	旅行代理店（統括者）	・景気の変動により、渡航先動向の変化や旅行単価の上昇が考えられ、前年比の傾向値に大きな変化がみられない。
	□	タクシー運転手	・タクシーの運転手不足により、車体台数のフル回転が難しくなっている。
	□	通信会社（企画担当）	・来年度に向けた見積り依頼や相談は一定数みられるものの、現時点では具体的な発注時期や案件の動きが見えにくい状況である。顧客の投資判断にも大きな変化はなく、2～3か月後についても販売量は現状と大きく変わらない。
	□	通信会社（営業担当）	・消費拡大の起爆剤となるような話題がないため、景気は変わらない。
	□	通信会社（企画担当）	・光回線の需要に影響するような要因が見当たらない。
	□	通信会社（役員）	・燃料費の高騰が改善されると、地域経済は変わらず推移していくと考えている。
	□	テーマパーク職員	・国内客の減少傾向が続いている。
	□	競馬場（職員）	・競馬が盛り上がるシーズンとなるが、不安定な世界情勢を背景に余暇事業である競馬の売上の伸びは不透明である。
	□	美容室（店長）	・様々な物の値上げで消費者は不安になるため、景気が良くなるとは考えられない。
	□	学習塾（従業員）	・客からの問合せが少ないため、2～3か月先の売上に繋がらない状況である。
	□	住宅販売会社（従業員）	・2026年度も住宅補助制度や住宅ローン減税の継続はあるが、資材価格の高騰等による建築費増加により、中古物件の検討や他社との競合等で厳しい状況が続く。
	▲	商店街（代表者）	・4月までは年度初めの商戦があるため景気は上向きである。しかし、その状況はゴールデンウィーク前までと推測され、以降の景気は減退すると予測している。
	▲	商店街（代表者）	・イラン情勢やウクライナ情勢が長引くと石油製品など高騰し、売上が若干悪くなると予想されるが、事態が沈静化されると状況はやや回復する。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店員）	・現時点でも原材料が高騰しているが、更に原油価格高騰の影響が原材料の価格にも響くため、景気は悪くなる。
	▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・減税措置を検討しているが、多少の減税では財布のひもは緩くならない。また、円安で物価高騰は続き、売上は伸びていないため、早めの経済対策を期待したい。
	▲	百貨店（企画担当）	・梅雨に入り、大きなモチベーションがなく、クリアランスセール待ちが増えると予想している。
	▲	百貨店（企画担当）	・イラン情勢による原油の影響が、悪影響を及ぼすと予想される。
	▲	百貨店（企画担当）	・イラン情勢が不安要素となっている。政府の対策としてガソリン補助金などで消費低迷の要因が緩和されるものの、先行きが見通せないため消費動向は悪くなる。
	▲	百貨店（営業企画担当）	・補助金等の一時的な経済対策では、抜本的な消費意欲の向上にはつながらず、節約志向は継続する。
	▲	百貨店（業務担当）	・物価が上昇しているが、それは一時的な上がり方ではなく高止まりしたままである。先行きを懸念している客がここ数年で1番多いため、今後の消費行動に多大な影響が出てくる。
	▲	スーパー（店長）	・イラン情勢の影響はまだ続くと予測されるため、更なる物価高騰につながり、景気後退になると予測している。いかにコストの高い商材を販売できるかがポイントになる。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢の不安から、より一層の物価上昇が懸念される。一時的な給付支援や減税では根本的な解決にはつながらず、景況感は悪化すると考えている。
	▲	スーパー（企画担当）	・イラン情勢に左右されるとみられる。政府の備蓄放出や補助金によりガソリン価格を抑えているが、依然として高水準に変わりなく回復は見込めない。
	▲	スーパー（経理担当）	・このまま原油価格高騰が続くと、あらゆる商品が値上がりし、景気は悪化すると推測している。
	▲	スーパー（従業員）	・イラン情勢や人材不足などで経済が不安定となっており、小売や流通業の度重なる値上げで今後の景気は悪くなっていく。
	▲	コンビニ（経営者）	・物価高の影響により、価格が高いコンビニでの買物は敬遠されている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	コンビニ（経営者）	・生活防衛意識は更に高まり、よりリーズナブルな業種に流れていくと危惧している。
	▲	コンビニ（経営者）	・中東情勢による原油価格の高騰でガソリンやその他エネルギー価格が上昇し、個人や企業の経費増加につながり、一般消費は落ち込む。
	▲	コンビニ（経営者）	・客の購買意欲に変化がある。原因は商品単価の大幅な値上げや物価上昇である。商品によっては、前年の150%から200%に値上げされており、客の買い控えが見受けられる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・燃料費の高騰が生活に直接影響を及ぼすと予想している。
	▲	コンビニ（店長）	・イラン情勢の影響が、多方面にわたり多大に現れている。
	▲	コンビニ（エリア担当・店長）	・来客数が伸長する要因はなく、人件費も上がっているため利益が増えない状況である。全体的に物価が上昇しており、買い控えが進むことを危惧している。
	▲	衣料品専門店	・未だ改善をするような具体的な事柄がない。
	▲	家電量販店（従業員）	・先行きが見通せない世界情勢のなか、今後も様々な商品の値上げが続くとみられる。消費者1人当たりの購入点数の減少、ロープライスゾーンの売上拡大が続いていることから、消費者における生活防衛意識の高まりを感じている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・今月は決算の特需はあるが、3か月後は閑散期になるため、売上はやや落ちる。
	▲	乗用車販売店（役員）	・中東情勢による燃料や販売商品、各種部品の高騰が、客の消費マインドにどれくらい影響を与えるのか、心配している。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢が不安定であるため、原油価格の高騰を懸念している。
	▲	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	・流行しているシールの特需が長続きするとは考えられず、前年からのヒット映画の売上水準には届かないと考えている。キャラクター商品などの雑貨アイテムの流行が新たに生まれることに期待しつつも、今は特需に湧いているに過ぎず、景気はやや悪くなる可能性が高い。
	▲	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	・原油価格の変動が消費生活に与える影響を考えると、賃上げがあっても実質賃金と中小零細企業の賃上げが生活を改善するほどではないと推測している。インバウンドは円安が進行して好影響を及ぼしているが、現状維持から大幅に上がることは予測できない。
	▲	観光旅館組合（職員）	・物価高やガソリンの価格高騰などで先行きが不透明なことから、その影響が出てくる可能性が考えられる。
	▲	観光型ホテル（営業）	・3月の来客数は一時的に良かったが、今後の状況は今一つと判断している。
	▲	観光型ホテル（支配人）	・物価高騰が大きく影響しており、今後の予約も前年と比べ減少しているため、利益を圧迫すると懸念している。
	▲	旅行代理店（職員）	・対面カウンター事業を撤退させたことにより、販売量が低下していくことが懸念される。
	▲	旅行代理店（統括者）	・中東情勢に関する影響が大きく出てくると懸念している。
	▲	通信会社（業務担当）	・新電力の営業では、イラン情勢の影響が出てくると予想されるため、先行きは不透明である。
	▲	観光名所（職員）	・石油価格の高騰が続くと様々な物が値上がりし、景気低迷のおそれが危惧される。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・中東の原油に関する問題が長引けば更なる悪化が懸念される。
	▲	理容室（経営者）	・客は年度末で仕事が忙しくなる。美容業界では、客が就職や進学などで転居した場合、減少した来客数は2～3か月は戻らないため苦しい状態になる。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス]（管理担当）	・暫定税率の廃止に伴うガソリン価格の低下で訪問介護事業の移動コストの減少を期待していたが、中東情勢の影響によりホルムズ海峡が閉鎖となり、ガソリン価格はそれ以上に高騰している。また、石油を原料とする手袋等の消耗品も手薄感が出ており、経営やサービスに大きなマイナスとなっている。
	▲	設計事務所（所長）	・今月は、打合せ等の資料が少ないため、3か月後の景気は今日よりやや悪くなる。
	▲	設計事務所（代表）	・金利上昇による買い控えが続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔生花〕 (経営者)	・5月には母の目があり需要はあるが、3月と比較すると売上が落ちると予想している。
	×	百貨店(営業担当)	・公共料金や原材料の値上げが要因となり、売上が悪くなる。
	×	百貨店(経営企画担当)	・原油価格の高騰による影響のため、購買力の低下や、輸送費、光熱費等のコスト増加が見込まれる。
	×	衣料品専門店(店長)	・客は様々な価格が上昇する状況を見極めるため、景気が良くなるとは考えられない。
	×	家電量販店(店員)	・今後の急激な物価高に直面し、消費者の考え方に変化が出てくる。
	×	高級レストラン(経営者)	・原油価格が上昇し、情勢が落ち着いていないため、接待などの会食の動きは少なく、先行きは良くないと判断している。
	×	スナック(経営者)	・中東情勢の影響により、ガソリン価格の上昇や物価上昇、先行き不安などの理由により、消費行動が節約モードに入り、法人団体客も減少すると考えられる。
	×	美容室(経営者)	・6月は梅雨に入りイベントもなく、物価高の影響によりおしゃれに金を使う人がかなり減る。そのため、売上が減少し、今後の生活が危惧される。
	×	設計事務所(所長)	・中東情勢の混迷がいつまで続くのか不透明であるが、エネルギー関係や石油化学製品への影響が大きく、生活必需品への影響も無視できない。
	×	住宅販売会社(従業員)	・現状では、株価などマーケットには影響はないが、石油価格の上昇が激しくなると予想される。そのため、国内の景気は、生産調整や価格転嫁などで商品が売れず景気が悪くなっていく。
企業 動向 関連  (九州)	◎	電気機械器具製造業 (経営者)	・更なる受注増加を見込んでいる。
	○	家具製造業(従業員)	・4月以降は徐々に案件情報が増えつつあり、プロジェクトの規模も比較的大きくなっている。
	○	電気機械器具製造業 (取締役)	・規程は賃上げもあるが、それ以上に当社の取扱製品や商品の販売見通しが強気となっている。
	○	電気機械器具製造業 (総務担当)	・顧客メーカーの売上予測によると、景気はやや良くなる。
	○	輸送用機械器具製造業 (営業担当)	・中東情勢の影響を除けば、新規車両の生産台数が大きく増えることになり好調な見通しとなる。
	○	その他製造業〔産業廃 棄物処理業〕	・現状の生産量から更に上向きの予想があり、原油の価格が落ち着けば更に好調になりうると考えている。
	□	化学工業(総務担当)	・当面の間、現状の損益状況が続くと想定される。
	□	一般機械器具製造業 (経営者)	・景気の先行きは不透明であるが、新年度には客の動きや生産計画、材料費、入荷状況、半導体需要などにおける課題が改善され、動きが変わってくると予想されるため、若干状況が良くなることも考えられる。
	□	輸送業(従業員)	・原油価格の安定や日中関係改善などの問題が山積しており、解決の糸口がみえない。
	□	通信業(職員)	・来年度の受注目標と比較すると、営業件数や情報が不足している。今後の営業活動及び情報収集で充当できると考えているが、受注量が目標を超えて大きく好転する要素も現時点では見当たらない。
	□	通信業(統括者)	・サイバーセキュリティ対策等への対応を怠るリスクの大きさが、投資を後押しする要因となっている。一定の需要が続く見通しではあるが、当面は慎重姿勢が続くとみられる。
	□	通信業(経理担当)	・新政権の経済対策による直接的な影響は現時点ではないが、既存顧客からの底堅い引き合いがあり、当面は今の景況感が続くと思われる。
	□	金融業(経営者)	・会員増加の改善策を検討しているが、成果があっても横ばいで推移すると予想している。
	□	金融業(調査担当)	・中東情勢により、原油価格の上昇が懸念され、影響を受ける事業者が出てくる。
□	金融業(調査担当)	・景気は現状と同程度で推移すると見込まれるが、中東情勢の緊迫化によって、地元経済では先行きへの不透明感や物価上昇の圧力が強まっており、混乱が長期化すれば景気は下振れするおそれがあると推測している。	
□	広告代理店(役員)	・中東情勢によるリスクが、景気の悪化要因となり得る。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	経営コンサルタント（社員）	・節約する家庭が増えている。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に変化がない。
	□	経営コンサルタント（社員）	・この3か月間ダイレクトメールを発送しているが、ほとんど反応がないため今後を危惧している。
	□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・現時点での市町村の新年度の予算公表をみると、高齢者の介護や障がい者の福祉に関する計画策定の業務が見直しのため予算化されている状況にあるが、受注が見込めていないため景気は変わらない。
	▲	農林水産業（経営者）	・4～5月の動きは2～3月と比較するとかなり良いと予想していたが、中東情勢の影響から石油製品の値上がりなどが想定される。悪い条件が重なるため、消費者心理は守りの姿勢に入り冷え込むとみられる。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・取引先が主に自治体であるため、当初予算の確定までは購入手続に入らない。
	▲	金属製品製造業（事業統括）	・原油価格の高騰により景気はやや悪くなると見込んでいる。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の話では、今後の先行きは不透明で危惧している。
	▲	輸送業（従業員）	・原油価格の動向で変化があるとみられるが、販売価格が大きく上昇する可能性があり、動きは低下していく。
	▲	輸送業（総務担当）	・原油価格の高騰により買い控え、外出控えが予想され、様々な方面で悪影響がみられ、物流においては直接的な経費が上昇する。
	▲	金融業（営業）	・慢性的な物価高が、中東情勢の影響により一層高騰する可能性がある。今春の賃上げを大きく上回れば、景気は悪くなる。
	▲	金融業（営業担当）	・イラン情勢次第ではあるが、借入金の金利や人件費、物価上昇などの状況に変わりはなく、今後の事業者の活動は下降気味になると予想される。
	▲	不動産業（経営者）	・現状では、今後の仕事の受注等が余り芳しくないため、景気は回復しないと予想している。
	▲	新聞社〔広告〕（担当者）	・世界情勢の影響で、景気はやや悪くなる。
	▲	広告代理店（従業員）	・世界情勢の変化が拡大傾向にあるため、今後も物価は押し上げられ、生活は更に苦しくなる。当社の業績についても悪化が続いており、3か月後も景気はやや悪くなる。
	×	繊維工業（営業担当）	・海外生産にシフトしていくメーカーが多くなっており、国内工場では少なくなった仕事を取り合っている。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・4月からの料金改定も順調でスタッフ給与も上がり、新規注文についても新年度の賃金テーブルに合わせた見積金額が順調に承認され、支払や請求どちらも単価上昇が見込まれる。
	○	人材派遣会社（社員）	・求人関係のバランスに関して、早くから情報把握をすることで、先付けの求人情報とスタッフの動きを把握しているため、2～3か月後には新しい動きがある。
	□	人材派遣会社（社員）	・新卒採用により企業の人員は一時的に充足しているが、例年、早期離職も一定数発生しており、欠員補充の依頼があると見込まれる。人材需要は安定的に存在するものの、新規増員というより補充ニーズが中心となっており、需要の総量としては大きな伸びはない。
	□	人材派遣会社（社員）	・求職者数は、依然として前年割れを起こしており、今後も大きな改善は見込まれない。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	・気候が良くなるにつれ、景気に期待感を持っている。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・グローバル化のなか、中東情勢や円安などの国際情勢の影響を国内の景気動向だけでは計れないが、国内での影響はまだ少ない。採用面でも正社員の求人数が増え、採用の質が問われる局面に入っている。
	□	職業安定所（職員）	・現時点でガソリン価格の急騰による大きな影響はないが、今後の情勢を不安視する声が多く聞かれるため、注視していく必要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	職業安定所（職員）	・人手不足が続き、採用意欲に大きな変化はないが、原油価格の高騰等によって管内事業所にもたらされる影響が不透明である。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・物価高騰への懸念や国際経済の不確実性がますます高まり、景気が上向く実感がない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ガソリン代などが高止まりし、中東情勢の影響にもよるが、今後使用量の節減などが求められた場合、企業や消費者の活動量が鈍化するとみられる。その他の物価への影響も考えられ、消費活動も買い控えや様子見になるものと推察される。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・物価上昇や消費控え、企業のコスト増加等の要素が重なり、徐々に影響が出てくる可能性が高い。
	×	—	—

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (沖縄)	◎	家電量販店（営業担当）	・おきなわ省エネ家電購入応援キャンペーンの効果は、しばらく続くともみている。
	◎	観光名所（職員）	・来月より話題性のある展示を開始するため、景気が良くなるとみている。
	○	一般小売店〔土産〕（営業部長）	・入域観光客数は、5月のゴールデンウィークなど、休日に増加するとみている。
	○	百貨店（経営担当）	・新生活や母の日ギフト需要のほか、ゴールデンウィークなどで来客が増加するとみている。
	○	スーパー（企画担当）	・今後2～3か月先は、季節行事の好調を維持しつつ、5月の清明祭や大型連休に向けて需要が継続されるものと見込んでいる。物価高騰による節約志向は続くものの、行事等の支出意欲は底堅く、客単価の上昇が景況感を押し上げる要因になるとみている。
	○	その他専門店〔書籍〕（部長）	・新年度に向けて、沖縄への転勤や移住が多くなり、消費も増加するとみている。
	○	一般レストラン（代表者）	・歓迎会の機会が増えるともみている。
	○	観光型ホテル（企画担当）	・3月の販売室数が前年比12%増加であるのに対し、6月の予約室数は前年比28%増加しており、プラス幅が拡大している。
	○	通信会社（サービス担当）	・2～3か月先の景気は、今月よりやや良くなると見込んでいる。新生活需要に加え、契約見直しや機種変更の相談が増える時期でもあるため、来客数や販売機会が引き続き伸びるとみている。
	○	住宅販売会社（営業担当）	・物価上昇に対する理解が広まり、早期購入の割安感が強まっているともみている。
	□	商店街（代表者）	・店舗閉業後は飲食店の出店が多く、物販業が増えない状況であり、景気判断は一概にいえない。
	□	コンビニ（店長）	・ガソリン価格を始め、依然として高い物価水準であるため、景気は変わらないともみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・3月の景気は変化がない状態が続いている。季節が変わり、客の気持ちが変化することで景気が好転するとみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・中東情勢は見通しが困難である。原油の確保状況次第で景気は大きく変化するとみている。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・4月以降の値上げが続くことで、先行きに対する不安要素が強まっている。
	□	その他専門店〔陶器〕（製造）	・情勢が不安定なので見通しが難しい。
	□	観光型ホテル（総支配人）	・海外情勢に不安要素はあるものの、現状の予約状況が続くとみている。
□	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は、ほぼ前年並みで推移している。梅雨入りしている時期のため大きな動きは期待できない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	住宅販売会社（役員）	・売却査定への依頼や、実需物件への見学希望者は、3か月前と同水準で推移すると見込んでいる。しかし、金利上昇への警戒感から投資マインドは慎重になっており、特に軍用地等の投資用物件については、問い合わせの減少や価格調整の動きが続くとみている。
	▲	一般小売店〔酒〕（店長）	・原油高騰対策が急務だとみている。
	▲	スーパー（店舗管理）	・ガソリン補助の恩恵は一部で、原油価格が上昇すれば広範囲に影響が出るとみている。
	▲	コンビニ（店長）	・物価高騰の影響で支出が高額となる中、クーポンの利用や特売も増えている。
	▲	観光型ホテル（専務取締役）	・原油価格高騰に伴う物価や航空運賃等の上昇により、旅行需要の低下が懸念される。さらに、ガソリン価格上昇の影響で遠出を抑える動きが見られ、北部地域のホテルや観光施設などへの来客数が減少するとみている。
	▲	旅行代理店（マネージャー）	・今後、石油の供給不足によって外出も制限される可能性があるかとみている。
	▲	通信会社（営業担当）	・燃料価格の上昇と中東情勢を懸念している。また、賃金に関して、大企業は大幅にベースアップしているが、中小企業では厳しい状況である。そのため、結果的に消費は落ち込むとみている。
	▲	観光名所（職員）	・燃料価格の高騰で、景気はやや悪くなるとみている。
	×	コンビニ（経営企画担当）	・ガソリンや重油等の値上がりを吸収するのは非常に厳しいとみている。
	×	その他飲食店〔バー〕（経営者）	・ガソリンをはじめとする物価の上昇で、景気は後退するとみている。
	×	その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	・中東情勢を背景に、輸入製品の入荷遅れ、輸送費の増加、原材料の価格上昇などの影響が見込まれる。また、梅雨の時期は客足が落ち込みやすく、厳しい状況だとみている。
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	窯業土石業（取締役）	・来月以降、受注工事の増加に伴い、製造も増産し売上は増加するとみている。
	○	建設業（経営者）	・建築計画の相談も複数あり、技術者採用を推進する予定である。
	○	輸送業（総務経理担当）	・運賃交渉の成果だとみている。
	□	広告代理店（営業担当）	・基幹産業の観光は好調に推移しているものの、中東情勢による原油価格高騰への危機意識が高まることで、県内企業が販売促進投資を抑えるとみている。
	□	会計事務所（所長）	・国際情勢の先行きが不透明なため、景気判断の動向が困難である。
	▲	食料品製造業（役員）	・3～4月からの食品の値上げや中東情勢による石油関連製品の価格上昇が、生産コストに影響するとみている。
	▲	輸送業（経営企画室）	・原油価格上昇による影響が続くとみられる。
	▲	通信業（総務）	・中東情勢を背景とした石油供給不安によって、影響が出るとみている。
	×	—	—
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	—	—
	□	求人情報誌製作会社（審査）	・人手不足感は継続しており、今後も求人件数は増加傾向で推移する見込みである。一方、5月から6月にかけては求職者の動きが一服し、転職・就職活動はやや落ち着いた状態になるとみている。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人を前倒しで受けているため、前年同様、求人件数の減少は続くとみている。
	▲	人材派遣会社（総務担当）	・中東情勢が終息しない限り、景気は改善しないとみている。
	▲	学校〔大学〕（就職支援担当）	・中東情勢が今後の生活をより圧迫するとみている。
×	—	—	